Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-01

日本での就職活動において中国人留学生が抱える問題点-ビジネス日本語の教育内容への提言を目指して-

金, 晶晶

(Degree)
博士（学術）

(Date of Degree)
2020-03-25

(Date of Publication)
2021-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第7645号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007645

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

博士論文

日本での就職活動において中国人留学生が抱える問題点
−ビジネス日本語の教育内容への提言を目指して−

令和２年１月

神戸大学大学院国際文化学研究科

金晶晶

目　次

１　はじめに 1

２　先行研究の概観 4

２．１　ビジネス日本語の定義 4

２．２　ビジネス日本語の特徴と内容 4

２．３　ビジネス日本語教育の実施状況及びその課題 7

２．４　本研究での「ビジネス日本語」の定義 9

２．５　留学生が就職活動で直面している困難 9

２．６　留学生の SPI 模擬試験における解答実態 12

２．６．１　調査の概要 12

２．６．２　調査の結果 13

２．６．３　調査の問題点 15

３　研究目的及び方法 18

３．１　研究目的 18

３．２　調査方法 19

３．３　調査対象 19

４　ビジネス日本語教科書の現状 22

４．１　調査対象の選定 22

４．２　調査方法 25

４．２．１　分析対象 25

４．２．２　分析方法 26

４．３　調査結果 26

４．３．１　就職活動の各段階で必要な言語活動 26

４．３．２　前書きやテキストの使い方から見た結果 28

４．３．３　本文で扱っている内容 30

４．４　本章のまとめ 35

４．４．１　本章の考察 35

４．４．２　本章のまとめ 36

５　SPI の非言語能力検査に関する模擬試験調査 38

５．１　非言語能力検査における言語の影響についての予備調査 38

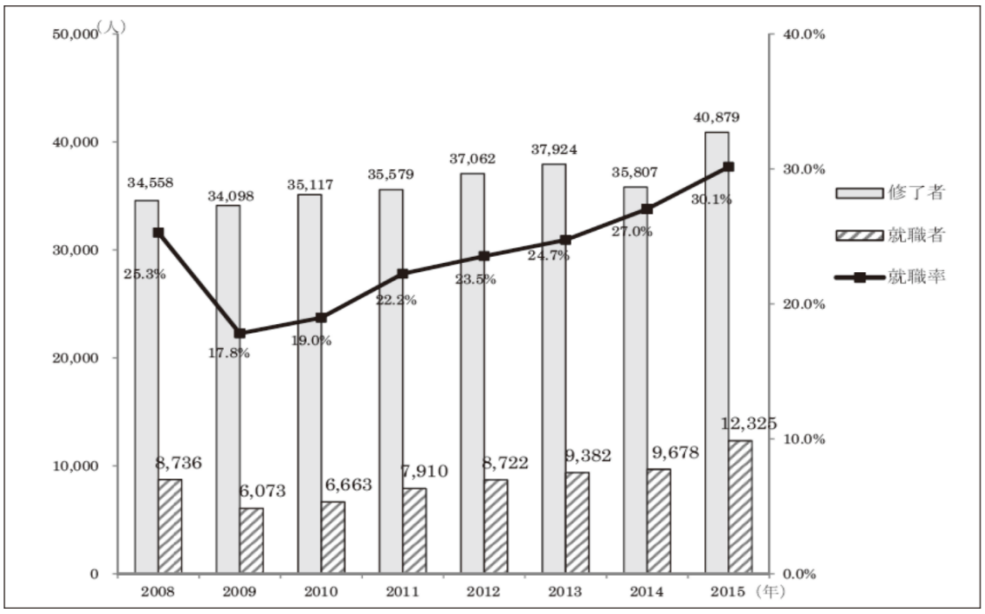
５．１．１　調査の概要.....39
５．１．２　予備調査の結果.....41
５．１．３　予備調査の問題点.....43
５．２　調査で用いる問題の検討.....44
５．２．１　調査の概要.....50
５．２．２　調査の結果.....52
５．２．３　調査の問題点.....53
５．３　調査資料の再検討.....54
５．３．１　調査の概要.....54
５．３．２　調査の結果.....57
５．４　非言語能力検査における言語の影響についての本調査.....59
５．４．１　調査の概要.....59
５．４．２　調査の結果.....60
５．５　本章のまとめ.....67
５．５．１　本章の結果.....67
５．５．２　考察と今後の課題.....68
６　エントリーシートの実例調査.....70
６．１　調査概要.....71
６．１．１　調査参加者.....72
６．１．２　調査の実施方法.....73
６．２　分析方法.....73
６．２．１　分析の観点.....73
６．２．２　エントリーシートの具体的な質問例.....76
６．２．３　評価基準及び分析方法.....77
６．３　調査結果.....80
６．３．１　評価結果.....80
６．３．２　エントリーシートの特徴.....84
６．４　本章のまとめ.....91
６．４．１　本章の結果.....91
６．４．２　考察.....93

７　おわりに 95
７．１　まとめ 95
７．１．１　ビジネス日本語の教科書分析.....95
７．１．２　非言語能力検査に関する調査.....96
７．１．３　エントリーシートの実例調査.....96
７．２　今後の課題.....97
参考文献及びウェブサイト.....99
参考文献 99
参考ウェブサイト 101
添付資料 104

1　はじめに

日本学生支援機構「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(2018)によると、日本にいる留学生の数は東日本大震災の影響と考えられる平成 23、24 年(2011 年、2012 年)の一時的な減少を除けば、増加の傾向にあり、平成 30 年の留学生数は 29 万 8980 人と過去最多である。一方、経済のグローバル化が進むにつれ、日本の企業は海外での会社設立や海外の会社と統合し合弁会社を起業する企業が増加している。このような状況の中、留学の成果を日本での就職や日本の企業への就職という形で実現したい、母国と日本の掛け橋になりたいと希望する留学生が増えている。滝内(2017)は日本学生支援機構の平成 20 年度から平成 27 年度「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」をもとに専修学校[1]等の卒業者数、日本国内の修了者、就職者と就職率の変化を図 1 のように示している。2008 年から 2009 年にかけて就職率が一過性的に低下しているが、それ以降は毎年上昇しており、2015 年における外国人留学生の日本での就職率は 30.1%となり、就職者数が初めて 1 万人を突破し、12325 人と過去最高の人数となった。

図 1　卒業(修了)留学生数と就職率の推移(滝内 2017:21 より転載)



日本学生支援機構「平成 27 年度私費外国人留学生生活実態調査」(2016)によると、日本で就職したいという留学生は 65%を占めているが、実際に就職できた留学生は就職希望留

[1] 大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、準備教育課程が含まれている。

学生の 29.3%しかいない。つまり、7 割もの就職希望者が実際には就職がかなわなかったことになる。株式会社ディスコ「海外留学生のキャリア意識と就職活動状況」(2013) はインターネット上で 2014 年 3 月に卒業予定の留学生を対象に、就職活動状況に関する調査を行った。その結果、留学生 325 人の約 8 割が就職活動状況は厳しいと回答していたと言う。以上のことから、日本での就職を希望する留学生は就職活動に困難を感じていることが分かる。一方、厚生労働省職業安定局外国人雇用対策課「企業における高度外国人人材活用促進事業報告書」(2010)では、企業側も留学生ないし外国人の採用に当たっては、「能力判定が難しい」(45.8%)、「求める日本語を有する人材が少ない」(29.5%)などの問題に直面していることが示されている。これも留学生が就職できない原因の一つだと考えられる。

日本貿易振興機構が海外ビジネスに関心が高い日本企業に対して行った「2017 年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査(JETRO 海外ビジネス調査)」(2018)によれば、外国人を雇用している企業は 45.4%、現在雇用はしていないが、今後採用を検討したいとする企業は 15.7%である。すなわち、6 割強の企業が外国人留学生を採用しようとしていることがうかがえる。では採用に際して、企業は外国人留学生に何を求めているのだろうか。

経済産業省の「平成 24 年度日本企業における高度外国人採用・活用に関する調査」(2012)の結果によれば、外国人留学生の採用時に重視することで圧倒的に高かったのは「語学力(日本語)」(70.3%)で、次いで「コミュニケーション力」(60.4%)である。株式会社ディスコが行った「外国人留学生/高度外国人材の採用に関する企業調査」[2](2017)でも、外国人留学生に求める資質については、文系・理系とも「コミュニケーション能力」(62.9%)が 1 位、「日本語力」(51.2%)が 2 位であり、協調性(27.6%)、異文化対応力(17.6%)と続く。また、外国人留学生に求める日本語能力について内定時にネイティブ相当及びビジネス上級レベルを求める企業は文系が 55.1%、理系が 47.6%だった。ネイティブ相当とはどのようなビジネス場面でも日本語による十分なコミュケーション能力があることを指すと説明しており、BJT ビジネス日本語能力テスト[3]の最上級の J1+の説明と完全に一致している。ビジネス上級レベルとは幅広いビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力があることとし、これが BJT ビジネス日本語能力テストの J1 の説明と一致している。この数値は入社後、文系が 85.8%、理系が 79.1%と更に増える。なお、「外国人留学生の就職及び定

[2] 2015 年度までの調査報告書の名は「外国人留学生の採用に関する企業調査」であったが、2016 年度の調査から「高度外国人材」という言葉が加えられることになった。この背景には平成 21 年から導入した高度外国人材受け入れ政策があると考えられる。

[3] BJT ビジネス日本語能力テストとは公益財団法人漢字能力検定協会が主催しているビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定するテストであり、J5～J1+の 6 段階の評価がある。

着状況に関する調査」(2015)では英語能力がある場合とない場合に分けて、留学生に求める日本語能力の程度を調査している。英語能力がある場合は J1+の日本語能力を求めている企業が 20.5%、J1 の日本語能力を求めている企業が 38.6%と、6 割弱が幅広いビジネス場面に対応できる日本語のコミュニケーション力を求めている。一方、英語能力がない場合でも J1+を求める企業が 25.9%、J1 を求める企業が 40.6%で、合わせて 7 割弱を占めている。以上のように、企業側が採用時から既に高い日本語能力を求めていることが分かる。近年、日本の大学等でも留学生の就職支援が行われるようになってきているが、そこで行われている「ビジネス日本語」教育はこのようなニーズを満たしているのだろうか。留学生の日本語能力と実際に就職の際に必要となる日本語の能力の間には、どのような差があるのだろうか。本研究では、留学生が就職活動において直面する日本語面の課題を探り、留学生が日本で就職するために、大学ではどのような指導や支援が必要かを検討したい。

以下本研究では、第二章で「ビジネス日本語」及びビジネス日本語教育についての先行研究を概観し、その問題点を探り、本研究での「ビジネス日本語」の定義を定める。その上で、留学生の就職活動で直面する問題点を明示し、就職筆記試験 SPI[4]に対する模擬試験調査の結果を示し、問題点と改善点を取り上げる。また、第三章では本研究の目的、意義、調査対象者について述べる。そして、第四章ではビジネス日本語教科書ではどのような内容を扱っているかを確認し、日本で就職を希望する留学生に対して、どのような指導や支援が必要かを検討したい。さらに、第五章では就職筆記試験 SPI の非言語能力検査の調査の結果、第六章ではエントリーシートの実例調査の結果を示す。最後に第七章では本研究で得られた結果をまとめ、今後の課題を述べる。

[4]「SPI」とは、synthetic personality inventory の略であり、株式会社リクルートキャリアが行っている就職試験の名称である。能力検査(言語能力検査と非言語能力検査)と性格検査から成る、個人の高度な資質を総合的に把握する検査で、採用・人事の判断材料として、幅広く企業が取り入れているテストである。

２　先行研究の概観

本章ではまず、「ビジネス日本語」について先行研究の記述を取り上げ、どのように定義されているのかを示し、ビジネス日本語の特徴と内容について検討する。そのうえで、ビジネス日本語の実施状況及び実施にあたっての問題点を確認し、本研究での「ビジネス日本語」について定義する。さらに、留学生が就職活動を行う際に直面する困難点を述べ、修士論文で行った就職活動の段階の鍵となる筆記試験 SPI に関する実態調査の結果を踏まえて問題点を提示する。最後に、博士論文で解決する課題について述べる。

２．１　ビジネス日本語の定義

高見澤(1994)ではビジネス日本語を「仕事のための日本語」、池田(2001)では、「仕事場で行われる職務に関係したコミュニケーションのための日本語」と定義している。近藤(2007)では非言語行動についても言及し、「ビジネスのための言語行動と非言語行動を含むコミュニケーション活動全般」と定義している。栗飯原(2015)はビジネス日本語を広義と狭義に分けて、「仕事実務上の目的のための日本語を広義のビジネス日本語、特定の職業のための日本語を狭義のビジネス日本語」と定義している。これらの定義からわかるように、従来のビジネス日本語はビジネス・仕事の場面を想定した、職務に関するコミュニケーションのための日本語を指している。

２．２　ビジネス日本語の特徴と内容

橋本(2011)によれば、通常大学で行われている日本語教育は、日常生活に必要な基礎的な日本語力を身につけ、大学や大学院での勉強や研究が行えるよう助けることを目的とした「アカデミックジャパニーズ」[5]と呼ばれるものである。また、同研究では、「ホウ(報告)、レン(連絡)、ソウ(相談)」の「ソウ(相談)」を取り上げて、大学で行われている日本語教育とビジネス日本語で求められている日本語を比較し、ビジネス場面で必要な言語的な要素やスキル、例えば「内容を整理したりまとめたりして要領よく話す」や「定型の表現やクッション言葉を用いる」などは、アカデミックジャパニーズと共通しているが、ビジネス場面で必要となる文化的要素「自己主張しすぎない」や「内面的な態度(謙虚さ、感謝、傾聴す

[5] 橋本(2011)では「アカデミックジャパニーズ」は、大学・大学院で学習・研究するために必要な日本語であり、単なるレポートを書いたり講義を聴いたりする言語としてのスキルだけでなく、日本語で理解し、考え、問題を発見して解決していく能力や、大学という社会の中で人間関係を円滑にしていくための能力も含むという。門倉(2006)では「アカデミックジャパニーズ」を大学で勉学に対応できる日本語能力に加え学び方を学ぶ教養教育や問題発見解決学習と組み合わせて定義している。

る態度)」などはアカデミックジャパニーズでカバーできないと指摘している。そのうえで、アカデミックジャパニーズでカバーできるものは用い、ビジネス場面に特有のスキルや項目は具体的に教えていくのが「ビジネス日本語」ということになるだろうと述べている。

海外技術者研修協会 (2011) ではアカデミックジャパニーズとビジネス日本語を比較し、「高度な日本語力の習得」という点においては共通しているとしつつ、次の 5 点をビジネス日本語の特徴として挙げている。具体的には以下のようである。

①ビジネスに関する語彙・表現の習得の必要性

②「日本で就職活動ができるようになる」、「仕事ができるようになる」という実利的な目的を重視する点

③日本のビジネスの背景にある非言語コミュニケーションを学ぶ必要性

④社会人教育およびキャリア教育という視点の必要性

⑤「大学と企業社会」「母国と日本」等の異文化性を概括し、学習する必要性

このように、①のような言語的な内容も含まれていれば、③と⑤のような日本のビジネス背景や異文化などの文化的な内容も含まれており、さらに、②と④のような就職活動や仕事などの行動面の内容も含まれているのがビジネス日本語の特徴であると言える。

仇(2016)ではビジネス日本語教育についての先行研究を「ビジネス日本語教育は何を教えるべきかに関する研究」と「ビジネス日本語教育現場に関する実践的研究」に分類している。それぞれに関する具体的な研究を表 1 のようにまとめる。

表 1　ビジネス日本語教育に関する先行研究の分類

何を教えるべきかに関する研究	教育現場に関する実践的研究
理論的な研究	現状報告
企業が求めるビジネス日本語	実践報告
ビジネス現場における ビジネス日本語の使用実態	教科書分析、その他

「理論的な研究」には、ビジネス日本語とは何か、ビジネスコミュニケーションとは何か、などの用語を定義するような研究がある。「企業が求めるビジネス日本語」にはビジネス日本語教育の内容を考える際、企業が求めているのはどのようなものかという調査がある。具体的に、企業の求めている内容を「言語面」「文化面」「行動面」の 3 点からまとめている。

そして、各内容で求められる教育目標を具体的に下記のようにまとめている。「言語面」においては、「聞く、話す、読む、書く」の四技能を上達させ、流暢に日本語を話せる、人間関係を維持するための待遇表現などが使える、ビジネスに関する専門用語が使えるという 3 点が要求されている。「文化面」では、ビジネスに関する知識を持つ、日本の慣習に関する知識を持つ、異文化理解調整能力を持つという 3 点が求められている。そして「行動面」において、社会人基礎力を持つ、問題解決能力を持つという 2 点が必要とされている。さらに、「ビジネス現場におけるビジネス日本語の使用実態」には、企業で働いている従業員にはどのような悩みがあるのか、受けた教育にどのようなフィードバックがあるのかについての研究がある。このように、ビジネス日本語の範疇は非常に広いことがうかがえる。また、「教育現場に関する実践的な研究」の中でもビジネス日本語教育がどのように行われているかについての「現状報告」に関する研究もあれば、ビジネス日本語の有効な指導方法を探るための「実践報告」も見られる。一方、ビジネス日本語教科書が学習者のニーズに応えているのか、どのような問題点があるのかについての「教科書分析」もある。そして「その他」には指導法の検討やコースデザインに関する研究がある。

これらの先行研究からビジネス日本語の範囲には、日本語の運用に関する「言語面」の内容と日本のビジネスや商習慣に関する「文化面」の知識のみならず、社会人基礎能力や問題解決能力といった「行動面」の内容も含まれることが期待されていると言える。では、大学等での実際のビジネス日本語教育の現場では、これらの要素を扱っているのだろうか。

経済産業省産業人材参事官室 (2007)「外国人留学生向けの研修のあり方について」では、国内の企業と元留学生への調査結果に基づき、日本での就職に当たって外国人留学生が取り組むべき課題を提示している。具体的にはビジネス日本語能力、ビジネス文化・知識への理解、グローバル人材としての能力及び社会人としての行動能力の養成の 4 つの側面を挙げている。中本(2016)でも、留学生を抱える高等教育機関における、留学生政策の範疇として必要な基礎教育支援には、ビジネスで通用するコミュニケーション能力(言語・非言語)、学生から社会人として巣立つための積極性・主体性、協調性、就職活動等における環境適応能力を中心とした留学生指導の 3 点をまとめている。また同文書では、「沖縄地域コンソーシアム」からプログラムの一部を紹介しており、これは沖縄地域に限定されたものというよりも、各地域で行われているコンソーシアムによるカリキュラムにかなり共通しているものと考えてもらいたいと述べている。プログラム内容は以下のようである。

①ビジネス日本語教育

a. 自分を知る

b. 日本と自国の違いを知る、企業・社会を知る

c. 仕事を知る

②日本ビジネス教育

a. ビジネス文化・基礎知識編

b. グローバル人材としての基礎修得編

c. 社会人としての行動能力

ここからも留学生政策の範疇として必要な基礎教育支援には、日本のビジネスや商習慣に関する「文化面」の知識のみならず、社会人としての行動能力といった「行動面」の内容も含まれていることが推察できる

２．３　ビジネス日本語教育の実施状況及びその課題

株式会社ディスコ(2011)は外国人留学生のビジネス日本語教育に関する調査結果を報告している。その結果、「既にビジネス日本語教育を実施しており、今後も継続ないし強化したい」とする学校は 201 校のうち 42 校であったが、「ビジネス日本語は実施していないが、今後は実施していきたい」とした学校が 79 校と、今後の実施や継続ないし強化の意思を示している学校が合わせて 121 校となり、全体の 60%にのぼる。また、日本漢字能力検定協会(2013)は大学におけるビジネス日本語教育の実施状況に関する調査を行った。その結果、「ビジネス日本語の必要性」についての質問に対し回答した学校 89 校のうち 40 校が「学生にビジネス日本語の必要性に関する意識付けを行いたい」と回答している。さらに、26 校が「大学でビジネス日本語指導を行い、就職までサポートしたい」と回答している。すなわち、大学でのビジネス日本語教育は現段階では必ずしも普及しているとは言えない。今後充実させていく意識があると考えられ、就職支援についての必要性も注目されつつあると言える。

堀井(2013)では、2007 年のアジア人財資金構想においてビジネス日本語教育が導入されることによって、ビジネス日本語は注目されるようになったが、それに関する体系的な研究と教育実践はまだ少ないと述べている。そして、大学における日本語教育では講義をより深く聞き、レポート・論文を書くことを目的とした「アカデミックジャパニーズ」教育が浸透し、これを担当する日本語教員が増えたところではあるが、留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育を手掛け、実施している大学や日本語教員はまだ少ないと指摘している。

袴田(2009)では、2000 年以降「就職支援、就職後に必要な日本語能力・技能」がビジネス日本語として認識されるようになり、様々な教材が出版されているものの、その多くが「就職後」を想定しており、留学生が日本で就職活動をする際に必要な情報を掲載している教材は少ないと指摘している。そして、日本企業への就職を希望する留学生には、日本語教育において、就職後に活用できるビジネス日本語と同時に就職活動に必要な日本語も必要であると主張している。

野元(2004)では留学生を取り巻くビジネス社会の変化を踏まえ、日本企業への就職を希望する三年次の留学生を対象に行った授業とアンケートを基に、大学の学部留学生に対するビジネス日本語教育の必要性と役割及び留学生の就職活動における課題について考察した。その中で、留学生に対する就職活動に関する情報の提供と就職活動に求められる日本語運用力の養成が喫緊の課題である述べている。

田中(2009)では留学生を対象に就職準備のためのビジネス日本語クラスにおけるピア・ラーニングの可能性を探っており、授業の具体的な構成には以下の 3 点があるとしている。

①日本の就職についての情報(業種・職種、留学生の就職に関する現状の紹介)

②エントリーシートや履歴書、Ｅメールなど文章表現に関するタスク、個人面接、グループディスカッションなど口頭表現に関するタスクの取り組み

③就職内定者や就職課職員とのビジターセッションの実行

このように、就職準備を考えた時、就職活動のあらゆる段階を扱うとする動きが見られる。留学生の就職支援を考えた際、ビジネス日本語教育も実施するべきであり、ビジネス日本語はアカデミックジャパニーズと異なる内容であるという認識はあるものの、ビジネス日本語教育で具体的にどのような内容を教えていくべきなのか、ビジネス日本語教育はどのように進められるべきかについての見解はまだ定まっていない。今までのビジネス日本語教育は主に実際の仕事をすることを想定し、「就職後」に焦点を当てた教育が行われてきたが、前述の野元(2004)や田中(2009)のように、就職支援を考えた教育内容もビジネス日本語の一部であることが認識されつつある。これらは就職支援を考えたビジネス日本語教育についての課題を提示し、自作教材を用いて、留学生が就職できるよう支援しようとしている。では、現在出版されているビジネス日本語教材の内容には留学生の就職支援を網羅できるものはないのだろうか、具体的にどのような内容を扱っているのだろうか。

２．４　本研究での「ビジネス日本語」の定義

このように、ビジネス日本語教育を実施している学校は増えつつあるが、就職前の内容を教えているところはまだ少ないと言える。しかし、前掲の袴田(2009)でも指摘されているように、就職後に活用できるビジネス日本語と同時に就職活動に必要な日本語も必要である。そのため、本研究では「就職活動の段階から就職後の段階まで実際に仕事をするうえで必要とされる日本語」をビジネス日本語と定義する。そして、本研究では就職前の段階に焦点を当てて、ビジネス日本語にどのような内容を取り入れるべきかについて議論を行う。日本企業が留学生を採用するにあたりどの程度の日本語能力を要求しているのか、就職前で必要な日本語能力とは一体どのようなものであるかを明らかにすることができれば、今後の留学生の就職活動に役立つだけではなく、大学におけるビジネス日本語教育のあり方を検討する際の参考にもなるであろう。なお、本研究での「就職前」の段階とは就職活動を始めてから、実際に内定をもらえる段階までを指す。そのため、就職前を就職支援という場合もある。

２．５　留学生が就職活動で直面している困難

経済産業省委託調査「外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査」(2015)によれば、留学生の採用方法については日本人学生と区別なく採用している会社が全体の７割を占め、英語による採用や選考を実施している会社はわずか１割しかない。つまり、企業は留学生に対して、高度な日本語力を求めていると言える。そして、同調査の企業側に対するアンケート調査結果では「外国人留学生の就職活動で改善すべき点」を問う質問に対する９つの答えのうち、「日本語能力が不十分である」という答えを選んだ企業が最も多く、全体の 38.9%を占めており、次は「日本企業における働き方への理解が不十分である」が 36.9%を占めている。ここから、企業が留学生に高い日本語能力を求めているのに対し、留学生の能力はその期待に達していないということが考えられる。また、採用時のポイントとして挙げられたものの中で、面接とともに語学力(日本語)が専門性や SPI[6]等の筆記試験といった他の項目に比べて、圧倒的に多かったという。

神谷(2010)では留学生は就職の段階で、就職試験の準備、自己分析、エントリーシートの書き方などに困難を感じており、自己分析の仕方や、エントリーシートでどう自己表現した

[6] 「SPI」とは、Synthetic Personality Inventory の略であり、株式会社リクルートキャリアが行っている就職試験の名称である。能力検査と性格検査から成る、個人の高度な資質を総合的に把握する検査で、採用・人事の判断材料として、幅広く企業が取り入れているテストである(ユーキャン就職試験研究会(2015)を参照)。

らいいかが分からないと述べている。守屋(2009)は留学生の就職活動は日本人学生の就職活動と異なるわけではないとしつつ、留学生にとって、日本の就職活動は日本独自の側面があり、理解しづらい部分が大きいと指摘する。そして、その困難点を就職活動の段階に応じて具体的に５つにまとめている。第一段階は、就職活動の前段階となる「インターンシップ」であり、第二段階はSPIをはじめとした日本の特殊な筆記試験の問題である。第三段階は、日本語の運用能力の問題とビジネスマナーの問題、第四段階は志望企業へのエントリーシートの記入や個人面接の受け答えの問題である。第五段階は日本人独特の考え方や習慣、感性への理解問題である。このように、留学生は就職活動のあらゆる段階で困難に直面していると考えられる。

留学生就職支援ネットワークのホームページでは留学生の就職活動における問題点をクオリティ・オフ・ライフ[7]「平成24年留学生調査」の結果を参考にまとめており、就職活動で苦労したことの数値化している。苦労したことで挙げられた上位 3 位はエントリーシートの作成(81.6%)、個人面接での対応(72.5%)と筆記試験・WEBテスト(70.8%)であり、いずれも7割強を占めている。

「外国人学生の就職と日本語能力に関する調査」レポート(2012)でも同じ傾向を示している。留学生が在学している大学を対象に調査を行い、留学生のビジネス日本語能力が課題になっている就職活動場面をたずねた結果、約 8 割の大学が何らかの課題があると回答している。具体的な課題の内容としては、「履歴書・エントリーシートを日本語で書く」「日本語で筆記試験を解く」などの 日本語の読み書きに関する能力に関する回答が最も多かった。

リクナビ就活準備ガイドの記述によると、エントリーシートとは、就活において学生が企業に提出する応募書類の一つであり、企業に対して最初に自分をアピールする場となる。そして、面接時の参考資料として使われるとともに、大手企業などでは選考の第1段階になることも多いという。

企業によって採用選考の流れは異なるが、福沢(2010)によると大抵の企業は、「プレエントリー・エントリー、説明会・セミナーの参加、エントリーシートの提出、筆記試験・性格適正試験など、面接(エントリーシートを基に行われる)、内定」の流れになっているという。ユーキャン就職試験研究会(2015)では、日本人対象の就職活動対策本において、一般に採用試験のプロセスにおける大きな分岐点は、筆記試験を突破して、面接に進めるかどうかであ

[7] 株式会社クオリティ・オブ・ライフは採用・定着支援領域、キャリア開発領域、個人の人生の充実領域などの分野で事業を展開している。

ると述べている。これは留学生も同じであると考えられる。また、採用試験としてトップシェアを誇るのはSPIであり、年間で11000社に用いられているという。しかし、古本(2010)によると、このSPIは日本人用の試験であり、内容的には日本語だけでなく、日本文化などの常識に関する知識も必要なため、留学生にとって非常に難しいという。『ユーキャンのSPI3問題集』(以下『ユーキャン』と呼ぶ)の記述をもとに、SPIの検査の種類、出題分野及びその特徴を表2にまとめる。

表2　SPIの内容

検査の種類		出題分野	特徴
能力適性検査	言語能力検査	国語分野	敬語や文章問題の出題が増えており、業務に必要な実践的な力が試されている。
	非言語能力検査	数学・理科分野	パターン化された問題のため、問題形式に慣れれば、より速く・正確に解ける。
性格適性検査	性格特徴検査	行動的側面、意欲的側面、情緒的側面、社会関係的側面	性格の傾向を知るための検査。性格の良し悪しを見るものではないが、結果次第で選考の対象外になることもある。

(『ユーキャンのSPI3問題集』の記述をもとに作成)

『ユーキャン』によると、SPIの特徴は短い時間にたくさんの問題を解かせることで、作業の処理能力を測ることにあるという。これはエントリーシートや面接と同じく内定獲得の重要な鍵になると、古本(2010)では指摘されている。表2に示しているように、SPIには能力適性検査と性格適性検査の二つの検査が含まれており、能力適性検査には言語能力検査と非言語能力検査の二つが含まれている。言語能力検査は日本語能力を測るものである。非言語能力検査は一見日本語能力と関係なさそうに見えるが、数学の文章問題が出題され、短時間で問題文の日本語を正しく理解し、文章題の情報を読み取り、適切な式をたてないと正しく解答できないため、留学生にとっては難しいと予想される。また、古本(2010)はSPI模擬試験の語彙の難しさについて調査を行っており、言語能力検査の語彙は旧日本語能力試験の級外や１級レベルのものが多く、留学生には対応が難しいと述べている。一方、非言語能力検査の語彙は２級レベルで、語彙そのものは難しくないため、理系留学生なら十分に対応可能であるが、文系留学生は理系特有の語彙の習得及び数学解法の練習が必要であると述べている。しかし、この調査はあくまで語彙レベルの判定にとどまっており、具体的にどのような問題が実際に留学生にとって難しいのかという点については十分に明らかにさ

れていない。重田・中原(2017)はSPI模擬試験の言語能力問題を用いて、日本人学生と中国人学生を対象に調査を行った。その結果、熟語の成り立ち、語句の用法、文の並べ替え、空欄補充のカテゴリーでは日本人学生が中国人学生より正答率が高く、ほかのカテゴリーでは正答率に差が見られなかったという。そして、日本人学生より中国人学生のほうが問題を解くのに時間がかかったと指摘している。しかし、非言語能力検査については言及されていない。

以上のように、留学生は就職活動の様々な段階で困難を感じており、特にエントリーシートの作成や筆記試験・WEBテストで苦労していることがうかがえる。前述のように、エントリーシートや筆記試験は就職活動において非常に重要である。しかし、この二つにおいて留学生が具体的にどのような側面で困難に直面しているかはまだ不明である。

２．６　留学生のSPI模擬試験における解答実態

２．６．１　調査の概要

筆者は筆記試験 SPI における留学生の解答実態を探り、一体どのような問題が留学生にとって難しいかを具体的に示すために、修士課程の修了研究において、2016 年度に実際に日本で就職活動を行っていた 20 名の中国人留学生を対象に、SPI の言語能力検査と非言語能力検査の模擬試験調査を実施した。調査対象は2016年度に日本で就職活動を行っていた、または既に内定を得ていた神戸大学・大学院在学生に限定し、出身地や所属に関係なく参加者を探したが、結果的に協力を得られた20名は全員の修士二年生(調査時点)であり、そのうち10名が国際文化学研究科所属と、学年、所属に偏りのある構成となった。そして、全員が中国出身であった。しかし、これは神戸大学の留学生数とその内訳を見れば当然とも言える。神戸大学留学生センター・国際交流課が刊行している『Study in Kobe2016』では2015年5月1日現在留学生数は1152名で、その中で中国人留学生は最も多く721名である。出身別で二位の韓国人留学生の93名より遥かに多い。また、大学院レベルの留学生は合計801名であり、そのうちの519名が中国人留学生と、全体の64.7%を占めている。この傾向は在日留学生の内訳とも一致していると考えられる。そして、日本で就職できている留学生数の傾向とも一致している。法務省入国管理局の発表した「平成29年における留学生の日本企業への就職状況について」によると、就職できた留学生を国籍・地域別で見ると、中国は10326 人と最も多く、全体の 46%を占めている、これらのことから、今回の対象者は少なく、偏りがあるものの、日本にいる中国人留学生の傾向を反映していると思われる。

２．６．２　調査の結果

前節で述べた参加者を対象に、『ユーキャン』の模擬試験の部分を用いて、一人ずつ個別に SPI の模擬試験を実施した。そして、その回答状況から留学生にとっての SPI の困難点を探った。そして、半構造化インタビュー調査も行った。具体的に、言語能力検査と非言語能力検査についてそれぞれ分析を行い、まず問題ごとの誤答の傾向を示し、その要因を検討した。そして、参加者間の誤答率の差に影響を及ぼす要因を探るため、参加者が文系か理系か[8]、SPI を含む筆記試験対策をしたかどうか、日本語能力が高いかどうか[9]という三つの観点で、R による 3 要因分散分析を行った。以下では、この結果について言語能力検査、非言語能力検査の順に述べていく。なお、間違えた要因を分析する際には、半構造化インタビュー調査の結果を補助的に用いることとする。

言語能力検査の問題はいわゆる国語問題である。『ユーキャン』にはこの部分では満点を狙えると書かれていたが、今回の参加者で満点を取れた参加者はいなかった。この部分は「二語の関係」、「語句の意味」、「ことわざ・慣用句」、「敬語」、「文法」、「空欄補充」、「文の並べ替え」と「長文読解」の 8 つのカテゴリーから構成されており、40 問出題され、解答制限時間は 30 分である。参加者がどのような問題で困難に直面しているかを探るためには正答よりも誤答を分析するほうがよりふさわしいと判断し、問題ごとの「誤答数」[10]と「誤答率」[11]を算出した。解答結果から、問題のカテゴリーによって誤答数が違うことがわかった。「空欄補充」の部分は 20 名全員が正しく解答できていたが、「ことわざ・慣用句」のカテゴリーの問題では 20 名のうち 15 名に誤答が見られた。また、同じカテゴリーでも問題によって誤答率が大きく異なる。例えば、「語句の意味」の部分では、誤答率が 0%の問題があるのに対し、誤答率が 80%に達している問題もあった。「語句の意味」では、二字熟語の知識、四字熟語の知識、また漢語動詞及び漢語形容詞の知識を問う問題が出題されている。参加者は全員中国語を母語としており、漢字の知識があるため問題は容易であろうと考えられたが、結果を見ると必ずしもそうではないことがわかった。漢字の意味を推測しやすい四字熟語の問題での誤答率は低かったが、二字熟語の問題での誤答率が高かった。例えば、問題 12 は四字熟語の知識を問う問題であり、正答は E であり、20 名全員正しく解答できて

[8] 一般的に理系の学習者は数学が得意であると予想されたため、非言語能力検査の結果に影響すると考え、文理の別を聞いた。ただし、インタビューの際に確認したところ、多くの参加者の大学学部時代の専門は日本語だった。そのため、高校時代の文系、理系を基準とした。

[9] 日本語能力試験 N1 の得点の中央値を基準に、133 点以上の参加者を高いグループ、それ以下の参加者を低いグループに分けた。

[10] 「誤答数」は当該の問題の誤答者数である。

[11] 「誤答率」は誤答数を参加者数の合計 20 で割った百分率を示す。

いた。具体的な内容は以下の通りである。

問題 12

他人を無視して、自分の思うままにふるまうこと

A 前人未踏　B 天衣無縫　C 千差万別　D 正真正銘　E 傍若無人

これに対し、問題 9 は二字熟語の知識を問う問題であり、20 名のうち 16 名の参加者が間違っており、誤答率が 80%であった。具体的な内容は以下の通りである。

問題 9

思った通りになって満足なこと

A 納得　B 得心　C 会心　D 充実　E 陶酔

間違っていた 16 名の 12 名は A の「納得」を選んでいた。参加者は「思ったとおりになって」という部分から「納得」を選んでいると考えられる。他の選択肢にもぴったり合うものが見つからなかったため、部分的にでも正しいと考えられるものを選んだと思われる。B から E は中国語でも用いられるが正解の C「会心」の意味は出題された意味ではなく、相手の意図を理解したというのが第一義である。そのため、「会心」を正答と思わず、消去法的に A を選んだのではないかと言える。

また、参加者一人ひとりの解答状況を見ると、誤答率がわずか 10%の参加者がいる一方で、誤答率が 48%に達する参加者もいた。個人差がかなり大きいことも推測できる。この参加者間の誤答率にどのような要因が影響しているかを明らかにするために 3 要因分散分析を行った。その結果から見ると、文理の別、SPI 対策の有無、日本語能力のいずれにおいても有意な差は見られなかったが、傾向としては、それぞれ文系グループ、対策をしたグループ、日本語能力の高いグループのほうが、誤答率が低いことが示唆された。

非言語能力検査は合計 30 の問題で構成され、「損益算」、「代金の支払い」、「速さ・時間・距離」、「通過算・流水算」、「仕事算」、「濃度算」、「年齢算」、「鶴亀算」、「推論」、「論証」、「位置と方位」、「集合」、「順列と組み合わせ」、「確率」、「表の読み取り」、「グラフ領域」、「物の流れと比率」、「ブラックボックス」、「図形問題」と「展開図」の 20 のカテゴリーから出題されている。解答制限時間は 40 分である。非言語能力検査は言語能力検査と異なり、全員が制限時間内にすべて解答できたわけでなく、未解答が多かった。制限

時間内に全て解答できたのは 20 名のうち 6 名のみである。20 名の参加者のうち 3 分の 2 以上が時間内に解答できなかったことになる。また、時間内に全問解答できた参加者 6 名の結果を見ても、必ずしも正答ばかりではない。6 名のうち 4 名の誤答数は半数を大幅に超えていた。一方、制限時間内に解答できた問題は少ないものの、解答した問題だけ見れば誤答が少なかった参加者もいた。これは丁寧に問題を読んだためと考えられる。ここから、誤答数の多さには時間不足だけではなく、個人の言語能力や論理的思考能力なども影響していることが推測される。参加者別の誤答率をもとに、どのような要因が非言語能力検査の誤答率に影響しているかを探るため R による 3 要因の分散分析を行った。その結果、文理の別と対策をしたかどうかでは有意な差が見られなかったが、日本語能力の部分では、有意な差が見られ、日本語能力の高いグループの誤答率が、日本語能力の低いグループと比べて明らかに低かった。すなわち、日本語能力が高ければ高いほど、正しく解答できている数が多かったということになる。日本語能力が高ければ、文章をより正しく理解でき、正しい答えを出せるためと考えられる。「非言語能力」検査とはいえ、留学生にとっては、計算能力以前に、基本となる読解力が問われていることが示唆された。

しかし、SPI 模擬試験の実施後に日を改めて参加者にインタビューを行ったところ、「問題を読んで意味が分からなかったものはあるか」という問いに対して、ほとんどの参加者が「ない」と答えていた。実際の模擬試験の結果と照らし合わせて考えると、参加者となった留学生は自身の日本語の知識や能力の不足を自覚していないことがうかがえた。

２．６．３　調査の問題点

修士論文では以上のような結果が出たが、問題点も残った。調査実施上の問題点とデータの分析上の問題点の 2 点に分けて整理すると、以下のようになる。

（1）調査実施上の問題点

①非言語能力検査について制限時間内に解答できないという可能性を実施前に想定しておらず、制限時間通りに解答してもらったため、必ずしも全てに解答してもらうことができず、実際にどの部分が難しいかという疑問を追及できなかった。また、解答できなかった原因が日本語能力にあるのか、数学能力にあるのかも不明のままになった。

②インタビュー調査で設置した質問は、模擬試験調査のフォローアップとして十分な質問ではなかった。インタビュー調査では模擬試験調査で間違えた問題について、その原因をたずねるべきだったが、どの部分が難しいかという質問に留まっていたため、具体的にどの

ような計算過程を経て、解答に至ったのかを明らかにすることができなかった。

（2）分析上の問題点

①分析の際に、日本語能力、文理の別、SPI 対策の有無の三つの要因で分散分析を行った。日本語能力が高いか低いかの判断には日本語能力試験 N1 の得点を用いたが、そもそも日本語能力試験を受験した時期が参加者の 20 人はそれぞれ異なっていた[12]。2009 年に N1 を受験した参加者もいれば、2016 年に受験した参加者もおり、正確に調査時の日本語能力を反映しているとは言いがたい。文理の別という基準も高校の時の文系か理系かで判断したため、実際の数学能力と必ずしも一致しないという点で問題が残った。

②参加者ごとの誤答率を算出し、文理の別、SPI 対策の有無、日本語能力の高低の 3 つの観点から R による 3 要因分散分析を行い学習者側の要因を探ることを試みた。しかし、3 つの分析の観点ごとの参加者の分布には偏りがあり、このことが分析結果に影響した可能性も考えられる。

以上の問題点を踏まえて、データ分析方法の再検討を行った上で、今後の調査方法を検討する必要がある。古本(2010)ですでに明らかになっているように、SPI 模擬試験問題では、非言語能力検査の方が言語能力検査よりも語彙が簡単なはずである。しかし、修士論文の SPI 模擬試験調査では非言語能力検査で多くの参加者が間違っており、未解答も多かった。非言語能力検査の語彙は簡単であるにも関わらず、なぜ参加者は言語能力検査よりも非言語能力検査で多くの誤答を出し、解答できなかった問題も多いのだろうか。参加者には理系の留学生はいたが、高校の時の文系か理系かで判断したため、理系の問題を日本語で解いた経験がない可能性が考えられるため、語彙が２級の語彙でも数学の文章題特有の表現などを正しく理解できなかった可能性がある。この点も明らかにする必要がある。

このように、SPI では非言語能力検査であっても、数学能力以外に、読解力をはじめとした日本語能力も関わっていることがうかがえる。修士論文では SPI 筆記試験の難しさについて明らかにすることはできたが、数学能力と日本語の読解力のどちらか大きく影響しているのかを明らかにすることはできなかった。また、ビジネス日本語教育の観点から留学生への就職支援を考えた場合、就職前の段階で必要とされている日本語能力を明らかにするためには、SPI 筆記試験だけでは足りないと考えられる。

2.5 で述べたように、留学生は就職活動のあらゆる段階で困難に直面しており、その中で

[12] 最も多かったのが 2013 年で 10 名、2012 年 3 名、2015 年と 2016 年各 2 名、2009 年、2011 年と 2014 年がそれぞれ 1 名であった。

もエントリーシートの作成と筆記試験・WEB テストに最も苦労していることがうかがえる。しかし、具体的にどのようなところで苦労しているのかがまだ明らかになっていない。金(2017)では、中国人留学生を対象に、筆記試験のうちシェア率が最も高いと言われているSPI の模擬試験調査を実施し、SPI のどのような問題が留学生にとって難しいかを明らかにすることを試みた。しかし、非言語能力問題ではどのような問題が留学生にとって難しいかを明らかにすることができなかった。また、エントリーシートの先行研究から分かるように、留学生の実際のエントリーシートを対象とし、どのような問題点があるかについて検討しているものは管見の限りまだない。そこで、本研究では留学生が就職前の段階で遭遇する問題について言語的な側面からより精密な分析を行うため、SPI の追加調査に加えて、留学生の書いたエントリーシートの実態も合わせて調査する。

３　研究目的及び方法

第一章で確認したように日本にいる留学生の数はますます増加しており、その中で日本での就職を希望する留学生も増加している。しかし、就職希望者の７割が就職をかなえなかったというのが現状である。また、企業側は採用時点から留学生に高いビジネス日本語能力を求めていることがわかった。第二章では、従来のビジネス日本語の定義について確認し、ビジネス日本語の実施状況及び問題点を取り上げ、本研究でのビジネス日本語についての定義を定めた。本章では本研究の目的と意義を明示し、研究方法と調査対象について述べる。

３．１　研究目的

第二章で見たようにこれまで大学の日本語教育で主に指導されてきたのはアカデミックジャパニーズであり、それはビジネス日本語の需要をカバーできていなかった。また、ビジネス日本語教育が行われていたとしてもその内容は「就職後」のビジネス日本語を想定したものであり、就職活動時に役に立っているとは言い難い。留学生の日本での就職を考えた際に、就職前の言語的な支援が必要である。また、先行研究から企業が留学生に高度な日本語を求めていることも明らかになっているが、採用に当って企業が留学生に何を求めているのか、「就職前」に必要な日本語能力とはどのようなものかについては十分に検討されていない。それに加え、留学生が就職活動の段階で、エントリーシートやSPIに困難を感じているという指摘はあるものの、実際にどのような困難に直面しているかを具体的に示した研究はほとんど見られない。筆者は修士論文ではSPIの能力適性検査に着目し、模擬試験調査を行った。これにより留学生が SPI で具体的にどのような問題に遭遇しているかを一部明らかにすることができた。具体的に、言語能力検査よりも非言語能力検査により困難を感じており、制限時間内に全ての問題に解答できた参加者が少なく、さらに問題に対する誤答数も多かった。しかし、SPIの結果のみで就職前の段階で中国人留学生が抱えている問題点について検討するのは、十分ではないと考えられる。そのため、本研究では、エントリーシートの作成段階も加えた就職活動の段階ついて調査を行い、中国人留学生が抱えている問題点を探り、彼らが就職できるよう、どのようなビジネス日本語教育が必要かを明らかにすることを目的とする。しかしこれらについて、議論する前にまずビジネス日本語教育全体はどのような現状にあるのかを明らかにする必要がある。現状を明らかにすることによって、現行のビジネス日本語教育をどこまで就職前の日本語能力の養成に約立てられるか、またその不足点は何かを検討することができる。なお、本研究での「就職前」の段階とは就職活動

を始めてから、実際に内定をもらえる段階までを指す。

ビジネス日本語教育で扱われている内容を明らかにし、中国人留学生が就職活動の段階で抱えている問題点を明らかにすることができれば、(1)日本での就職を希望する留学生の就職活動に役立つ、(2)これからのビジネス日本語教育のあり方について新しい観点を示し、具体的な指導内容を提示できるという 2 点において意義があると考えられる。

３．２　調査方法

第二章で述べたように、留学生は就職活動のあらゆる段階で困難に直面している。本研究では、エントリーシートと筆記試験段階に焦点を当て、この二つの段階でどのような日本語能力が必要とされているかを検討する。そのため、これらについて現在のビジネス日本語教育でどのような内容がどの程度扱われているかを探る必要がある。具体的には、ビジネス日本語教育の現状を表していると考えられるビジネス日本語教科書を対象に教科書分析を行う。そして、日本の就職活動の流れを踏まえて、それぞれの段階でどのような能力が必要であるかを確認する。教科書の内容が前述の 2 つの段階で必要な内容をカバーできているかを検証する。また、どの部分が就職前の段階のニーズを満たしていないかを明らかにし、これからどのような内容を取り入れていくべきかについて提言する。そのために、以下の 3 つの調査を行う。まず、ビジネス日本語教科書に関する教科書分析を行う(第四章)。そして、筆記試験調査については SPI の非言語能力検査について模擬試験調査を行う(第五章)。最後に、留学生が企業に提出エントリーシートに着目し、企業の書類審査に通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートにはどのような差があるかを明らかにするための実態調査を行う(第六章)。調査の詳しい内容に関しては各調査を扱う章で詳しく述べることとする。

３．３　調査対象

3.2 節で述べたように、本研究ではビジネス日本語教科書に関する教科書分析、就職採用筆記試験調査及びエントリーシートの実態調査の 3 つの調査を行う。以下では 3 つの調査の調査対象について述べる。

ビジネス日本語教科書に関する調査では現在のビジネス日本語教科書ではどのような内容を扱われているか、エントリーシート及び筆記試験に関する内容を扱われているかどうか、扱われている場合はどの程度扱われているかを明らかにするため、ビジネス日本語教科

書を対象に分析を行う。ビジネス日本語の全体像を把握するため、本研究では日本語教材リスト(No.47)[13]と「ビジネス日本語コンシェルジュ」[14]を参考にビジネス日本語に関する教材を調べた。日本語教材リスト(No.47)ではビジネスパーソン・研修生向けの教科書を計 89 冊紹介している。これらの教科書を内容ごとに分類すると、主にビジネス場面全般を扱っている教科書(27 冊)、看護・介護の仕事をする外国人・技術研修生向けの教科書(20 冊)、特定の技能・スキルに特化している教科書(12 冊)、ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書(10 冊)、ビジネスに関する語彙習得を中心とした教科書(6 冊)、BJT ビジネス日本語能力テスト[15]向けの問題集(5 冊)、日本の文化やビジネスマナーを記述的に紹介している本(4 冊)、本冊の解説書(4 冊)、その他(1 冊)[16]などの 9 つに分類できる(資料 1 として付す)。一方、「ビジネス日本語コンシェルジュ」のホームページにおいては、ビジネス日本語教材を紹介するリストが公開されている。様々な学習者を対象にレベル別に合計 32 冊のビジネス日本語教科書を紹介している[17]。これの教科書を内容ごとに分類すると、ビジネス場面全般を扱っている教科書(11 冊)、ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書(7 冊)、特定の技能・スキルに特化している教科書(6 冊)、BJT ビジネス日本語能力テスト[18]向けの問題集(5 冊)、日本の文化やビジネスマナーを記述的に紹介している本(3 冊)に分類できる。このように、「ビジネス日本語コンシェルジュ」は 89 冊の中から教科書を選定した場合でも、ビジネス場面全般を扱っている教科書のほうが最も多かった。そのため、数的には少ないものの、ある程度傾向を示せると思われる「ビジネス日本語コンシェルジュ」で紹介している 32 冊のビジネス日本語の教科書を教科書分析の選定対象とし、ビジネス場面全般を扱っている教科書 11 冊を分析の対象とした。

独立行政法人日本学生支援機構の「平成 27 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(2016)によれば、日本国内で学ぶ留学生の出身地上位 5 ヶ国は多い順に中国、ベトナム、ネパー

[13] 日本語教材リスト編集委員会が編集しており、凡人社が発行しているものである。日本国内・海外あわせて 200 社以上が発行する総数約 4、000 点の日本語教材を収めており、現時点では No.47 は最新版である。2018 年 9 月 30 現在の教科書を掲載しており、2018 年 11 月 24 日に発行されている。

[14] 「ビジネス日本語コンシェルジュ」は Japan Online School が運営しているホームページである。Japan Online School はオンライン日本語学校であり、ビジネス日本語のテキスト一覧を作成したのはビジネス日本語教材に関する問い合わせが増えたからであるという。

[15] ビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定するテストであり、公益財団法人日本漢字能力検定協会が主催している。

[16] 『サービス日本語ーホテルスタッフ編ー』という教科書であり、ホテルで働く人のための日本語テキストであり、他と異なると考えられる。

[17] 32 冊のうち『BJT ビジネス日本語能力テスト体験テストと解説 改訂版(CD 付)』以外の残りの 31 冊がすべて掲載されている。

[18] ビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定するテストであり、公益財団法人日本漢字能力検定協会が主催している。

ル、韓国、台湾になっている。また、株式会社ディスコの「平成 27 年における留学生の日本企業等への就職状況について」(2016)によれば、就職を目的として行った在留資格変更許可申請について申請者の多い上位 5 ヶ国は中国、韓国、ベトナム、台湾とネパールである。同企業が行った「外国人社員の採用に関する企業調査」[19](2015)でも、今後採用したい外国人留学生の出身国(地域)で中国が最も多く(40.9%)、ベトナム(24.2%)、タイ(24.2%)、インドネシア(18.2%)、台湾(17.4%)と続く。このように、日本に在籍している留学生は中国出身者が最も多く、企業側の採用したい留学生の出身国で最も多くの割合を占めたのも中国であり、実際に就労ビザに更新している留学生も中国出身が最も多い。今後も日本語を運用して日本で就職活動を行う留学生は中国籍が多いと考えられるため、筆記試験調査及びエントリーシートの調査の調査対象を中国人留学生に絞りたい。調査対象となる留学生の属性について、調査の章ごとの内容の部分で詳しく述べる。

[19] 最新の 2015 年のデータで今後採用したい国(地域)は東南アジアが最も多く、「中国」は 59.0%と二位になっているが、これは今まで個別に数値を出していたベトナムやタイなどの国を「東南アジア」として一つにまとめたからであると考えられる。

４　ビジネス日本語教科書の現状

本章では、調査対象となるビジネス日本語の教科書の選定に至った経緯を述べた上で、分析方法を提示する。そして、「留学生のための就職活動ハンドブック」[20]と『留学生のための就職内定ワークブック』[21]を参考に、就職活動の各段階で必要となる言語活動を示し、それらを分析対象となった教科書の前書きやテキストの使い方及び本文の内容と照合し、分析対象となった教科書の中で扱われているかどうか、扱われている場合はどの程度扱われているかを明らかにする。最後に、ビジネス日本語に今後どのような内容を取り入れるべきかについて検討する。以降本研究での「就職前」の段階とは就職活動を始めてから実際に内定をもらえる段階までを指し、「就職支援」とも言う。

４．１　調査対象の選定

3.3.1 で述べたように、本研究では「ビジネス日本語コンシェルジュ」に挙げられている教科書を対象に分析を行う。「ビジネス日本語コンシェルジュ」では 32 冊の教科書を 10 段階にレベル分けしている。それらを表 3 に示す。

表 3　ビジネス日本語教科書レベル分けの基準

レベル	説　　明	対応する ビジネスレベル	対応する JLPTのレベル
1	「こんにちは」「ありがとう」など幾つかの決まったフレーズを使うことができる。	なし	なし
2	「仕事は～時からです」のような日課について簡単に言うことができる。	なし	なし
3	「日曜日は何をしましたか」など日常的なことについては、短い受け答えができる。	ビジネス未満	N4程度
4	日常生活の質問にはシンプルに答えることができる。知らない話題でも短い文や単語で答えることができる。	ビジネス基本	N3程度
5	聞きたいことや確認したいことを相手に質問するなど、ある程度の会話を楽しみながら続けることができる。	ビジネス初級	N3以上
6	具体的な例を挙げながら分かりやすく説明することができる。社会的な話題でも、自分の意見を言える。	ビジネス中級	N2程度
7	よく知っている話題について、十分に話すことができる。自分の考えを理論的に伝え、相手を説得することができる。	ビジネス上級	N2以上
8	大抵の場合において言葉に詰まることなく分かりやすく説明することができる。専門的な話題にもついていける。	ビジネス上級	N1程度
9	かなりネイティブに近いが、ことわざなど独特な言い回しは理解できても使うの難しい場合がある。	ビジネス超級	N1以上
10	ネイティブとほぼ同等であり、知識のある日本人と話していても引けを取らない。	なし	なし

[20] 「留学生のための就職活動ハンドブック」は「アジア人財資金構想」プロジェクトサポートセンターが発行しているものであり、留学生むけに日本の就職活動の基礎的な知識と留学生に知ってもらいたいポイントを記載している。その内容については後述する。

[21] 『留学生のための就職内定ワークブック』は一般社団法人留学生支援ネットワークが刊行している書籍であり、日本で就職したいと考える留学生に日本語の就職活動を理解してもらい、就職活動に必要となる準備や対策を行えるよう手助けするためのテキストである。

表 3 では、「ビジネス日本語コンシェルジュ」の記述に基づいて、レベル分けの基準とそれぞれのビジネスレベル[22]が日本語能力試験(JLPT)のどのレベルに対応するかをまとめている。「ビジネス日語コンシェルジュ」の記述によると、ビジネスレベル 1 と 2 についてはビジネス日本語よりも基本事項の習得やサバイバル日本語のレベルになり、すすめられるビジネス日本語教材がない。また、レベル 10 は超級レベルのため、市販教材をそのまま使用するケースは少ないと判断したため、こちらも該当するものがないという。残りのレベル 3 からレベル 9 の内容は JLPT の N4 から N1 までの内容に対応しており、「ビジネス日本語コンシェルジュ」ではレベル 3 から 9 を「ビジネス未満」、「ビジネス基本」、「ビジネス初級」、「ビジネス中級」、「ビジネス上級」[23]、「ビジネス超級」に分類している。「ビジネスコンシェルジュ」において紹介されている各レベルの教科書を表 4 に示す。

表 4　レベル別ビジネス日本語教科書一覧

レベル	書　名（冊数）
3	『わかるビジネス日本語』 (1 冊)
4	『新・にほんご敬語トレーニング』 (1 冊)
5	『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』、『しごとの日本語　IT 業務編』、『しごとの日本語　ビジネスマナー編』、『しごとの日本語　電話応対基礎編』、『しごとの日本語　メールの書き方編』、『CRASH COURSE JAPANESE FOR BUSINESS』、『日本語でビジネス会話　初級編：生活とビジネス』、『日本企業への就職　ビジネスマナーと基本のことば』、『NIHONGO Breakthrough from Survival to Communication in Japanese』、『Basic Japanese for Expats「Book1」』、『Basic Japanese for Expats「Book2」』、『Basic Japanese for Expats「Book3」』、『Let's Work It Out!Office Japanese For Beginners』、『ビジネス日本語 Drills』、『Working in Japan』、『Getting Along with the Japanese』 (16 冊)
6	『新装版 ビジネスのための日本語』、『新装版　実用ビジネス日本語 』、『日本語でビジネス会話　中級編』、『日本企業への就職　ビジネス会話トレーニング』、『BJT　模試と対策』、『BJT ビジネス日本語能力テスト 体験テストと解説 改訂版』、『BJT ビジネス日本語能力テスト　読解実力養成問題集』、『BJT ビジネス日本語能力テスト　聴解・聴読解実力養成問題集』 (8 冊)
7	『新装版 商談のための日本語 』 (1 冊)
8	『人を動かす！実戦ビジネス日本語会話』、『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』、『ビジネスケースで学ぶ日本語』、『Japanese for Professionals』 (4 冊)
9	『課題達成のプロセスで学ぶビジネス・コミュニケーション』 (1 冊)

表 4 から、32 冊中 16 冊がレベル 5(N3 以上)に相当することが分かる。次いで、レベル 6(N2 程度)が 8 冊、レベル 8 が 4 冊となっており、ほかのレベルは 1 冊ずつしか紹介されて

[22] ここでのレベルに関する記述は全て「ビジネス日本語コンシェルジュ」の記述に基づいている。http://j-os.com/japanesematerial/business.html#levelstandard

[23] 「ビジネス日本語コンシェルジュ」の記述によると、レベル 7 とレベル 8 は共にビジネス上級であるという。

いない。レベル 5 とレベル 6 の教科書をあわせると計 24 冊となり、7割以上の教科書が JLPT の N3 以上から N2 程度に対応している。これらのビジネス日本語の教科書はその内容から表 5 のような 5 つのタイプに分類できる。具体的には、ビジネス場面全般を扱っている教科書、ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書、特定のビジネス場面を扱っている教科書、BJT ビジネス日本語能力テスト対策書と日本の文化やマナーを記述的に紹介する教科書である。各内容の教科書がビジネス日本語レベルのどの段階に属するかを教科書のレベルごとに分けて、そのレベル順で表 5 に示す。

表 5　ビジネス日本語教科書の内容ごとの分類

タイプ(冊数)	書　　名	レベル
ビジネス場面全般を扱っている教科書 (11 冊)	『新・にほんご敬語トレーニング』[24] (1 冊)	4
	『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』、『ビジネス日本語 Drills』(2)	5
	『新装版ビジネスのための日本語』、『新装版実用ビジネス日本語』、『日本語でビジネス会話中級編』、『日本企業への就職ビジネス会話トレーニング』 (4 冊)	6
	『人を動かす！実戦ビジネス日本語会話』、『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』、『Japanese for Professionals』 (3 冊)	8
	『課題達成のプロセスで学ぶビジネス・コミュニケーション』 (1 冊)	9
ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書 (7 冊)	『NIHONGO Breakthrough From survival to communication in Japanese』、『Basic Japanese for Expats[Book1]』、『Basic Japanese for Expats[Book2]』、『Basic Japanese for Expats[Book3]』、『Let's Work It Out! Office Japanese For Beginners ビジネスパーソンの初級日常会話』、『CRASH COURSE JAPANESE FOR BUSINESS ビジネス日本語速修コース』、『日本語でビジネス会話初級編：生活とビジネス』[25] (7 冊)	5
特定のビジネス場面を扱っている教科書 (6 冊)	『しごとの日本語　IT 業務編』、『しごとの日本語　ビジネスマナー編』、『しごとの日本語　電話応対基礎編』、『しごとの日本語　メールの書き方編』 (4 冊)	5
	『新装版 商談のための日本語』 (1 冊)	7
	『ビジネスケースで学ぶ日本語』 (1 冊)	8
BJT ビジネス日本語能力テスト対策書 (5 冊)	『わかるビジネス日本語 BJT ビジネス日本語能力テスト入門』 (1 冊)	3
	『BJT 模試と対策』、『BJT ビジネス日本語能力テスト体験テストと解説 改訂版(CD 付)』、『BJT ビジネス日本語能力テスト読解実力養成問題集』、『BJT ビジネス日本語能力テスト　聴解・聴読解実力養成問題集』 (4 冊)	6
日本の文化やマナーを記述的に紹介する教科書(3 冊)	『Working in Japan』、『Getting Along with the Japanese』、『改訂版 日本企業への就職ビジネスマナーと基本のことば』 (3 冊)	5

ビジネス場面全般を扱っている教科書が最も多く、計 11 冊である。対応するレベルは 4、

[24] 書名には『敬語トレーニング』とあるが、敬語の知識のみならず、様々なビジネス場面を提示し、場面に合った敬語対応についての説明を行っている。
[25] 「生活とビジネス」という書名ではあるが、内容を見る限りではサバイバル日本語がほとんどであり、ビジネス場面を想定した内容は少ないため、本研究ではビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教育に分類した。

5、6、8、9 であり、ビジネス基本から超級にわたっている。次に多いのは、ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書であり、計 7 冊である。主に日本で生活するうえで必要とされる日本語を中心に扱い、生活場面を多く取り上げている。そのため、レベルも一定しており、レベル 5 のビジネス初級に対応している。次いで、特定のビジネス場面に特化している教科書が計 6 冊ある。メールの書き方や電話応対といった場面に特化し、場面ごとに使える内容を紹介している。対応するレベルは 5、7、8 で、ビジネス初級とビジネス上級の教科書がある。そして、BJT ビジネス日本語能力テストの対策書が計 5 冊ある。主にテスト内容についての紹介やテストに対する問題集である。対応するレベルは 3 と 6 で、ビジネス未満とビジネス中級に属する。最後に、日本の文化やビジネスマナーを紹介している教科書がある。書名が英語のものは英語で書かれ、日本語のものは中国語の解説が併記されている。

４．２　調査方法

４．２．１　分析対象

本章ではビジネス日本語の教育内容の傾向を把握し、就職支援の内容が含まれているかどうかを明らかにすることを目的としている。表 5 から分かるように、5 つのタイプの教科書うちビジネス場面全般を扱っている教科書が最も多かった。そのため、この調査ではその 11 冊を分析対象とし、表 6 にそれらの基本情報をまとめる。

表 6　分析する教科書の基本情報

	書名	本研究での略称	出版社	出版年
1	『新・にほんご敬語トレーニング』	『敬語』	アスク出版	2014
2	『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』	『30 時間』	スリーエーネットワーク	2009
3	『ビジネス日本語 Drills』	『Drills』	ユニコム	2007
4	『新装版　実用ビジネス日本語』	『実用』	アルク	2006
5	『新装版 ビジネスのための日本語』	『ビジネスのため』	スリーエーネットワーク	2006
6	『日本語でビジネス会話中級編：生活とビジネス』	『生活とビジネス』[26]	凡人社	1996
7	『日本企業への就職 ビジネス会話トレーニング』	『ビジネス会話』	アスク出版	2006
8	『人を動かす！実戦ビジネス日本語会話』	『実戦』	スリーエーネットワーク	2008
9	『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』	『ロールプレイ』	スリーエーネットワーク	2012
10	『Japanese for Professionals』	『Professionals』	講談社インターナショナル	1998
11	『課題達成のプロセスで学ぶビジネス・コミュニケーション』	『課題達成』	アプリコット出版	2012

[26] 「本文冊」、「練習冊」、「英訳・語彙冊」の 3 冊からなるが、本研究では本文冊のみを分析の対象とした。

４．２．２　分析方法

本節では 4.2.1 で示した対象教科書についての分析の観点及び分析の方法について述べる。対象となった 11 冊の教科書の作成の目的、対象者、レベル、課ごとの構成、シラバス及び扱っている内容といった側面について分析を行う。教科書のねらいや教科書作成の目的は前書きの記述も手がかりに分析する。教科書の内容について就職前から就職後のどの段階において役立つかという観点から「就職前」、「就職後」に分類し、就職支援に役立つかどうかを検討する。手順として、まず「留学生のための就職活動ハンドブック」と『留学生のための就職内定ワークブック』を参考に就職活動の各段階で必要となる言語活動を示した。そして、教科書の教科書作成の目的・方針を記している前書きを手がかりに、教科書作成の目的と対象学習者のレベルを一覧化した。また、教科書の中で扱っている内容をもとに課ごとの構成、シラバスの種類をまとめた。さらに、課ごとの見出しを参考に各教科書の内容をリストアップした。見出しに課の内容が明記されてない場合は、課の全体の内容をもとにリストアップした。このリストをもとに、教科書の中で取り扱われている内容を抽出し、類似する内容をカテゴリー化した。最後に、カテゴリー化された内容が就職活動の各段階で必要となる言語活動を網羅できているか、就職前の内容が含まれているかどうかについて検討した。

４．３　調査結果

本節では「留学生のための就職活動ハンドブック」と『留学生のための就職内定ワークブック』を参考に、就職活動の各段階で必要となる言語活動を示す。そして、前書きやテキストの使い方から分析対象となった 11 冊のビジネス日本語教科書の特徴を示す。そのうえで、教科書の本文の内容の分析からカテゴリー化した内容を「就職前」、「就職後」に分類し、就職活動の段階でも活用できる内容があるかどうかについて検討する。

４．３．１　就職活動の各段階で必要な言語活動

「留学生のための就職活動ハンドブック」では、就職活動の流れは自己分析、業界と企業を知る、インターンシップ、OB・OG 訪問、会社説明会＆セミナー、エントリーシート・履歴書、筆記試験、面接となっていることを示している。『留学生のための就職内定ワークブック』でも就職前に必要な活動として、日本での就職活動の基礎知識を知ること[27]、自己分析、

[27] 日本の雇用環境、日本企業が求める留学生、採用文化、就活スケジュールと準備に関する内容を紹介している。

業界・企業分析、インターンシップ、OB・OG 訪問、履歴書とエントリーシート、筆記試験、面接のステップに分けて紹介している。上記のステップのうち、インターンシップは「就業体験」ともいい、参加するためには就職活動に準じた段階がある。企業のホームページから参加の申し込みをし、エントリーシートの提出、さらに筆記試験や面接を受けるなどの選考を通らなければ、インターンシップに参加できない。しかし、インターンシップに参加することは採用に直接つながるとは言い難い。そのため、本研究ではインターンシップを除く 7 つの就職活動の段階それぞれにおいて必要となる言語活動を上述の 2 つの資料をもとに、表 7 にまとめる。

表 7　就職活動の各段階で必要となる言語活動

就職活動の段階	必要となる言語活動
自己分析	自分の特徴を知り、それを表現する。
業界・企業分析	『業界地図』などの本を読んで、どのような業界、企業、職種があるのかを読んで理解する。自分が就きたい業界、企業、職種について調べられ、理解する。
OB・OG 訪問	大学の就職課やキャリアセンターに OB・OG の紹介を依頼する。対象となる OB・OG に電話でアポイントを取り、実際に訪問する。訪問後にお礼のメールや手紙を送る。
会社説明会・セミナー	情報を企業ホームページや就職情報サイトから収集し、自分の興味を持った会社説明会・セミナーの申し込みをする。
エントリーシート・履歴書	エントリーシートでどのような内容を書くのかを知る。企業 HP や会社説明会でエントリーシートを入手し、実際に書く。
筆記試験	筆記試験の種類を知る。SPI や玉手箱[28]などで言語問題以に、数学問題の出題を読んで理解し、解けるようにする。
面接	面接の種類を知る。グループディスカッションではグループ内で討論を行い、最後にプレゼンテーションをする。グループ面接や個人面接では、面接官の質問を理解し、答える。

このように就職の段階ごとに必要な言語活動には自己分析と業界・企業分析の段階のように、資料を読んで、日本語で理解し表現するレベルの内容もあれば、OB・OG 訪問や会社説明会・セミナーの段階のように行動するレベルの内容もある。エントリーシート・履歴書段階では採用に関わる文章力がはかられる。筆記試験の段階では日本語の知識のみならず、作業の処理能力をはかる SPI や玉手箱などの適正検査に対応できる能力が必要である。面接段階では日本語で話す能力のみならず、入室から退室までのマナーや行動といった実践的な能力も必要であると考えられる。では、これらの就職活動での言語活動を教科書の中で

[28] 就職採用テストの１つであり、SPI ノートの会によると玉手箱は自宅のパソコンで受ける「自宅受験型」の Web テストとしてトップシェアを誇っているという。https://www.spinote.jp/tamatebako/

扱っている内容は網羅できるのだろうか。以下では 11 冊のビジネス日本語教科書について分析を行い、どのような内容を扱っているかを明示する。

４．３．２　前書きやテキストの使い方から見た結果

各教科書の作成の目的、対象者、レベル、課ごとの構成、シラバスを一覧化した。表 8 と表 9 に分けて示し、注目すべき点には下線を施している。

表 8　教科書作成の目的、対象者とレベルのまとめ

	略称	教科書作成の目的	対象者	レベル
1	『敬語』	場面に相応しい敬語の使い方を学び、日本語でのコミュニケーション力をつけることを目的としている。	敬語を習ったのに実際に使えない人	初級修了
2	『30 時間』	ビジネス場面において、よい人間関係を築き、スムーズに業務を行えるようにすることを目的としている。	日本語で仕事上のコミュニケーションを行いたいビジネスパーソンや来日本で仕事に就きたいと考えている学習者	初級修了
3	『Drills』	実際のビジネス場面での会話を理解・暗記することを目的としている。	ビジネス日本語やビジネスマナーを身に付けたい人、ビジネス日本語を勉強したがどんな時に使えばいか、不安な人	記述なし[29]
4	『ビジネスのため』	ビジネスの現場ですぐに役立つ会話表現の習得を目的としている。	ビジネスマン、企業研修生及び日本企業への就職を希望する大学生	初級修了
5	『実用』	際のビジネスの場で通用する日本語が使えることを目的としている。	初級レベルを既にマスターし、さらに日本語を磨き、ビジネスに生かしたい人	中級から
6	『生活とビジネス』	自分の意図を的確に伝え、言語行動をより効果的に達成する為の話し方、対応の仕方の養成を目的としている。	日本の企業で働く外国人社員、企業研修生、日本企業と関を持つビジネス活動をする外国人	初級修了
7	『ビジネス会話』	伝えたいことを誤解なく伝え、スムーズに仕事が進められるようになることを目的としている。	日本企業で働く外国人(特に中国人)	記述なし
8	『実戦』	実的な会話習得を目的としている。	日本語を使ってビジネスを行う外国人	上級
9	『ロールプレイ』	ビジネス日本語能力・社会人基礎能力・異文化調整能力の養成、ビネス社会へのソフトランディングを助けることを目的としている。	就業経験のない学習者、既に日本で働いている学習者	記述なし

[29] 前書きやテキストの使い方部分ではレベルに関する記述がなかったため、「記述なし」とした。

10	『Professionals』	リアルな場面で実用的な会話力を身につけ、ビジネス慣習を理解することを目的としている。	ビジネスの世界で実際に使える日本語の学習を志している人	中級レベル
11	『課題達成』	仕事で必要となる課題達成能力と問題発見解決能力、そして異文化能力の養成し、日本人と外国人が一緒に働くための人材育成用。両者の人間関係がうまく作られることを目的としている。	現在日本語を使って仕事をしている、あるいは将来日本語を使って仕事をしたいと思っている外国人、日本人の大学生や新入社員	記述なし

表 8 にまとめた「教科書作成の目的」の内容の下線部から分かるように、より実践的な会話能力、言語能力の育成を重視している教科書が 11 冊のうち 7 冊を占める(教科書番号 1、3、4、5、6、8、10)。そのほか、業務がスムーズに行えることを目的としている教科書も 11 冊のうち 2 冊あった(教科書番号 2、7)。残りの 2 冊は行動面での社会人基礎能力、異文化能力の育成に重点をおいている教科書である(教科書番号 9、11)。

対象者の欄の記述から分かるように、すべての教科書が既に日本語でコミュニケーションを行い、日本で働く外国人を対象としている。一方、既に日本で仕事をしている人と将来日本で就職したい人及びこれから日本語を使って仕事をしたい人、日本で就職したいという留学生の両方を対象とした教科書は 4 冊であった(教科書番号 2、4、9、11)。

対象としているレベルについて、記述がないものが 4 冊あったが(教科書番号 3、7、9、11)、この 4 冊のうち『課題達成』(教科書番号 11)のレベルを表 3 で見ると、レベル 9 にあたり、ビジネス超級である。レベルが高ければ、日本語を使って仕事をしている、或いはしたいと思っている外国人のみならず、外国人留学生と共に働く日本人を想定したものとなっており、日本人の新入社員も対象としている。記述がある 7 冊については、6 冊が初級修了[30]後の中級学習者を対象としている(教科書番号 1、2、4、5、6、10)。残りの 1 冊が上級学習者を対象としている(教科書番号 8)。以上から、今回の分析対象としたビジネス日本語の教科書は中級レベルの学習者を想定して作られていることが多い。

次に、表 9 に各教科書の用いているシラバスと各課の構成を示す。各課の構成は異なるが、波線部から分かるように導入部分では 11 冊のうち 8 冊が会話やロールプレイを用いている(教科書 1、3、4、5、6、8、10、11)。 課全体では、『課題達成』(教科書番号 11)、を除く残りの 10 冊はすべて会話・ロールプレイ練習を取り入れている。これらは課で学ぶ文法で導入している『みんなの日本語』や単語で導入している『まるごと』などの教科書と異

[30] 教科書 1、2、4、6 に関して、中級とは書かれていないが、初級、中級及び上級というレベル分けが一般的であるため、「初級修了」の次は中級であると想定できる。

なり、ビジネス日本語教科書の特徴の一つだと言えるのではないだろうか。

表 9　課ごとの構成とシラバスのまとめ

	書名	課ごとの構成	シラバス
1	『敬語』	①会話で導入　②敬語を使う練習　③モデル会話の提示	場面シラバス
2	『30 時間』	①クイズで導入　②談話や会話　③ロールプレイ ④ビジネスコラム	機能シラバス 場面シラバス
3	『Drills』	①会話で導入　②語句の説明　③モデル会話や文の提示	場面シラバス
4	『ビジネスのため』	①会話で導入　②場面を把握する練習 ③機能の説明　④ロールプレイ練習	機能シラバス
5	『実用』	①会話で導入　②戦略表現の紹介 ③様々な場面での実用会話の取上げ	機能シラバス 場面シラバス
6	生活とビジネ	①穴埋め形式の会話で導入　②本文会話 ③語句の使い方	機能シラバス 場面シラバス
7	『ビジネス会話』	①文型・表現で導入　②聞く練習と話す練習　③会話練習　④ロールプレイ	場面シラバス
8	『実戦』	①ロールプイで導入　②戦略会話の紹介 ③実践会話練習　④実践会話練習への評価	場面シラバス
9	『ロールプレイ』	①フローチャートで導入　②モデル会話　③語彙・表現 ④ロールプレイ　⑤ケーススタディ	機能シラバス
10	『Professionals』	①会話で導入　②表現の紹介 ③会話文を完成する練習　④モデル会話の提示	場面シラバス
11	『課題達成』	①聴解と話す問題で導入　②語彙と表現の提示 ③書く練習　④聞いて書く練習　⑤話す練習	タスクラバス

シラバスは、11 冊のうち 7 冊が主に場面シラバスか機能シラバスを採用している(教科書 1、3、7、8、9 は場面シラバス、教科書 4、9 は機能シラバス)。また、一つの機能について様々な場面での会話を提示するといったように、機能シラバスと場面シラバスを併用している教科書も 3 冊あった(教科書番号 2、5、6)。一方、課題達成能力や問題発見解決能力の養成に重点を置き、タスク中心のタスクシラバスで構成されている教科書は 1 冊のみであった(教科書番号 11)。しかし、これこそが前述の仇(2016)で述べている企業が求める「行動面」の内容と一致している。

４．３．３　本文で扱っている内容

この節では各々の教科書の内容をリストアップし、具体的にどのような内容を扱ってい

るかをカテゴリー化した結果を述べる。カテゴリー化にあたっては、見出しが異なっていても、類似した内容を扱っている場合は同じカテゴリーにまとめた。例えば、教科書によっては、「電話をかける」、「電話を受ける」、または「電話で伝言を受ける」などを幾つかの課に分けて説明しているが、これらをまとめて一つのカテゴリー「電話対応」とした。また、「わからない日本語を聞く」や「道を聞く」など直接ビジネス日本語と関わりがない内容は分析の対象外とした。その結果、計 11 冊の教科書では表 10 に示している 27 のカテゴリーの内容が扱われていることが確認できた。表 10 にはその具体的な内容もあわせてまとめる。

表 10　教科書で扱われている主な内容

	カテゴリー	具体的な内容
1	電話対応	電話を受ける、かける、電話で伝言をうける、取り次ぐなど
2	アポイント	アポイントの具体的な取り方や変更の仕方
3	依頼・断り	社内や社外での業務に対する依頼や断り、依頼や断りの仕方
4	自己紹介	社内や社外での場にふさわしい自己紹介の仕方
5	意見陳述	会議で自分の意見を言う、議論を行う、意見交換など
6	あいさつ	出社や帰社などの仕事の場面でのあいさつや日常的なあいさつ
7	報告・連絡・相談	仕事に関する報告、連絡、相談
8	誘い	業務に関する誘い、仕事後の誘いの仕方
9	提案・申し出	業務に関する提案、同僚への手伝いの申出
10	許可	上司の許可を求める、他社の人に許可を求める
11	お礼・おわび	社内や社外の人に対するお礼・おわび、謝り方
12	訪問	他社訪問、訪問客への対応、訪問する時の注意点
13	アフター5	仕事が終わった後のコミュニケーションのための飲み会
14	交渉	業務交渉、交渉の仕方
15	注意する	注意する、注意を受ける、注意を受けたときの答え方
16	敬語・言葉遣い	敬語を使う場面及び使い方
17	プレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方
18	クレーム・苦情	クレーム・苦情への対応の仕方
19	面接	就職のための面接の受け方
20	新規顧客を開拓する	事業を拡大するために新規顧客を開拓するときの話の進め方
21	商品を売り込む	商品を見せ、商品のメリットを述べ、売り込むポイント
22	指示を与える	不在中の仕事の進め方について指示を与える話し方
23	根回し	会議で相談することについて、事前に各部門に根回しする方法
24	業務引き継ぎ	仕事の引き継ぎを指示され場合、内容について確認・質問できる
25	インタビュー・取材	インタビューのやり方
26	企業が求める人材を知る	企業ガイダンスを聞いて理解する、エントリーシートを書く
27	計画を具体化する	資料を読んで要点を整理する、マーケティング戦略について議論する

表 10 のそれぞれのカテゴリーに関する具体的な内容を見ると、実際に仕事をするうえで

必要な内容、すなわち就職後の内容を重点的に扱っていることがわかる。「電話対応」や「アポイント」などは就職前の段階でも使う内容ではあるが、お互いの立場を主張する、相手の意向を探りながら譲歩するといった「交渉」や、業務に関する提案、同僚への手伝いの申し出などの「提案・申し出」などに関する内容は明らかに就職後に使う内容であると考えられる。一方、就職のための面接の受け方に関する「面接」と企業ガイダンスで会社の説明を聞いて理解できる、エントリーシートが書けるといった「企業が求める人材を知る」は就職前の段階でのみ使う内容である。

また、複数の教科書で共通しているカテゴリーもある。これらの内容がビジネス日本語の教科書ではどの程度扱われているかを表 11 に示す。表 11 の中で、左端の線に 11 冊の教科書の見出しから抽出したカテゴリー名を示し、表の上部に教科書の略称を並べ、各カテゴリーの内容が当該教科書の中で扱われている場合は○で示し、扱われていない場合は空白で示す。「合計冊数」は各カテゴリーを扱っている教科書の冊数を示し、表 11 では扱っている教科書の多い順で並べている。

表 11　対象教科書の内容の分類結果

教科書 / カテゴリー	敬語	30時間	Drills	実用	ビジネスのため	生活とビジネス	ビジネス会話	実戦	ロールプレイ	Professionals	課題達成	合計冊数
電話対応	○	○	○	○	○	○	○		○	○		9
アポイント	○	○		○	○	○	○	○	○			8
依頼・断り	○	○		○	○	○	○	○		○		8
自己紹介		○	○		○	○	○		○	○		7
意見陳述	○			○	○		○	○	○	○		7
あいさつ	○	○	○	○	○	○						6
報告・連絡・相談			○	○				○	○		○	5
誘い	○		○	○	○		○					5
提案・申し出	○			○	○				○			4
許可		○		○	○		○					4
お礼・おわび	○			○		○			○			4
訪問	○	○	○			○						4
アフター5			○		○					○	○	4
交渉								○	○	○		3
注意する		○		○		○						3
敬語・言葉遣い	○		○									3
面接	○					○					○	3
プレゼンテーション								○			○	2
クレーム・苦情								○	○			2
新規顧客を開拓する									○			1
商品を売り込む									○			1
指示を与える										○		1
根回し										○		1
業務引き継ぎ									○			1
インタビュー・取材									○			1
企業が求める人材を知る											○	1
計画を具体化する											○	1

表 11 に示している通り、扱われているカテゴリーは「電話対応」が最も多く、11 冊うち 9 冊が扱っている。次いで、「アポイント」と「依頼・断り」であり、8 冊が扱っている。そして、「自己紹介」と「意見陳述」が 7 冊と続く。「あいさつ」が 6 冊、「誘い」が 5 冊、「訪問」、「許可」、「提案・申し出」、「お礼・おわび」と「アフター５」が 4 冊となっている。「注意する」、「交渉する」と「敬語・言葉遣い」は 3 冊が扱っていた。さらに、「クレーム・苦情」、「プレゼンテーション」と「面接」であり、11 冊のうち 2 冊が扱っていた。11 冊のうち 1 冊の教科書のみで扱われているカテゴリーは 8 つあり、それらが『ロールプレイ』、『Professionals』及び『課題達成』に集中している。『ロールプレイ』では「新規顧客を開拓する」、「商品を売り込む」、「業務引き継ぎ」と「インタビュー・取材」があり、かなり実際の仕事の場面を想定している内容を扱っている。『Professionals』には「指示を与える」と「根回し」があって、『課題達成』には「企業が求める人材を知る」と「計画を具体化する」がある。

11 冊すべてに共通する内容はなかったものの、共通した内容を扱っていることが確認できた。また、教科書で扱われている同一カテゴリーの中身を確認すると差異が見られた。例えば、「自己紹介」の場合、『生活とビジネス』では「私は____の____と申します。_____からまいりました。」のように自分の名前、出身地を紹介するという形で説明している。一方、『Drills』と『ビジネスのため』では、社内や社外で分けたり、社内でも入社時、取引先、応接室で待っている初対面のお客様など細かく分けたり、説明している。さらに、社外でも他社の人に自己紹介する、他社の人に自社の人を紹介する、担当交代の紹介などに分けて説明を行っている。11 冊中『課題達成』は他と共通する内容が少なかった。これは教科書を構成しているシラバスに関係していると考えられる。他の教科書は主に場面シラバスや機能シラバスで構成されているのに対し、『課題達成』はタスクシラバスで構成されている。そのため、内容にも相違点が見られたと考えられる。

そして、27 のカテゴリーのうち、「面接」と「企業が求める人材を知る」以外のすべてのカテゴリーが就職後を想定しており、仕事をするうえで必要となる日本語を扱っていることがうかがえる。しかし、それらの言語形式は一部就職前の段階でも活用できると考えられる。4.2.2 で述べたように、本研究では就職活動の各段階で必要となる言語活動を踏まえて、「留学生のための就職活動ハンドブック」と『留学生のための就職内定ワークブック』を参考に、上に挙げた 27 のカテゴリーの内容がそれぞれ「就職後」にしか使われない場合は○で示し、「就職前」にも活用できる場合は◎で示し、具体的に就職前のどの段階で活用でき

るかを「就職前の具体的な活動」の部分で示す。その結果を表 12 に示す。

表 12　ビジネス日本語教科書の内容の分類

カテゴリー	就職前	就職後	就職前の具体的な活動
電話対応	◎		OB・OG 訪問
アポイント	◎		OB・OG 訪問
依頼・断り	◎		OB・OG 訪問
自己紹介	◎		OB・OG 訪問/面接
意見陳述	◎		面接
あいさつ	◎		OB・OG 訪問/面接
報告・連絡・相談		○	
誘い		○	
提案・申し出		○	
許可	◎		OB・OG 訪問
お礼・おわび	◎		OB・OG 訪問/面接
訪問	◎		OB・OG 訪問
アフター5		○	
交渉		○	
注意する		○	
敬語・言葉遣い	◎		OB・OG 訪問/面接
プレゼンテーション	◎		面接
クレーム・苦情		○	
面接	◎		面接
新規顧客を開拓する		○	
商品を売り込む		○	
指示を与える		○	
根回し		○	
業務引き継ぎ		○	
インタビュー・取材		○	
企業が求める人材を知る	◎		会社説明会、エントリーシート
計画を具体化する		○	

分類した結果、就職後を想定しているが、就職前にも活用できる内容には「電話対応」、「アポイント」、「依・断り」、「自己紹介」、「意見陳述」、「あいさつ」、「許可」、「お礼・おわび」、「敬語・言葉遣い」、「訪問」、「プレゼンテーション」の 11 のカテゴリーがある。表 12 に示しているように、これらの就職前にも活用できる 11 のカテゴリーに前述の「就職前」を想定している「面接」と「企業が求める人材を知る」の 2 のカテゴリーを合わせた 13 のカテゴリーの内容は就職活動の OB・OG 訪問、会社説明会、エントリーシート、面接の段階で活用できるが、自己分析、業界・企業分析、セミナー、履歴書、筆記試験の段階に対応で

きる内容はこれらのビジネス日本語教科書の中に見当たらなかった。

４．４　本章のまとめ

本章では、ビジネス日本語教科書 11 冊を用いて、それぞれがどのような内容を扱っているかについて分析を行い、扱っている内容の傾向について検討することを試みた。そして、それらの内容には就職前の段階でも活用できるような内容があるかどうか、あればどのような内容であるか、さらにそれらが就職前どの段階で活用できるかを明らかにすることを目的とした。以下ではその結果について考察を行い、まとめと今後の課題を述べたい。

４．４．１　本章の考察

4.3 節の結果からわかるように、今回の分析対象となった 11 冊のビジネス日本語教科書は初級終了後の中級学習者を対象としており、上級学習者を対象としている教材はまだ少ないと言える。日本で大学や大学院を修了し、日本語で就職活動を行い、日本語で仕事を行う外国人が増加するにつれて、就職前の内容を扱った教科書の需要がこれまで以上に増えると考えられる。また、教科書の中で扱っている内容については、就職前の内容を扱っている教科書は 2 冊のみで、非常に少ないと言っても過言ではない。そして、就職前の内容を扱っていると言える 2 冊の教科書も、主に面接での受け答えとエントリーシートとは何かについての内容となっている。電話対応やアポイントなどは教科書の中では、就職後の場面で紹介されているとはいえ、OB・OG を訪問する時にも活用できると考えられる。それは OB・OG を訪問する時、OB や OG がいる会社に電話で問い合わせし、訪問するアポイントを取ることが想定できるからである。また、自己紹介やあいさつなどは面接の場面で活用できることが想定される。しかしながら、これらは就職活動のすべての段階を網羅できていない。

神谷(2010)によると、留学生は就職活動の段階で、就職試験の準備、自己分析、エントリーシートの書き方などに困難を感じており、自己分析の仕方やエントリーシートにどう自己表現したらいいかが分からないという。つまり、留学生は就職前のエントリーシートの提出、筆記試験、面接に至るまでのあらゆる段階で問題を抱えていると言えるのではないか。筆者は修士論文の段階では就職活動の筆記試験に注目し、留学生を対象に模擬試験調査を行った。その結果、留学生は筆記試験の非言語能力検査では時間が足らず、問題全てに解答できなかった以外に日本語の読解力などの部分で困難を感じていることが明らかになった。以上を踏まえて、ビジネス日本語教育の内容には就職後の内容のみならず、留学生の就職支

援を考え、就職をかなえたいというニーズに合った内容を取り入れていくべきではないか。具体的には、就職の各段階に合わせた日本語の指導が必要だと考えられる。エントリーシートを書く能力の養成及び書き方の指導、筆記試験段階での読解や語彙の指導が必要であり、市販の日本人学生向けの対策書のみに頼るのではなく、留学生の特徴にあった指導内容をもっとビジネス日本語教科書の中に取り入れるべきである。面接では日本語以外にも様々な要素が関わってくるが、ビジネス日本語教育では少なくとも留学生という属性を考え、社会言語的な側面を含めた言語的な指導及び面接に対応できる問題解決能力や課題達成能力の養成も重視するべきではないだろうか。就職後の仕事上のコミュニケーションばかりを想定するのではなく、前述の就職前のいくつかの段階でスムーズなコミュニケーションを行うことも想定するべきではないだろうか

４．４．２　本章のまとめ

本章ではビジネス日本語の教科書で扱っている内容の傾向を明らかにするため、現在出版されているビジネス日本語教科書のうちビジネス場面全般を扱っている教科書 11 冊を対象に分析を行った。その結果、下記のことが明らかになった。

(1)分析対象となった 11 冊のビジネス日本語教科書の内容は主に初級を終えた中級レベルの学習者を対象としている。初級レベル及び上級レベルの教科書はまだ少ない。そして、初級レベルの場合にはビジネス日本語と命名しながら、ほとんどがビジネスパーソン向けのサバイバル日本語が扱われている。

(2) 各課の導入部分に関しては、11 冊のうち 10 冊は会話・ロールプレイ形式を取り入れている。これらは課で学ぶ文法で導入している『みんなの日本語』や単語で導入している『まるごと』などの教科書と異なる。また、11 冊中 10 冊が場面シラバスと機能シラバスで構成されている。これらはビジネス日本語教科書の特徴の一つだと言えるのではないだろうか。

(3)これらのビジネス日本語教科書には類似する内容があるものの、「場面」のみで考えるとほとんどが就職後の場面を想定しており、就職前の内容を扱っている教科書はまだ非常に少ないと言える。そして、就職前の内容を扱っている 2 冊の内容は面接、会社説明会とエントリーシートのみついて言及している。さらに、就職後の場面を想定したものにも就職前に活用できる内容はあったものの、それも OB・OG 訪問と面接の段階での活用にとどまり、就職活動・就職前の内容を十分に扱っているとはいえない。

(4)11 冊の教科書で共通する内容を 27 のカテゴリーに分類したが、「就職前」の内容を

扱っているのは 2 つのカテゴリーのみであり、「面接」と「企業が求める人材を知る」に関する内容に限られている。「就職後」に扱われている内容としては報告・連絡・相談、誘い、提案・申し出、許可、アフター5、交渉、注意する、クレーム・苦情、新規顧客を開拓する、商品を売り込む、指示を与える、根回し、業務引き継ぎ、インタビュー・取材、計画を具体化するの 15 のカテゴリーがある。就職後を想定しているが、就職前にも活用できる内容には、電話対応、アポイント、自己紹介、意見陳述、あいさつ、お礼・おわび、敬語・言葉遣い、訪問、依頼・断り、プレゼンテーションの 10 のカテゴリーがある。

これらの就職後の内容が就職活動の段階において、必ずしも役立たないというわけではない。そのため、「就職後」のうち就職活動段階で使える内容を活用すべきである。これら以外にどのような内容を取り入れていくべきか、またこれらのうちどのような内容をアカデミックジャパニーズでカバーでき、どのような内容をビジネスジャパニーズで教えていくべきかを検討することを今後の課題とする。

５　SPI の非言語能力検査に関する模擬試験調査

2.6 節に述べたように修士論文では、日本語能力試験に N1 合格しており、就職活動の中で筆記試験 SPI を経験したことがある中国人大学院留学生 20 名を対象に SPI の模擬試験調査を行い、その解答実態からどのような問題が彼らにとって難しいかを明らかにすることを目的とした。その結果、SPI の非言語能力検査は留学生にとって非常に難しいことがうかがえ、制限時間内に 20 名のうち 6 名しかすべての問題に解答できなかったことから、制限時間内に解答することさえ彼らにとって難しいことが確認できた。また、全員が解答できた 13 問についても、13 問中の 8 問に対し 7 割以上の参加者が間違えていた。非言語能力検査は数理分野から出題されている。しかし、誤答の要因が出題文の日本語の理解にあったのか、数学能力に関わるのかは不明である。これを探るために、本章では言語能力が数学問題も含む非言語能力検査の解答に影響を与えるかどうかを検証することを目的とする。

本章ではその目的を達成するために行った以下の調査について述べる。まず、①日本人学生と中国人学生を対象に日本語版非言語能力検査の問題を用いて予備調査を行い、②中国人留学生を対象に、日本語版の非言語能力検査と中国語版の非言語能力検査の予備調査を行った(5.1)。しかし、調査結果から、中国人学生の解答した日中各言語版の問題で難易度が異なっていたことが分かった。そのため、新たに日本語版問題と中国語版問題を作成し、その問題の難易度が一致しているかどうかを検証するための調査を行った(5.2、5.3)。その結果、問題の難易度が一致していることが確認できたため、それらの問題を用いて、非言語能力検査問題の出題言語が異なることによって、解答結果が異なるかどうかについての本調査を行った(5.4)。

５．１　非言語能力検査における言語の影響についての予備調査

重田・中原(2017)では SPI の言語能力検査のみについて、中国人学部留学生と日本人学部留学生の解答結果をもとに、両者の正答の傾向について分析を行った。その結果、日本人学生の正答率が中国人学生の正答率より高かった。その一方で、カテゴリー別の正答率では、二語の関係、熟語の意味、長文読解の問題において、日本人学生と中国人学生の間に差は見られなかったという。しかし、非言語能力検査については調査を行っておらず、日本人学生と中国人学生の SPI での解答実態の差を議論するのはまだ不十分であると思われる。

そこでこの予備調査では、日本人学生と中国人学生の日本語版の非言語能力検査の解答の差を探るために、それぞれ 3 名を対象に調査を行なった。さらに問題の言語が異なる場合

の中国人学生の解答結果の差を探るために、中国人学生を対象に日本語版と中国語版の日言語能力検査の調査を行った。以下では、予備調査の概要、調査結果及び調査の問題点について述べる。

５．１．１　調査の概要

１．調査参加者

日本人学生(Japanese Participant、以下 JP と呼ぶ)3 名と中国人学生(Chinese Participant、以下 CP と称す 3 名を対象に実施した。いずれも SPI の受験経験のない学生であり、全員調査時点(2018 年 5 月)では博士前期課程 1 年生であった。ただし、参加時の具体的な数学の能力の統制は行っていない。中国人学生は全員 2015 年 7 月に日本語能力試験Ｎ1 に合格している。

２．調査資料

『ユーキャンの SPI3 問題集 2017 年度版』(以下『ユーキャン』と称す)に収録されている問題の中には、論証や推論などの数学能力に関わりが薄いと考えられる問題もあった。そのめ、非言語能力問題の選定にあたり、問題の重要度及び数学能力を測るという点に注目し問題を選定した。また、参加者への負担も考え、非言語能力検査の問題 22 カテゴリーのうち年齢算、仕事算、速さ・時間・距離、濃度算、鶴亀算、確率、損益算、集合の計 8 カテゴリーから各 1 問を選定した。中国語の非言語能力検査については、中国の公務員試験で使われている数理問題の一部が SPI の非言語能力問題の出題カテゴリーと一致しているため、中国の国家公務員試験問題から同じカテゴリーの問題を選出した。このようにして、日本語版の『ユーキャン』から選んだ 8 問のカテゴリーに対応する中国国家公務員試験の数理問題 8 問を選び、計 16 問を調査資料とした(資料 2 として稿末に付す)。また、『ユーキャン』の非言語能力検査の選択肢が 8 つであるのに対し、中国語版の問題の選択肢は 5 つだったため、実施にあたっては、日中両方の選択肢を 5 つに統一した。この 5 つの中には「正答」、「正答と近い数値」、「正答に至るまでの計算過程に現れる数値」、「正答と離れた数値」、「A～D のいずれでもない」という選択肢が含まれている。

３．調査の手続き

2 の調査資料を用いて非言語能力検査の模擬試験調査を行ったが、問題に対する誤答の原因の分析にあたり、調査参加者の思考過程も参考にするため、調査後の一週間以に全員に対し、フォローアップインタビュー調査も実施した。一連の調査の手続きは以下の通りである。

(1)SPI の模擬試験調査

調査参加者の了承を得たうえで、中国人学生と日本人学生に分けて、3 人ずつ同時に調査を行った。非言語能力検査は『ユーキャン』から選定したものを Word で編集し、印刷したものを使用した。また、修士論文で多くの参加者が制限時間内に解答することができず、中国人学生にとってどのような問題が難しいかを明らかにすることができなった。そのため、この調査では制限時間を設けないこととした。具体的な実施手順は以下の通りである。

①調査内容について説明を行い、調査協力書に署名をもらった。

②制限時間は設けないことを事前に説明し、非言語能力問題の問題用紙及び解答用紙を配布し、全てに解答してもらった。制限時間を設けなかったが、解答に要する時間を測定するため、解答開始から終了までの時間をそれぞれ記録した。日本人学生には日本語版のみを配り、解答してもらい、中国人学生には日本語版と中国語版両方の問題用紙を配り、その順番で解答してもらった。その際、参加者の思考の過程を知るために、記録用の用紙を渡し、計算のステップを書いておくように依頼した。

③全ての解答終了後、フォローアップインタビューの時間を決めて模擬試験調査を終了した。

④収集したデータについて、『ユーキャン』の解答・解説を基準に答え合わせを行った。なお、非言語能力検査で誤答がみられた問題については、参加者の誤答と正答、また書いてもらった計算ステップを参照しながら、その要因を推測した。

(2)フォローアップインタビュー調査

フォローアップインタビューでは録音が必要であるため、IC レコーダーを用いて個別に行った。具体的な実施手順は以下の通りである。

①答え合わせした答用紙を参加者に返却した。

②間違えた問題を参加者本人に示し、間違えた要因について、問題のどの部分が難しかったか、用いる式が分かっていたかどうかなどを尋ねした。その際、記憶を喚起するため、回答用紙も計算ステップを本人に提示した。さらに、計算ステップから推測した要因について確認し、終了した。

上記の調査手順を踏まえ、録音したデータをもとに非言語能力検査の模擬試験調査の誤答の要因をまとめた。

５．１．２　予備調査の結果

本節ではまず日本人学生と中国人学生の日本語版の非言語能力検査の結果とフォローアップインタビューの結果を示す。次に、日本語版の結果と比較しながら中国語版の問題に対する解答結果とフォローアップインタビューの結果を示す。

１．日本語版問題の結果

表 13 と表 14 に日本語版非言語能力検査に対する日本人学生の解答結果と中国人学生の解答結果を示す。数字 1～8 は問題番号を、「カテゴリー」は問題の出題カテゴリーを示す。CP1～CP3 は中国人学生を示し、JP1～JP3 は日本人学生を示す。「誤答数」は問題ごとの誤答者数の合計を示し、「参加者の誤答数」は参加者ごとの誤答数を示す。「×」は参加者の誤答を示し、「○」は正答を示す。分析の際は誤答、すなわち「×」になっている問題に重点をおく。日本人学生は 20 分程度で解答した。中国人学生の解答時間は日本語版と中国語版に分けて記録しなかったため、各言語版の問題に対する解答時間は不明であるが、両言語版に対する合計の解答時間は 40 分から 45 分程度であった。

表 13　日本人学生の結果

参加者／問題	カテゴリー	JP1	JP2	JP3	誤答数
1	年齢算	○	○	○	0
2	仕事算	×	×	○	2
3	速さ・時間・距離	×	×	×	3
4	濃度算	○	○	○	0
5	鶴亀算	○	○	○	0
6	確率	×	○	×	2
7	損益算	×	×	×	3
8	集合	○	×	×	2
参加者の誤答数		4	4	4	

表 14　中国人学生の結果

参加者／問題	カテゴリー	CP1	CP2	CP3	誤答数
1	年齢算	○	○	×	1
2	仕事算	○	×	○	1
3	速さ・時間・距離	○	○	○	0
4	濃度算	○	○	×	1
5	鶴亀算	○	○	○	0
6	確率	○	×	×	2
7	損益算	○	×	×	2
8	集合	×	○	×	2
参加者の誤答数		1	3	5	

(1) 誤答数

中国人学生 3 名の誤答数はそれぞれ 1 問、2 問、5 問で、個人差が大きかった。

日本人学生 3 名の誤答数は各 4 問であり、全員が「速さ・時間・距離」と「損益算」の問題で間違えていた。

(2) フォローアップインタビューからうかがえる誤答の要因

間違えた問題について、フォローアップインタビューから得られた参加者のコメントから大きく分けて 3 つの要因が認められる。それらを a、b、c にまとめて示し、それぞれに該

当するコメントの出た問題を 1 例ずつ四角い枠に提示し、その後に、参加者から得たコメントと、そのコメントをした参加者を()内に表示する。

a．問題の正しい計算式が何なのかが分からなかった。

問題 3
　P と Q は別々の車に乗り、S 駅から T ホテルに行くことになった。Q は P が出発してから８分後に S 駅を出発したところ、P と同時に T ホテルに到着した。２人が乗った車はそれぞれ一定の速さで走り、P の車は時速 45km、Q の車は時速 55Km であるとき、S 駅から T ホテルまでの距離は何 km か。

・「計算式を忘れてしまった。分速から秒速に直すのが苦手」（JP1、JP3）

b．問題文の一部を正しく理解できなかった。

問題 2
　M だけですると８時間かかる仕事がある。この仕事を M と N の２人ですることになり、最初に M だけが３時間したあと、残りを M と N の２人ですると合計で６時間かかった。この仕事を最初から最後まで N だけですると何時間かかるか。
（下線部は筆者による）

・「下線部の「合計」がどこにかかっているのかが分からなかった。」（JP1、CP2）

c．単純な計算ミス

問題 7
　ある品物を 500 個仕入れ、４割の利益を見込んで定価をつけて売ったところ、100 個が売り残った。売り残った商品を３割引の 2940 円で売ったところ、すべて売り切った。利益の総額はいくらか。

・「正しい式をたてられたが、最後のステップで計算を間違えてしまった。」（JP1、JP2、CP3）

このように、非言語能力検査の問題に解答できるかどうかに出題文の読解力が関わっているという部分は中国人学生だけではなく、日本人学生も同じであることがうかがえ、さらに計算式を分からなければ、正答するのが難しいと言える。式をたてられたが、計算が間違えたら、正答に導くことができないのである。

２．中国語版問題の結果（中国人学生のみ）

この部分では日本語版の非言語能力検査 （計 8 問）、そして中国語版の非言語能力検査（計 8 問）の解答結果を示す。ここでは中国人学生の中国語版の果について、先の日本語版の結果しながら見ていく。表 15 では中国人学生の非言語能力検査に対する日本語版の誤答数と中国語版の誤答数を並べて示す。「カテゴリー」は問題の出題カテゴリーを示す。「×」は参加者の誤答を示し、「○」は正答を示す。「参加者の誤答数」は計 8 問に対する参加者の誤答の合計を示す。「日本語版問題の誤答数」と「中国語版問題の誤答数」にあたる誤答数は、日中各言語の各問題において、間違えた参加者の人数を示す。

表 15　日中両言語での解答結果の比較

カテゴリー / 参加者	1 年齢算	2 仕事算	3 速さ・時間・距離	4 濃度算	5 鶴亀算	6 確率	7 損益算	8 集合	参加者の誤答数
CP1	○	○	○	○	○	○	○	×	1
CP2	○	×	○	○	○	×	×	○	3
CP3	×	○	○	×	○	×	×	×	5
日本語問題の誤答数	**1**	**1**	**0**	**1**	**1**	**2**	**2**	**2**	
CP1	×	×	×	×	×	×	○	○	6
CP2	×	×	○	×	○	×	○	×	5
CP3	×	×	×	×	○	×	×	○	6
中国語問題の誤答数	**3**	**3**	**2**	**3**	**1**	**3**	**1**	**1**	

①誤答数

中国語版の計 8 問のうち、全員が間違えた問題が 4 問あった(問題 1、2、4 と 5)。全体的に中国語で解答するよりも日本語で解答するほうが誤答は少ない傾向にあった。

CP1 日本語版の問題では 1 問のみだが中国語版の問題では 6 問間違っていた。一方、CP3 は日本語版の問題で 5 問、中国語版の問題でも 6 問間違っていた。すなわち、個人差が大きいと言える。

②フォローアップインタビューからうかがえる誤答の要因

中国語で解答するほうが、より時間がかかった[31]。(CP1、CP2)

中国語版の問題はより難しく感じ、式さえ立てられない問題が多かった。(CP1、CP3)

このように、中国人学生の日中各言語版の非言語能力検査に対する解答結果を比較した際、3 人とも日本語版でより正答できたいたことがうかがえる。その要因は中国語版の非言語能力検査のほうがより難しいことが考えられる。計算ステップのみならず、問題のレベルが異なっていた。日本語版の問題は中学校の数学レベル相当であるのに対し、中国語版の問題は 2 次関数などの高校レベルの問題であった。

５．１．３　予備調査の問題点

非言語能力検査では、日本語版の問題で日本人学生よりも中国人学生の方がより誤答が少なかった。誤答に関わる要因として、数学の能力もあるが日本語の読解力が関わっている可能性がうかがえ、これは中国人学生だけではなく、日本人学生にも見られる現象であった。しかし、予備調査では言語の違いによる誤答率の差について検証することができなかった。

[31] 全体の解答時間は計測したが、言語ごとに計らなかったため、実際にこれらの中国人学生が中国語版及び日本語版の問題で、それぞれ解答にどれほど時間がかかったのかは不明である。

それは主に調査のデザインに問題があったためである。まず、日本人学生と中国人学生を対象に調査を行う際、参加者の数学能力を統制しなかった。このため、6 人の参加者間の個人差が非常に大きかった可能性がある。次に、日本語版の非言語能力検査の問題を選ぶ際に、問題選定の検討が不十分だったと考えられる。日本語版の非言語能力検査に相当する問題を選ぶ際、同じカテゴリーであるかどうかのみを基準とし、問題の難易度の差を考慮せず、中国国家公務員試験から問題を選んでしまった。また、「鶴亀算」や「年齢算」の問題は計算式が単純であり、問題の文章も長くなかったため、数学能力と読解能力を測るのに相応しいものではなかった。さらに、解答時間の計測にあたり、中国人学生が中国語版問題に解答するのにかかった時間と日本語版問題に解答するのにかかった時間を別々に計測しなかったため、各言語版での解答時間にどれほどの差があるか不明だった。そのため、本格的な調査を実施するにあたり、以下の点を改善する必要がある。

(1)計算ステップや出題文の長さなどを含め、中国語版問題と日本語版問題の難易度が等しくなるように問題を選定する。

(2)本調査では数学の能力と日本語の読解力を測るのにもっとふさわしいカテゴリーの問題を選ぶようにする。

(3)中国人学生について、中国語版で解答にかかる時間と日本語版でかかる時間を分けて計る。

(4)調査参加者の能力を統制して、調査を行う。ただし、教育の背景が異なるため、日本人学生と中国人学生の能力を統一するのは難しいと思われる。そのため、本調査は中国人学生を対象とした、日本語版の非言語能力検査と中国語版の非言語能力検査の調査にしぼる。

５．２　調査で用いる問題の検討

5.1 の予備調査では日本人学生と中国人学生を対象に SPI の非言語能力検査について模擬試験調査を行った。その結果、日本語版の非言語能力問題では日本人学生よりも中国人学生のほうが正しく答えていた。さらに、中国人学生の中国語版と日本語版の非言語能力問題の結果を比較したところ、日本語版の問題により正しく解答できていた。これには、日本語版と中国語版の問題の難易度に差があったことが影響していると考えられる。しかし、既存の問題集から問題を選ぶ際、難易度が同じであるかどうかを検証するのが難しい。そこで本節ではまず、既存の日本語版非言語能力検査の同レベルの各カテゴリーの問題を先に選び、

同じカテゴリーの問題からなる問題セットを 2 種用意した。そして、それらを中国語に翻訳した。さらに、翻訳した中国語の問題が元の日本語版の問題の訳文として妥当であるかどうかを検証するために、「逆翻訳(詳細は後述する)」を行い、原文と比較してみた。最後に、選んだ問題の難易度が同じであるかどうかを検証し、選定した問題の妥当性を検証するために、中国人学生のみを対象に 2 種の中国語版の非言語能力問題を用いて調査を実施した。その理由として、両言語の問題が異なる場合、誤答の原因が元の問題の難易度の差にあるのか、異なる言語で出題されたことにあるのかが特定できないことがある。しかし、先に 2 種の問題を用いて同じ言語で調査を行い、結果に差がなければ、2 種の問題の難易度が同じであると判断できる。

先述したように、5.1 の予備調査で選んだ問題のうち、一部数学の能力と日本語の読解力を計るのに不適切なものがあった。また、日本語版の問題のカテゴリー[32]に対応する中国語問題を、中国国家公務員試験の数理問題から選んだが、計算ステップや問題の難易度といった面で、日中両言語版の難しさが等しくなかった。これらの問題点を解消するために、問題のカテゴリーの出現頻度や重要度、数学能力と日本語の読解力を測るのに適切かという観点から、問題の選定を行う。問題を選ぶ際に、SPI のより代表的な問題を選ぶために、予備調査で参考にした『ユーキャンの SPI 問題集 2017 年度版』のみならず、大手ネット通販サイトアマゾンでベストセラーとして掲載されている『これが本当の SPI3 だ 2020 年度版』(以下『本当の SPI3』と称す)と『最新！SPI3 完全版』(以下『完全版』と称す)も参考にする。これに加えて、実際により多く出題されている問題に近づけるために、SPI の受験方式を確認し、受験者数の多い受験方式に対応する問題を選ぶこととする。「SPI ノートの会」[33]のホームページで掲載されている SPI 受験方式や各方式の受験者数の比率などの情報のもとに表 16 のようにまとめる。

表 16　SPI の受験方式及び受験者数の割合

実施方式		方式の説明	受験者数の比率
パソコン	テストセンター	専用会場のパソコンで受ける	65%
	WEB テスティング	自宅のパソコンで受ける	20%
	インハウス CBT	企業内のパソコンで受ける[34]	1%
紙	ペーパーテスト	マークシートを企業内などで受ける	14%

[32] 年齢算、仕事算、速さ・時間・距離、濃度算、鶴亀算、確率、損益算、集合の計 8 カテゴリーの問題を選び、解答してもらった。
[33]「SPI ノートの会」のホームページによると、当該組織は就職試験・採用テストを研究するグループという。
[34] WEB テスティングとほぼ同じテストが実施されるという。

表 16 のように、パソコンでの受験者数が全体の 86%を占め、8 割を超えている。その内訳をみると、65%はテストセンターで、20%が自宅のパソコンで受験しており、1%のみが企業内のパソコンで受験している。パソコン受験形式に対し、紙で受験しているのは全体の 14%で、2 割未満である。そのため、問題を選定する際に、前述の三冊の対策書のうち 2 冊以上で扱われている問題を中心に、テストセンター及び WEB テスティングに対応している問題に重点をおき、さらに、数学能力及び日本語の読解力両方を測れるような問題を選定した。それを表 17 に示している。表内の「センター」はテストセンターを、「WEB」は WEB テストを、「ペーパー」はペーパーテストを示す。「数学」は数学能力を示し、「読解力」は日本語の読解力を示す。「○」はそれぞれのカテゴリーに対応していることを表し、「×」は対応していないことを示す。

表 17　模擬試験調査の問題選定

	対策書			テススの形式			測る能力	
カテゴリー	『完全版』	『本当の SPI3』	『ユーキャン』	センター	WEB	ペーパー	数学	読解力
損益算	○	○	○	○	○	○	○	○
分割払い	○	○	○	○	○	○	○	○
代金の精算	○	○	○	○	×	○	○	○
順列・組合せ	○	○	○	○	○	○	○	○
確率	○	○	○	○	○	○	○	○
速さ・時間・距離	○	○	○	○	○	○	○	○
表の読み取り	○	○	○	○	○	×	○	○
集合	○	○	○	○	○	○	○	○
料金の割引	○	×	○	○	○	○	○	○
割合	○	×	○	○	○	×	○	○
推論	○	○	○	○	○	○	×	○
資料解釈	○	○	×	○	○	×	○	×
長文の読み取り	○	○	×	○	×	×	×	○
物の流れと比率	×	×	○	○	×	×	○	○
ブラックボックス	×	×	○	○	×	×	×	○
グラフ領域	×	×	○	○	×	×	○	×

選定の過程は以下の通りである。

①対策書の前書きの紹介から頻出度及び重要度が高い問題を表 17 の「カテゴリー」の部分にリストアップした。その際、扱っている問題が同じであるが、異なるカテゴリー

名が付いているものは一つに統一した[35]。

②上述の 3 冊の対策書の 2 冊以上で扱われている問題を調査の問題として選ぶこととした。これにより、「物の流れと比率」、「ブラックボックス」、「ブラフ領域」の問題は対象外となった。

③主にテストセンターと WEB テスティング形式に対応している問題を選んだ。これにより、この二つに対応できない「長文の読み取り」が対象外となった。ただし、「代金の精算」も WEB テストに対応できていないが、数学能力と日本語能力の両方を測れ、3 冊の対策書すべてで扱われているため、模擬試験の問題として選ぶこととした。

④上記の 3 つの手順でしぼられたカテゴリーのうち、数学能力及び日本語の読解力の両方を測れる問題を選び、頻出度が高いが数学能力を測定するのにふさわしくない問題を除くこととした。例えば、『本当の SPI3』では「推論」問題の頻出度が高いが、主に長い文章題で論理的な思考能力を測るもので、数学能力を測るものではないため、対象外とした。また、「資料の解釈」の問題も重要度が最も高いランクに入っており、テストセンターと WEB テストに対応し、2 冊以上の対策書で扱われているが、出題文の文章題の言語形式が単純であるため、数学能力は測れるが、日本語の読解力は測れないと判断し、除外した。

これらの過程を経て、最終的に損益算、分割払い、代金の精算、順列・組合せ、確率、速さ・時間・距離、表の読み取り、料金の割引、集合、割合の計 10 のカテゴリーの問題を模擬試験調査の問題として選定した。

次に、日本語版の問題を中国語に翻訳する。翻訳にあたって用いる単語の妥当性や訳文の自然さなどで個人的な選好による影響を少なくするために、筆者と日本語が堪能な中国人[36]で翻訳し、両者の訳文の差を確認した。そして、翻訳した中国語版に修正を施し、1 つの翻訳文としてまとめた。また、中国語翻訳の正確性を確かめるために、日本語の分からない中国人母語話者 1 人[37]に中国語問題のチェックをしてもらった。さらに、正確に翻訳されてい

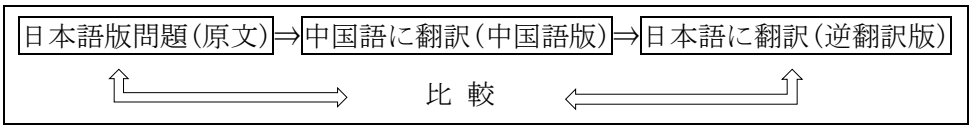
[35] 『ユーキャン』では時刻表、旅人算、速さ・時間・距離の重要度が高く、3 つのカテゴリーに分けて速さ、時間、距離を計算する問題として説明しているが、本稿では他の 2 冊と統一し、「速さ・時間・距離」の一つのカテゴリーとみなした。

[36] 翻訳作業時、修士課程に在学しており、学部の専門は日本語である。現在の研究分野は日本語教育であり、文法について研究している中国人母語話者であり、日本語超級者である。

[37] 日本語と中国語両方分かる人の場合は中国語の翻訳が不適切であっても、日本語での言い方を分かるため、中国語として不自然な訳に気づけないことが考えられる。チェックする際、訳文が自然どうかに注目するように依頼した。

るかどうかを検証するために、翻訳した中国語版を「逆翻訳」[38]という方法を用いて、日本語が堪能な中国語母語話者 1 人[39]に翻訳してもらった[40]。最後に、日本語版の問題文の原文と逆翻訳した問題文を比較した。その手順は以下の図 2 に通りである。

図 2　逆翻訳の手順



以下では一つの例を用いて説明する。

①日本語版の問題(原文)

3．香川君、本田君、岡崎君の 3 人が、川島君に内定祝いのプレゼントをした。香川君は 30000 円のかばんを買い、本田君は 16000 円のネクタイを買った。岡崎君は 000 円のシャツを買った。3 人で同額ずつ負担する場合、岡崎君は香川君にいくら支払えばよいか。

②中国語に翻訳(中国語版)

3．香川，本田与冈崎三人为了给川岛庆祝找到工作，给他买了礼物。香川买了 30000 日元的包，本田买了 16000 日元的领带，冈崎买了 8000 日元的衬衫。如果 3 人将总额平摊的话，冈崎该给香川多少钱？

③日本語に逆翻訳(逆翻訳版)

3．香川さん、本田さんと岡崎さんは、川島さんの内定祝いのため、それぞれプレゼントを買いました。香川さんは 30,000 円のバッグを買い、本田さんは 16,000 円のネクタイ、そして岡崎さんは 8,000 円のシャツを買いました。すべてのプレゼントの総額を 3 人で割り勘をするとき、岡崎さんは香川さんに何円を渡さなければならないですか。

①は日本語版の原文であり、②は中国語に翻訳した問題文である。そして、③は②の中国語に翻訳した問題を日本語に翻訳した逆翻訳版である。そして、①と③と比較し、②の中国

[38] スマート翻訳によると、逆翻訳とはある言語から別の言語へと翻訳された文書内容を、再度元の言語に翻訳しなおす作業のことである。この作業を行うことで、翻訳された文書が正確かつ明確になっているかどうかを客観的に検証することができ、逆翻訳された文書と元の文書を比較・検証した上で、元の文書により正確な翻訳になるように校正作業を進めることで、最終的により高精度の翻訳が出来上がるという。
https://www.smart-translation.com/guide?title=%E9%80%86%E7%BF%BB%E8%A8%B3%E3%81%A8%E3%81%AF

[39] この翻訳者は逆翻訳を行った時点では博士課程だが、日本企業に 2 年間勤めた経験も持っている。そして、日本で修士課程を修了し、日本語で論文を書いており、現在の研究分野は日本語教育である。日本語超級者である。

[40] 翻訳してもらう際に、数学独特の言い回しを考慮し、できるだけ意訳しないように指示した。

語に翻訳した内容の妥当性を検討した。①と③は同じ意味であれば、②の中国語の翻訳版が妥当であると言える。上記の例のように、①と③は文体や単語は少し異なるものの、意味では同じである。日本語の原文、中国語翻訳版と日本語逆翻訳版に関する全体の内容について、資料 3[41]として稿末に付す。その結果、10 問ほぼすべてが原文の意味と同じように翻訳されていることが確認された[42]。10 問中 5 問の一部の単語は原文と異なる単語に翻訳されていたが、文全体の意味を大きく左右する単語は少なかったため、本章で用意した中国語の翻訳は概ね妥当であると考えられる。しかし、数学問題で頻繁に用いられる用語で、日本語版の原文と逆翻訳でずれが見られるものがあった。ずれの見られるものについて、日本語版原文と中国語翻訳及び逆翻訳文を表 18 に示す。

表 18　原文と逆翻訳版の比較

	原文	中国語翻訳	日本語逆翻訳
問 1	定価	出售价	売価
問 2	総額	总金额	定価
問 4	掃除当番	卫生值日生	日直
問 6	分速 80m	以每分钟 80m 的速度	1 分あたり 80 メートルのスピード
問 10	ある床面 1 ㎡塗る	涂刷 1 ㎡某地板	あるフローリングの塗装作業

表 18 に示した 5 つの異なる語彙のうち、問 4、問 6 と問 10 の逆翻訳は差があるものの、文章題全体の理解を左右しない。しかし、問 1 と問 2 の翻訳は全体の理解を左右する。問 1 に関しては、中国語訳が「出售价」となっている。この中国語は「売り出す価格」という意味を表すため、逆翻訳が「売価」になったと考えられる。問題の意味が正しく理解できるように、本調査を行うにあたり、「定価」の中国語訳を「定价」にする。しかし、問 2 の「総額」に関しては、中国語訳の「总金额」が妥当であり、逆翻訳した時の間違いであると考えられるため、中国語をそのまま採用する。軽微な修正を行ったものの、全体の意味理解に支障を与えないことが確認できたため、中国語翻訳版は妥当であると考えられる。

前述のように 5.1 の予備調査では日中両言語版の問題の難易度が大きく異なっていたと考えられる。そのため、本調査で使用する問題の難易度をできるだけ近づけられるように、計算ステップや使用する方程式が同じになる問題を選んだが、念のため難易度の適切さを

[41] 資料 3 では、日本語版原文を先に示したあと、それに対する中国語版を示し、最後に逆翻訳版の内容を示す。
[42] 逆翻訳された文章題は丁寧体であったが、これは具体的な指示がなかったためである。文体は文の意味理解に支障を与えないため、ここでは議論しないこととする。

検証する必要があると思われる。また、同じカテゴリーの問題[43]を日本語版と中国語版で 2 回解答するため、2 番目に解答する問題では順序効果が生じる可能性も考えられ、この 2 つの要因が解答に影響を与える可能性がある。そのため、本調査に先立ち、問題の難易度が同じかどうか、出現順序が解答結果に影響を与えるかどうかを検証するための調査を実施する。この調査のため、本調査で用いる予定の日本語版の問題も中国語版に翻訳し[44]、2 セットの中国語版の問題に解答してもらった。また、順序効果が生じるかどうかを検証するために、参加者を A グループと B グループの 2 つのグループに分け、2 セットの問題を A グループと B グループで前半セットと後半セットの問題を入れ替えて出題した。以下では、2 セット問題の難易度検証のための調査の概要、調査結果及び問題点について述べる。

５．２．１　調査の概要

１．調査資料

損益算、分割払い、代金の精算、順列・組合せ、確率、速さ・時間・距離、表の読み取り、料金の割引、集合、割合の計 10 のカテゴリーの問題を 2 問ずつ選んで、各カテゴリーの問題を題ずつ含む 10 問からなる問題セットを 2 種用意して、中国語に翻訳し、調査資料とした(資料 4 として稿末に付す)。以下ではこの 2 種の問題セットを問題 a と問題 b とする。各カテゴリーの問題が具体的にどのようなものであるかを、前述の 3 冊の対策書の説明をもとに表 19 にまとめる。

表 19　問題のカテゴリー及び出題内容

カテゴリー	出　題　内　容
損益算	品物を仕入れて販売したときの損益を計算する問題
分割払い	全体を 1 としたとき、分割払いでの支払い金額を求める問題
代金の精算	代金の精算や割引などの問題
順列・組合せ	幾つかを選んで並べるときや選ぶ方法が何通りあるかを計算する問題
確率	ことがらの発生する確率を計算する問題
速さ・時間・距離	速さ、距離、時間の関係を踏まえてこのいずれかを計算する問題
表の読み取り	表中に示された数値をもとに、平均値や総額などを計算する問題
料金の割引	料金が割引された時の支払い額や割引されない時との差額を計算する問題
集合	グループのなかで、与えられた条件に合う人数や数量を求める問題
割合	全体のうち、あるものの割合を計算する問題

[43] 同じカテゴリーの問題ではあるが、問題の数値が違ったり、計算式が逆だったりする問題を選定した。
[44] 逆翻訳はしていないが、同じく筆者ともう一人の中国語ネイティブが翻訳したあと、日本語の分からない中国語ネイティブにチェックしてもらった。

２．調査参加者

この調査の目的は、選定した問題の難易度が同じであるかどうか、問題の提示順序によって順序効果が生じるかどうかを検証することである。中国語版のみで実施し、調査参加者を中国人という条件でランダムに探した。そのため、必ずしも留学生とは限らない。日本語が分からない中国人学生も含まれる。学歴に異なりがあったため、解答について後で統計を行う必要から、以下のようにグループ分けを行った。

A グループ 13 人：大学生 8 人、修士 3 人、博士 2 人。A1～A13 で示す。

B グループ 13 人：大学生 8 人、修士 3 人、博士 2 人。B1～B13 で示す。

３．調査方法

前述の中国語版の 10 カテゴリー計 20 問をすべて解答してもらった。前半セットの 10 問を問題 a とし、後半セットの 10 問を問題 b とする。問題 a と問題 b は同じカテゴリーの問題でる。A グループには a→b の順番で解答してもらい、B グループには b→a の順番で解答してもらった。手順は以下の通りである。

①参加者に調査内容について説明を行った。

②制限時間は設けないことを説明し、問題用紙及び解答用紙を配布し、解答してもらった。

③すべての解答終了後、問題用紙及び解答用紙両方を回収し、調査を終了した。

対面が難しい参加者に関しては、調査手順の以下の通りである。

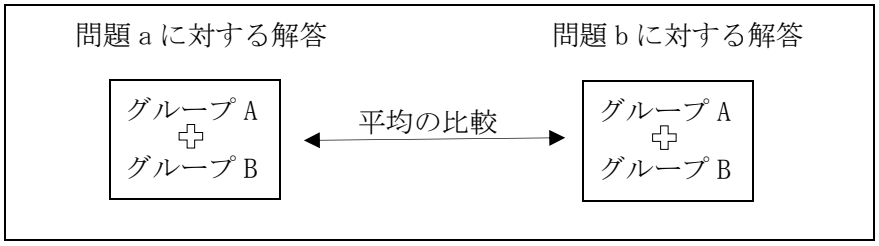
①本人確認を行ったあと、メールで問題用紙を送付し、問題を受け取ったことを確認し、解答を開始するように指示した。

②すべて解答終了後、問題の解答を送ってもらうように指示した。

４．分析方法

難易度を検証するために、図 3 の通りに分析を行った。問題 a に対するグループ A とグループ B の平均点と問題 b に対するグループ A とグループ B の平均点を比較し、その間に差があるかうかを確認した。

図 3　難易度の比較



前述のように、A グループは問題→問題 b の順序、B グループは問題 b→問題 a の順序で解答した。順序効果を検証るために、それぞれのグループ内で、A グループは問題 a-b、B グループは問題 b-a を計算した。正の数が算出されれば、二回目に解答した問題の正答数の平均が大きく、順序効果があることが検証される。

５．２．２　調査の結果

A グループの結果を表 20 に、B グループの結果を表 21 に示す。a と b に対する横列の数値は、a と b の問題に対する各参加者の正答数を表す。「a-b」は A グループの a と b の問題に対する正答数の差を示す。「b-a」は B グループの b と a の問題に対する正答数の差を示す。「平均点」は a と b の問題に対する 13 名ずつの正答数の平均である。

表 20　A グループの解答結果

参加者 / 問題	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11	A12	A13	平均点
a	8	7	6	5	7	5	6	7	4	8	3	6	3	5.77
b	8	8	8	5	5	5	3	5	9	4	7	7	6	6.15
a-b	0	+1	+2	0	−2	0	−3	−2	+5	−4	+4	+1	+3	+0.38

表 21　B グループの解答結果

参加者 / 問題	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	B11	B12	B13	平均点
b	5	10	6	6	6	5	4	9	10	6	2	4	3	5.85
a	8	7	7	7	8	6	6	7	10	5	3	1	2	5.92
b-a	+3	−3	+1	+1	+2	+1	+2	−2	0	−1	+1	−3	−1	+0.07

まず、難易度が同じであるかどうかを確認する。問題 a に対する平均点について、グループ A は 5.77 で、B グループは 5.92 であり、両グループの平均点は 5.84 である。問題 b に対する平均点は、グループ A は 6.15 で、B グループは 5.85 であり、両グループの平均点は 6.00 である。問題 A と B 両グループのグループ内での問題 a と問題 b に対する解答の平均を比較した。A と B 両グループのグループ間の問題 a と問題 b に対する平均点は 0.15 でありに、きな差が見られなかった。

次は、順序効果を検証する。A グループの a と b に対する正答数の平均の差は 0.38 である。B グループの b と a に対する正答数の平均の差は 0.07 であり、問題 a に対する平均点

は、先に解答したAグループは5.77であり、後に解答したBグループは5.92である。問題bに対する平均点ついて、先に解答したBグループは5.85であり、後に解答したAグループは6.15である。AグループとBグループとも同じカテゴリーの問題に2回解答することによって、正答数があがった参加者もいれば、正答数に変化なしの参加者もいる。一方、正答数が逆に下がった参加者もいる。しかし、平均点でいうと、どちらのグループも2回目解答した問題のほうが高い。

さらに、AとB両グループの間に差があるかどうか確認するためにそれぞれの20問に対するの正答の平均、分散及び標準偏差をまとめた。それを表22に示す。

表22　両グループの解答結果の比較

グループ	*N*	*M*	*SD*
A	13	11.92	7.76
B	13	11.54	18.56

表22で示しているように、Aグループ全体の平均値は11.92であり、Bグループの平均は11.54であり、大きな差が見られなかったため、難易度がほとんど同じであると言える。しかし、標準偏差はBグループの方がより大きい。即ち、Bグループの解答結果の分散が大きいと言え、個人差が大きいとも言える。このことが全体の傾向を影響した可能性がある。

以上のように、各グループ間の問題aと問題bに対する平均値は大きな差は見られなかった。そのため、aとbの難易度はほぼ同じであると考えられる。しかし、いずれも2回目に解答したほうが正答数の平均点が上がっていた。つまり、順序効果があるように見える。そして、両グループの解答結果を比較した結果、グループBの個人差が非常に大きいことに分かった。

５．２．３　調査の問題点

上記の結果からグループ内の参加者間での個人差が大きいと言える。特にBグループでは、すべての問題に解答できた参加者もいれば、20問のうち5問しか正しく解答できなかった参加者もいた。これは調査参加者の学力が均一ではなかったからであると考えられる。また、今回の調査参加者には大学生、修士、博士の学歴をもつ者が混ざっている。これも全体の傾向を左右したと考えられる。そのため、学力をある程度統一したうえで、追加調査を

行うこととした。

５．３　調査資料の再検討

5.2 では調査資料とする問題の難易度が同じであるかどうかを明らかにし、選んだ問題の妥当性を証明することを目的とした。しかし、調査の参加者の学力を統制しなかったため、個人差が大きく、調査結果の信頼性が保証できない。そのため、調査参加者の学力を GPA で統制し、5.1 及び 5.2 の参加者とは異なる参加者たちを対象とし、同じ問題を用いて、再検討を行った。本節ではその結果を述べる。

５．３．１　調査の概要

1. 調査参加者

前述のように中国人学生を対象とした非言語能力問題の予備調査の参加者の学力は、個人差がかなり大きいと考えられる。そこで、学力を統一するため、この調査では「学部留学生で GA が 2.8 以上の者」と条件を設定し、参加者を募った。参加者の属性について次頁の表 23 に示す。調査は 2019 年の 7 月から 8 月の間に行ったため、学部一年の留学生はまだ期末試験を受けておらず、GPA の点数を得られていなかったため、学年は必然的に 2 年から 4 年となった。なお、来日年数について、日本に来て何年何ヶ月になっているかをたずねたが、統計を行う便宜上、表内では年数を月数に変換している。表 23 では、GPA の点数の降順で 28 名の参加者を並べている。

表 23　参加者の属性

参加者	GPA	性別	来日月数	学年
1	3.56	女	36	2
2	3.50	女	36	3
3	3.46	女	60	3
4	3.41	女	60	3
5	3.33	女	24	2
6	3.26	女	60	3
7	3.20	男	24	2
8	3.20	女	48	3
9	3.20	女	60	3
10	3.20	女	60	4
11	3.12	男	60	3
12	3.05	男	29	2
13	3.01	男	60	4
14	3.00	男	51	3
15	3.00	女	34	2
16	2.95	女	48	2
17	2.90	女	72	4
18	2.90	男	36	2
19	2.90	女	60	4
20	2.90	男	36	2
21	2.89	女	36	2
22	2.81	女	36	2
23	2.81	女	48	3
24	2.80	男	31	2
25	2.80	女	48	3
26	2.80	女	48	3
27	2.80	女	34	2
28	2.80	男	72	4

２．調査資料

5.2 の予備調査で使った 10 カテゴリーの問題セット計 20 問を調査資料とした。

３．調査方法及び手続き

調査は 2019 年 7 月から 8 月の間に行い、期末試験準備で忙しい、試験終了後すぐ帰国するなどの理由で参加者との対面が難しい場合はオンライン方式で行った。そのため、擬試験調査は紙媒体及びオンライン方式の 2 つの方法で行った。調査参加者を A グループと B グループに振り分ける際、恣意性を防ぐため、カード A とカード B を作った。そして、カード

の文字が見えない袋に入れ、参加者の調査協力を得た場合、その袋からカードを引き、カードAが引かれた場合はAグループに振り分け、カードBが出た場合はBグループに振り分けた。複数の参加者を対象に同時に調査を実施する場合、事前にフェイスシートでGPAを確認したうえ、カードを引き、グループの振り分けをした。以下では紙媒体及びオンライン方式の2つの方法の手続きについて説明する。

A. 紙媒体の模擬試験調査

①調査内容について説明を行い、データの扱い方について承諾を得て、署名をもらった。

②参加者のGPAの具体的な点数や日本語能力などを知るために、それらの項目を含めたフェイスシート(資料5として稿末に付す)を記入してもらった。

③引いたカードに応じて、いずれかのグループA、Bの振り分けを行った。

④問題用紙及び解答用紙を配布し、解答してもらった。テストセンターで受験する際に、電卓の使用は認められている場合が多いことから、電卓の使用を認めた。なお、問題の難しさや計算間違いなどが原因で正しい答えが導き出せない場合は、選択肢を選ばないことも想定されるため、各問題に対して、必ず一つの選択肢を選ぶように指示した。

⑤解答終了後、問題用紙及び解答用紙を回収し、謝礼を手渡し、調査を終了した。

B.オンライン方式の模擬試験調査

主にLINEやWeChat[45]等のソーシャルメディアを使って調査を行った。主に中国人留学生のグループLINEやWeChatグループに具体的な調査内容調査参加者の条件などを編集したメッセージを送信し、参加者を募った。参加の意向を示した者には、先にGPAが2.8以上であることを証明できるものを送ってもらった。調査の具体的な手順は以下の通りである。①～⑤までは一連の手続きとして、間を空けずに行った。

①LINEやWeChatでテレビ通話をし、本人確認を行った。

②調査内容について再度説明を行い、データの扱い方について承諾を得た。

③問題のPDFファイルを参加者に送信し､受取った時点から解答開始するように指示し、解答終了後直ちに答えを送信するように依頼した。

④解答終了後、グーグルフォームに日本語能力、学年、来日年数などについてフェイスシートに入力してもらった。オンライン方式での調査方法が解答に影響をもたらす可能性があると考えられるため、このような方式での調査方法についてどう思うかなどについてアンケートで回答してもらった。

[45] スマートフォンで、無料通話やチャットが楽しめるコミュニケーションアプリであり、電子ファイルなどを送れる。

⑤グーグルフォームに入力してもらった内容を確認した後、PayPay[46]やWeChat Pay[47]などの電子マネーで謝礼を送金し、調査を終了した。

(4)分析方法

28名のうち8名とは対面し、紙媒体で調査を行った。そのほかの20名とは対面できなかったため、オンライン方式で調査を行った。28 名の参加者から得た解答の正誤を確認したそして、「解答する問題の順番が変わることが結果に影響を与える」という帰無仮説を立て、IBM SPSS Statistics Base(以下SPSSと称す)の Version 26で1要因の分散分析を行った。

５．３．２　調査の結果

本節では1要因2水準の対応なしの分散分析の結果を示す。前述のように、参加者をAグループとBグループの二つに分け、20 問を A グループに問題 a→b の順番で解答してもらい、Bグループに問題 b→a の順番で解答してもらった。問題の提示順序が結果を影響する可能性があるため、問題の提示順序を独立変数とし、問題に対する結果を従属変数とする。そのほか、問題aと問題の難易度が同じであるかどうかも検証した。

まず、問題の提示順序が解答結果に影響を与えるという帰無仮説を立て多変量検定を行い、一般線形モデルで反復測定を行った。その結果を表24に示す。

表 24　　問題の提示順序の影響

ソース		タイプⅢの平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
順　序	球面性の仮定	136.630	1	136.630	.613	.045
	Greenhouse-Geisser	136.630	1	136.630	.613	.045
	Huynh-Feldt	136.630	1	136.630	.613	.045
	下限	136.630	1	136.630	.613	.045
誤　差	球面性の仮定	2896.071	13	222.775		
(順序)	Greenhouse-Geisser	2896.071	13	222.775		
	Huynh-Feldt	2896.071	13	222.775		
	下限	2896.071	13	222.775		

[46] PayPayとは、ソフトバンクとヤフーが設立した「PayPay株式会社」が運営するスマホを使って支払うサービスでであり、送金先のIDを知れば、簡単に送金できる。
[47] WeChat Payは、「WeChat」に付随するモバイル決済機能で、主に中国国内での店舗決済や個人間送金に利用されている。

問題の提示順序によって結果が異なるかを、参加者内 1 要因分散分析によって検討したところ、提示順序($F(1,34) = .613$), $P = .045$)の有意確率が 5%未満であった[48]。すなわち、帰無仮説が棄却され、問題の提示順序が結果に影響を与えるという仮説が否定されると考えられる。このように、問題を提示する順序が結果に影響を与えないということが証明できる。

次に、問題 a と問題 b の難易度が同じであるかどうかを検証した。問題の難易度が異なるという帰無仮説を立て、分散分析を行った。問題の難易度が独立変数であり、解答結果が従属変数である。表 25 ではグループ A とグループ B の記述統計を示し、表 26 では分散分析の結果を示す。

表 25　記述統計

グループ	*N*	*M*	*SD*	*SE*
A	14	67.85	13.432	2.538
B	14	69.64	18.152	3.430
合計	28	68.75	13.376	2.527

(平均値の 5%信頼区間)

表 26　「対応なし」の分散分析結果

	平方和	自由度	平均平	F 値	有確率
グループ間	200.893	1	200.893	1.128	.298
グループ内	4630.357	2627	178.091		
合計	4831.250				

もっとも代表的な統値である F 値と有意確率を見る、F は $F(1,26) = 1128$、P 値が $P = .298$ となっており、P＞0.5 であり、5%水準で有意ではない。つまり、グループ A とグループ B の平均値は約 1.8 異なるものの、全体として、統計的には有意ではなかったことを表す。そのため、帰無仮説「問題の難易度が異なる」が棄却される。即ち、問題 a と問題 b の難易度が同じであると言える。

このように、表 24 から問題を提示する順序が結果に影響を与えないということが証明で

[48] 反復測定による分散分析では、仮説が成り立たない（有意確率が 5%未満の）とき、被験者内効果の検定の有意確率が小さくなるので、Greenhouse-Geisser のイプシロンを利用して自由度を修正したものを採用することになる。表 24 の被験者内効果の検定で、Greenhouse-Geisser の行を見てみると、自由度が 1 と 13 で F 値が 6.13 であり、有意確率が .045 である。

き、表 25 から問題 a と問題 b の難易度では有意な差がないことが証明できた。そのため、調査材料として、選んだ問題は妥当であると言える。そこで、これらの問題を用いて本調査を実施する。

５．４　非言語能力検査における言語の影響についての本調査

5.3 節での調査から問題を提示する順序が解答結果に影響を与えないということが証明でき、本調査で調査資料として使う中国語版問題と日本語版問題の難易度が同じであることが証明できた。そのため、これらの問題を用いて本調査を実施する。本調査では、筆記試験 SPI の非言語能力検査の解答に言語能力が影響するかどうかを明らかにすることを目的としている。そのため、中国人学生を対象に、SPI の中国語版の問題と日本語版の問題に解答してもらい、その差が有意であるかどうかを見た。以下では、本調査の調査概要、調査結果について述べる。

５．４．１　調査の概要

１．調査資料

5.3 で用いた 10 のカテゴリーの問題の日本語版(資料 3 の日本語版問題にあたる)と中国語版(資料 4 の 11～20 問にあたる)の計 20 問を調査資料とした。

２．調査対象

中国人留学生 20 名を調査対象とし、N1 合格者という条件で参加者募った。今回は同じ参加者が日本語版の問題と中国語版の問題を解答するため、具体的な GPA は統制しなかった。日本語能力が関与しているかどうかを探るため、N1 取得点が 100 点から 180 点までで 20 点刻みでそれぞれ 5 人になるようにした。

３．調査方法

本調査も予備調査と同様に、オンライン方式で行った。主に中国人留学生のグループ LINE や WeChat グループに具体的な調査内容や調査参加者の条件などを編集したメッセージ送信し、参加者を募った。調査を行うにあたって、日本語版の問題を先に解答してもらうようにした。それは、中国語版の問題を先に解答した場合、問題を自分の母語で理解しているため、その理解が日本語版の問題に解答する際に、プラスに働くと考えたからである。具体的な手続きは以下の通りである。

①LINE や WeChat でチャットをし、本人確認を行った。

②調査内容について説明を行い、データの扱い方について承諾を得た。そして、問題解答時は電卓の使用は認めることと解答制限時間はないが、解答にかかった時間を申告するように依頼した。

③グーグルフォームを使って事前に作成したフェイスシートに、日本語能力、学年、来日年数などについて入力してもらった。

④日本語版問題の PDF ファイルを参加者に送信し、その時点から解答開始するように依頼し、解答終了後直ちに解答及び解答にかかった時間を送信するように依頼した。

d. 日本語版問題の解答を送信してもらった後、中国語版問題を送信し、その問題に解答するよう依頼し、解答終了後直ちに答え及び解答にかかった時間を教えてしてもらうように依頼した。

e. グーグルフォームに入力してもらった内容、両言語版問題に対する解答及び解答時間を確認してから PayPay や WeChat Pay などの電子マネーで謝礼を送金し、調査を終了した。

４．分析方法

20 名の参加者から得た問題に対する解答を問題の解説・解答と照らし合わせ、正誤の判断を行った。そして、日本語版問題と中国語版問題それぞれに対する正答数と正答率及び解答時を記録した。日本語版問題に対する正答数と中国語版に対数正答数の間にどのような差があるかを明らかにするため、分析は SPSS(Version 25)で対応のある *t* 検定を行った。

５．４．２　調査の結果

まず、参加者の両言語版の問題に対する解答結果及び解答時間を示す。その際、参加者の日本語能力の N1 の点数も併せて示す。そして、SPSS で行った対応のある *t* 検定の結果を示す。最後に、参加者の誤答に注目し、どのような問題を間違えているかについて分析する。

１．解答結果

表 27 では参加者の N1 の点数、日本語版問題と中国版問題に対する正答数及び正答率、解答するのにかかった時間を示している。表内では J は日本語を示し、C は中国語を示している。そのため、「J 正答」と「J 正答率」は日本語版問題に対する正答数と正答率を示している。「C 正答」と「C 正答率」は中国語版問題に対する正答数と正答率を示す。そして、T は時間を示しており、「JT」は日本語版問題でかかった時間を示し、「CT」は中国語版問題でかかった時間を示す。なお、N1 の点数を降順で並べている。

表 27　参加者の解答結果

参加者	N1 点数	J 正答	J 正答率	C 正答	C 正答率	JT	CT
1	173	5	50%	8	80%	60	40
2	167	6	60%	9	90%	12	10
3	164	8	80%	6	60%	17	13
4	162	5	50%	7	70%	26	13
5	160	8	80%	6	60%	28	20
6	159	8	80%	8	80%	23	21
7	158	5	50%	5	50%	32	20
8	158	9	90%	9	90%	17	10
9	158	8	80%	6	60%	30	30
10	154	10	100%	9	90%	20	16
11	136	7	70%	10	100%	60	30
12	132	6	60%	5	50%	35	29
13	127	9	90%	8	80%	23	14
14	127	4	40%	4	40%	34	22
15	127	6	60%	7	70%	38	28
16	119	6	60%	5	50%	31	15
17	117	6	60%	8	80%	45	35
18	115	5	50%	7	70%	27	23
19	110	7	70%	6	60%	55	30
20	104	5	50%	6	60%	34	15

表内の正答数を見れば、日本語版と中国語版で大きな違いがないようである。日本語版問題の正答数のほうが多い参加者は 20 名のうち 8 名いる(参加者 3、5、9、10、12、13、16 と 19)。中国語版問題の正答数のほうが多い参加者は 20 名のうち 9 名いる(参加者 1、2、4、11、14、15、17、18 と 20)。日本語版問題と中国語版問題に対する正答数が同じである参加者は 20 名のうち 3 名いる(参加者 6、7 と 8)。

一方、日本語版問題と中国語版問題に解答するのにかかった時間を見ると、大きな違いがあると言える。参加者 9 を除く残りの 19 名はすべて日本語版の問題に解答するのにより時間をかけている。日本語版問題と中国語版問題の解答時間差が 2 分である参加者 6 のような例もあるが、参加者 11 のように日本語版問題で 60 分をかけ、中国語版問題で 30 分かけ解答時間の差が倍になっている例もある。このように正答の特徴が表 27 からは分かりにくい。そのため、20 名の中国語版問題に対する正答数と日本語版に対する正答数を比較し、差があるかどうか、また解答時間に統計的な差があるかどうかを明らかにする必要がある。

２．分析結果

中国語版問題と日本語版に対する正答数及び解答時間に統計的な差があるかどうかを明らかにするために、SPSS で対応のある *t* 検定を行った。*t* 検定や分散分析などの平均値を比較る検定（パラメトリック検定）は、正規分布をしていることが前提である。そのため、 *t* 検定を行う前に正規性の検定を行った。帰無仮説は「この変数は正規分布をしている」である。有意確率の値が有意水準 .05 以上であれば、仮説「この変数は正規分布をしている」が採用され、有意確率の値が有意水準 .05 未満であれば、仮説が棄却されて「この変数は正規分布をしていない」という対立仮説が採用される。表 28 に正規性検定の結果を示す。

表28　正規性の検定

	Kolmogorov-Smirnov の正規性の検定（探索的）			Shapiro-Wilk		
	統計量	自由度	有意確率	統計量	自由度	有意確率
JT	.173	20	.118	.917	20	.088
CT	.15	20	.200*	.940	20	.241
J 正答	.202	20	.032	.932	20	.168
C 正答	.144	20	.200*	.952	20	.398

*：真の有意水準の下限の数値であることを示す。

表 28 に示しているように、Kolmogorov-Smirnov の正規性の検定(探索的)と Shapiro-Wilk の 2 つの有意確率がある。分析元データが 50 ケース未満であるために、ここでは小さいデータセットに特化した計算である Shapiro-Wilk の有意確率を確認する。Shapiro-Wilk の有意確率を確認したところ、日中両言語版問題に対する正答数及び解答時間の 4 つとも有意水準の .05 より大きい。そのため、仮説「この変数は正規分布をしている」が採用される。データは正規分布であることが確認できたため、対応のあるサンプルの *t* 検定を行った。表 29 に中国語版問題と日本語版問題に対する正答数、解答時間の平均値、度数、標準偏差、平均値の標準誤差を示す。

表29　解答時間及び正答の統計量

	M	*N*	*SD*	*SE*
JT	32.35	20	13.678	3.058
CT	21.70	20	8.664	1.937
J 正答	6.65	20	1.663	.372
C 正答	6.85	20	1.755	.393

平均値をみると、日本語版問題でより時間をかけているが正答の平均値は中国語版問題の平均値より 0.2 低いことが分かる。この差は恐らく統計的に有意なものではないと予想されるが、統計を行ってみた。

表30　解答時間及び正答の検定

	対応サンプルの差					t 値	F	有意確率（両側）
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間				
				下限	上限			
JT － CT	10.650	8.002	1.789	6.905	14.395	5.952	19	.000
J正答 － C正答	-.00	1.908	.427	-1.093	.693	-.469	19	.645

表30では対応サンプルの検定結果を示している。中国語版問題と日本語版問題の解答時間 t 値が5.952であり、自由度が19であり、有意確率が .000である。正答数の t 値が-.469であり、自由度が19であり、有意確率が .645である。解答時間の差に1%水準で有意な差があるが、正答数に有意な差はない。すなわち、中国語でSPIの問題に解答するのと日本語でSPIの問題に解答するのと大きいな差がないことが言える。しかし、上位10名と下位10で分けてみると、上位10名のうち７名がN1150点以上の得点の取得者である。

３．問題の特徴

非言語能力検査は数学の問題とは言え、出題文の意図を正しく読み取り、読み取った文章にそって式を正しい式を立てることが基本となっているため、文章を読む力が必要とされる逆に言えば、その出題文の読みやすさが正答できるかどうかの鍵になっている場合もある。文章の難易度・リーダビリティ評価について、渡邉他(2017)は文の長さ・語彙の難易度・語種・品詞・語彙の具体度などの12側面で分析をしている。また、李(2011)はBCCWJ[49]を日本語能力試験の読解テキストに対応させて文字・漢字・語彙などに基づき難易度の評価を行っている。そのほか、浅原(2019)は、リーダビリティ評価を目的として、日本語テキストの読み時間と節境界分類の対照分析を行い、主辞が後置される日本語においては補部が主辞より先に提示されることにより、主辞を予測することができるため読み時間が短くなることを指摘している。本章では調査実施の際、各問題に対する読み時間を計測しなかったため、節境界との関係性は検証しできない。そのため、本研究ではこれらの問題の難易度について、

[49] 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のことであり、ホームページの情報によると、現代日本語の書き言葉の全体象を把握するために構築したコーパスであるという。https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

「jReadability日本語文章難易度判別システム」[50]を用いて判定を行ってみた。

20名の参加者の日本語版問題に対する解答と中国語版問題に対する解答を比較し、日本語版でより誤答が多かった問題から2問を選び、その要因分析を試みる。そして、正答が多かった問題も2問だ選び、分析を行い、両者にどのような違いがあるかについて検討する。表31に日本語版と中国語版問題のそれぞれのカテゴリーの問題に対する誤答人数を表している。例えば、「損益算」の問題では、日本語版で20名のうち16名が間違えているのに対し、中国語版では20人中4名のみである。表31の「誤答の差」は日本語版問題で間違えた人数から中国語版問題で間違えた人数を引いた数値である。正の数になっているものは日本語版問題のほうが誤答は多かったことになる。

表31　カテゴリーごとの誤答数

	損益算	分割払い	代金の精算	順列・組合せ	確率	速さ・時間・距離	表の読み取り	料金の割引	集合	割合
日本語版	16	6	1	9	8	2	9	5	6	6
中国語版	4	10	6	9	14	3	0	2	14	1
誤答の差	12	−4	−5	0	−6	−1	9	3	−8	5

表31から、日本版でより誤答が多い問題は「損益算」、「表の読み取り」の問題であり、正答が多い問題は「代金の精算」と「速さ・時間・距離」の問題であることが分かる。以下ではこれらの問題の難易度判定の結果について述べる。その際、語彙の難しさ、文章題全体の難易度、1文の平均語数という観点から正答できた問題と間違えた問題の差を分析する。表32では上記の4問の文章題の難易度及び１文の平均語数についての判定結果を示す。

表32　文章題の難易度及び平均語数の差

問題	文章題の難易度	1文の平均語数
損益算	中級前半(ふつう)	21.25語
表の読み取り	上級前半(難しい)	21.67語
代金の精算	中級前半(ふつう)	21.00語
速さ・時間・距離	上級前半(難しい)	24.33語

[50] 日本語文章の難易度を判別するシステムであり、日本語学習者にとっての難易度のレベルを上級後半(リーダビリティ値 0.5-1.4)、上級前半(1.5-2.4)、中級後半(2.5-3.4)、中級前半(3.5-4.4)、初級後半(4.5-5.4)及び初級前半(5.5-6.4)の 6 段階で判定している。また、テキストの難易度以外に、「語彙レベル」、「品詞」、「語種」及び「文字種」の側面でも判定可能である。

表 32 に示しているように、文章題のレベルと 1 文の平均語彙数の側面では誤答が多かった問題と正答が多かった問題に大きな差がなかった。文章題のレベルはそれぞれ中級前半と上級前半であり、1 文に対する語彙数はいずれも 21 語彙代であった。

次は表 33 で上記の 4 問の語彙のレベルの差を示す。「jReadability 日本語文章難易度判別システム」では語彙のレベルも上級後半、上級前半、中級後半、中級前半、初級後半及び初級前半の 6 段階で判定している。横例は問題のカテゴリーを示し、左端の縦軸は語彙のレベルを示す。表内の数字は各問題のそれぞれのレベルに当てはまる語彙数を示す。

表 33　語彙レベルの差

問題 / レベル	損益算	表の読み取り	代金の精算	速さ・時間・距離
初級前半	16	9	16	22
初級後半	4	5	16	6
中級前半	9	11	2	5
中級後半	10	5	3	1
上級前半	0	0	1	0
上級後半	0	0	0	0

語彙のレベルでは、少し差異が見られた。正答が多かった「代金の精算」と「速さ・時間・距離」の問題では、上級前半の語彙は 1 つあったものの、誤答が多かった問題と比べて、初級の語彙が多く、中級の語彙が非常に少なかった。以下では誤答が多かった問題の中身はどのようなものであるかを枠内に示し、誤答の要因についての分析を試みる。

【損益算】

1. ある商店では、商品 P を 40 個仕入れした。そして、仕入れ値に 40%の利益をのせて定価を設定した。この商店で、商品 P を定価で 28 個売った後、残りを定価の 10%引きにしたころ、すべて売り切れて 8952 円の利益が得られた。商品 P の仕入れ値はいくらか。

A　322 円　　B　369 円　　C　400 円　　D　456 円　　E　524 円　　F　600 円

G　640 円　　H　698 円　　I　725 円　　J A～I いずれでもない

この問題の中国語版の誤答数は 4 であるのに対し、日本語版の誤答数は 16 である。この問題の出題文を見ると、特に難しい文法が使われておらず、語彙的にも「仕入れ値」以外は特に見慣れないものはないように思える。誤答したものは「利益は 8952」とあるが、それは定価で売った利益と 10%引きした時の利益の合計であることを忘れていた可能性が高い。このように、出題は単純な文であるが、表している意味を理解し、正しい計算式を立てないと問題を解けないのである。

【表の読み取り】

7. 次の表はあるクラスで行った 50 点満点の理科のテストの成績と人数を表したものである。21 点以上の生徒の平均点としてあり得るのはどの組合せか。必要なときは、最後に数第 2 位を四捨五入すること。

得点	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50
人数	4	6	12	8	5

ア　25.6点　　イ　29.8点　　ウ　34.5点　　エ　38.2点

A　アだけ　　B　イだけ　　C　ウだけ　　D　エだけ　　E アとイ

F　イとウ　　G　ウとエ　　H　アとイとウ　　I　イとウとエ

J　アとイとウとエのすべて

この問題では中国語版での誤答数が0であるに対し、日本語版の誤答数は9である。表の情報を読み取るのは難しくないが、どのような計算式を分からなければ、解答しようがない。さらに、問題文の「どの組合せか」というのも紛らわしかったと思われる。すなわち、この問題の形式に慣れていないと解答できないと考えられる。

誤答が多かった問題と正答が多かった問題を比較した結果、文章の難易度は「中級前半(ふつう)」と「上級前半(むずかしい)」というレベルで大きな差がなかった。語彙に関して、「代金の精算」で上級の語彙は1つがあったものの、大多数が初級の語彙であり、中級と上級の語彙は他と比べて少なかった。このように、文章題の難易度や1文の平均語数は差がない場合は1つ1つの語彙のレベルは正答できるかどうかを影響する可能性がある。そして、問題形式に馴染みがあるかどうかというのも正答できるかどうかの鍵になると考えられる。

５．５　本章のまとめ

本章では、本章では言語能力が非言語能力検査の解答に影響を与えるかどうかを検証することを目的とし、就職筆記試験 SPI の非言語能力検査に焦点を当てて中国人留学生を対象に中国語版と日本語版の非言語能力検査の調査を行った。5.1 では日本人学生と中国人留学生を対象に非言語能力検査の予備調査を行い、同じ日本語版の問題に日本人学生と中国人学生が解答する際の差を探り、さらに中国人学生の日本語版と中国語版の解答結果の差を探った。しかし、調査結果からは中国人学生の解答した日中両言語版の数学問題の難易度が異なっていたことが分かった。そのため、新たに日中両言語版の問題を作成し、その妥当性を測るため、5.2 と 5.3 では中国人学生を対象に調査を行った。その結果、問題が妥当であることが証明された。そこで、5.4 では中国人学生を対象に日中両言語版の問題を用いて、異なる言語の非言語能力検査の問題に解答することによって、解答結果が異なるかどうかについて調査を行った。以下ではそれらの結果について考察を行い、まとめと今後の課題を述べたい。

５．５．１　本章の結果

本節では中国人学生と日本人学生を対象とした非言語能力検査の模擬試験調査、問題の妥当性を測るために中国人学生のみを対象とした非言語能力検査の調査及び本調査も含む 3 つの調査の結果を示す。

(1)日本語版の問題で日本人学生よりも中国人学生の方がより誤答が少なかった。誤答に関わる要因として、数学の能力もあるが日本語の読解力が関わっていることが分かり、これは中国人学生だけではなく、日本人学生にも見られる現象であった。そして、予備調査では中国人学生の言語の違いによる誤答率の差について検証することができなった。日本語版の非言語能力検査により正しく解答できていた。この調査の調査参加者は全員 SPI の解答経験がない人であった。そのため、SPI の対策をしていない場合は中国人学生と日本語学生の間では、解答に大きな差がないと考えられる。

(2)中国人学生対象とした非言語能力検査の目的は本調査で使用する問題の妥当性を検証することと問題に解答する順序が順序効果をもたらすかを検証することである。しかし、5.2 の調査では参加者の学力を統制せずに調査を行ったため、かなり個人差が大きった。そのため、5.3 では GPA が 2.8 以上の学部中国人留学生を対象とし、同様な調査を行った。その結果、問題の難易度が同じであり、問題を提示する順序が結果に影響を与えないというこ

とが証明でき、問題の難易度では有意な差がないことも証明できた。そのため、これらの問題を用いて本調査を実施した。

(3)本調査では 20 名の中国人留学生に中国語版の SPI 問題と日本語版の SPI 問題に解答してもらった。その結果、日本語版問題でより時間をかけているが正答の平均値は中国語版問題の平均値より低いことが分かった。そして、t検定を行ったの結果、中国語版問題と日本語版問題の解答時間の有意確率が .000 であり、1%水準で有意な差があることが分かった。しかし、正答数の有意確率が .645 であり、有意な差を示さなかった。中国語で SPI の問題に解答するのと日本語で SPI の問題に解答するのと大きいな差がないことが言える。さらに、誤答が多かった問題と少なった問題 2 問ずつを例に、これらの問題の難易度について、jReadability 日本語文章難易度判別システムを用いて判定した。その際、主に文章題の難易度、1 文の平均語数と語彙のレベルで分析を行った。その結果、文章題のレベルはそれぞれ中級前半と上級前半であり、1 文に対する語彙数はいずれも約 21 語彙であり、大きな差はなかったことが分かった。語彙のレベルでは、少し差異が見られた。正答が多かった「代金の精算」と「速さ・時間・距離」の問題では、上級前半の語彙は 1 つあったものの、誤答が多かった問題と比べて、初級の語彙が多く、中級の語彙が非常に少なかった。そのため、数学問題に関しては、文章題のレベルと文長はリーダビリティに大きな関与がないことを示唆される。今回の参加者は全員 N1 を合格しているため、語彙の面では困難にあっているとは言い難い。それにもかかわらず、誤答が多かったことは、語彙と文長以外の部分で困難にあっている可能性がある。そして、1 名を除く 19 名の参加者はすべて日本語版の問題に時間をかけていることからも、日本語を読むのは可能であるが、正しく理解できるのにより時間が必要ということではないだろうか。

５．５．２　考察と今後の課題

本章の目的は修士論文で明らかにすることができなかった非言語能力検査問題に対して、再度調査を行い、言語の違いが解答結果に影響するかどうかを検証することである。そのため、非言語能力検査の日本語版問題を中国語に翻訳し、翻訳した中国語版問題と合わせて、中国人留学生を対に模擬試験調査を行った。修士論文では制限時間を設けて解答してもらうようにし、20 名の参加者のうち 16 名もの参加者が制限時間内に全ての問題に解答できなかった。そのため、本調査では解答制限時間を設けずに解答してもらった。その結果、日本語版問題で平均 32.35 分をかけ、中国語版問題で平均 21.70 分をかけていた。しかし、正答

数に大きな違いは見られず、有意差がなかったものの、平均値のみで考えると、解答平均時間が少なかった中国語版問題の平均値が 0.2 高かった。そのため、有意差がないからと言って言語は影響していないと判断できないと考えられる。日本語版問題でより時間をかけたにもかかわらず、正答数の平均値が中国語版問題の平均値より 0.2 低かく、有意差がなかった。もし制限時間を設けて同じ時間で解答してもらう場合、必ずしも同じ解答結果が出るとは限らないと思われる。しかし、これについては今回データで確認することはできなかった。この点を含めて以下の 3 点を今後の課題としたい。

(1)SPI の非言語能力検査はそもそも短時間での作業処理を測っているという。そのため、中国語版問題と日本語版問題に解答制限時間を設けて、対等な時間内で解答してもらい、どのような違いが生じるかを検証する。

(2)今回の 20 名の参加者には大学生と大学院生が混ざっていた。しかし、「平成 29 年における留学生の日本企業等への就職状況について」の報告によると、日本国内に就職した大学学部留学生は 4,418 人であり、学部留学生全体の 40.5%を占めている。一方、日本国内に就職した修士課程の留学生は 3,215 人であり、修士課程の留学生の 32.5%を占めている。このように、日本で就職した留学生は大学生のほうが多い。そのため、今後は学部生に特化して調査を行いたい。

(3)調査参加者となった 20 名はすでに N1 に合格しており、日本語上級学習者である。そのため、日本語の読解の点では大きな問題はなかったと考えられる。しかし、就職活動を行っている留学生は全員 N1 に合格しているとは限らない。N1 に合格できていない人は SPI の非言語能力検査に同様に対応できるかどうかを今後明らかにしたい。そして、本当に日本語能力が関わっているかどうかを明らかにするために、日本語能力が離れた 2 つのグループを対象に調査を行いたい。

(4)誤答の要因に出題文の語彙と文長の関与が小さいという結果を得たが、誤答の要因は何かについて追及できなかった。そのため、今後はこの 2 つ以外の観点からリーダビリティ評価を行う。そして、参加者一人ひとりにフォローアップインタビューを行い、誤答の要因を直接確認したい。

６　エントリーシートの実例調査

2.5 で述べたように、留学生はエントリーシートの書き方などに困難を感じており、自己分析の仕方やエントリーシートにどう自己表現したらいいかを分かっていないようである。神谷(2010)では、留学生に対してエントリーシートの書き方を教えるべきとし、具体的に表現、文構成、要領のよい自己アピールの仕方などを大学の日本語教育の新たなシラバスとして加えていく必要があるだろうと指摘している。

留学生就職支援ネットワークのホームページでは、株式会社クオリティ・オブ・ライフ[51]「平成 24 年留学生調査」の結果を参考に、留学生の就職活動における問題点や苦労したことをリストアップしている。苦労したことで挙げられた上位 3 点はエントリーシートの作成(81.6%)、個人面接での対応(72.5%)と筆記試験・WEB テスト(70.8%)であり、いずれも 7 割以上を占めている。

「外国人学生の就職と日本語能力に関する調査レポート」(2012)でも同じ傾向が示されている。留学生が在学している大学を対象に調査を行い、留学生のビジネス日本語能力が課題になっている就職活動の段階をたずねた結果、約 8 割の大学が何らかの段階で課題があると回答している。具体的な課題の内容としては、「履歴書・エントリーシートを日本語で書く」、「日本語で筆記試験を解く」などの日本語の読み書き能力に関する回答が最も多かった。以上のように、留学生は就職活動の様々な段階で困難を感じており、特にエントリーシートの作成段階で最も苦労していることがうかがえる。また、留学生を受け入れている大学も留学生にはエントリーシートを日本語で書くという点で課題があることを認識していると考えられる。

『リクナビ就活準備ガイド』の記述によると、エントリーシートとは、就職活動において学生が企業に提出する応募書類の一つであり、企業に対して自分をアピールする最初の場となる。そして、面接時の参考資料として使われるとともに、大手企業などでは選考の第 1 段階になることも多いという。古本(2013)でも、エントリーシートを書くことは大学生にとって必須課題となっている状況であると、エントリーシートの重要性を主張している。

このように、エントリーシートは就職活動において非常に重要であるにもかかわらず、留学生はエントリーシートを書くことに苦労している。しかし、留学生の書いたエントリーシートのどのような側面が問題なのかはまだ明らかになっていない。そのため、本章では留学

[51] 株式会社クオリティ・オブ・ライフは採用・定着支援領域、キャリア開発領域、個人の人生の充実領域などの分野で事業を展開している。

生が企業に提出したエントリーシートを分析対象とし、実例調査を行う。企業によっては、履歴書・エントリーシートと筆記試験を同じタイミングで行い、審査を行う場合もあるが、本研究ではエントリーシートの提出と筆記試験が別々に審査されたものに限り、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートを比較する。そして、それぞれどのような特徴があるのかを明らかにする。そのうえで、留学生の書いたエントリーシートの通過率を高めるために、どのようにするべきかについて検討したい。

６．１　調査概要

山本・白井(2011)の記述によると、エントリーシートは企業側が応募者の中から採用候補者を選定するための第一次選考の一つとして用いられるものであり、応募者が志望企業にとっていかに価値ある人物であるかをアピールする最初の方法であるという。志望する企業や職種によって、アピールするポイントは異なるが、一般的には「自己 PR」、「志望動機」と「学生生活(今までの経験や学生時代に力を入れたこと)」が含まれている。しかし、通過できなかったエントリーシートに関して具体的にどの部分が問題になっているのかは分からない。そのため、留学生のエントリーシートの内容を幅広く分析の対象とする。そして、通過できたエントリーシートと通過できなったエントリーシートにはどのような差があるかも明らかになっていないため、留学生の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシート両方を分析の資料とする。

小宮山(2016)によると、エントリーシートはメールに添付して提出する、或いは企業などの WEB サイト上のフォームに直接入力するという形が増えているという。エントリーシートに対し評価を行う際、文字の美しさ・乱雑さも関わる可能性があることは否定できないが、本調査では上記のような電子媒体での提出が増えているという現状を踏まえて、メールでエントリーシートを提出してもらうこととした。また、マイナビやリクナビなどの人材紹介や情報提供をする企業が増えるにつれて、インターネットで企業情報を知り、WEB エントリーするという形がほとんどになっているという。そこで、本研究でもその流れに従い、企業に提出済みのエントリーシートから個人情報を除く[52]すべての内容を、調査者が事前に用意した研究調査票(資料 6 で示す)に記してもらい、そのファイルをメールに添付して送信してもらった。以下では調査参加者の属性及び調査の具体的な実施手順について述べる。

[52] 正式なエントリーシートには生年月日、住所、電話番号、学歴、資格のような個人情報が含まれ、実際の選考に直接な関わりが薄いと考えたため、これら以外の内容をワードファイルに記すようにした。

６．１．１　調査参加者

「平成 29 年における留学生の日本企業等への就職状況について」の報告によると、日本国内で就職した大学学部留学生は 4,418 名であり、学部留学生全体の 40.5%占めている。一方、日本国内で就職した修士課程の留学生は 3,215 名であり、修士課程の留学生の 32.5%を占めている。また、3.2 で述べたように、就職を目的として行われた在留資格変更許可申請の申請者で最も多かった国籍は中国である。本章では中国人留学生を対象とし、以下の三つの条件で調査参加者を募った。

①日本で就職活動の経験がある

②エントリーシートを提出したことがある

③履歴書・エントリーシートと筆記試験の個別審査において、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの両方を所持している

調査参加者の募集の仕方は第 5 章の SPI の模擬試験調査時と同様に、上記の 3 つの条件や、謝礼を含む調査内容を記した文書を中国人留学生の WeChat グループや LINE グループに送信し、調査協力の意向を示した留学生と個別にやり取りを行った。調査の参加者を 2019 年 8 月から 9 月までの間で募集した結果、15 名集まった。参加者の属性を表 34 に示す。表内では P1～P15 の番号で参加者を示す。JLPT の列で日本語能力試験の受験レベルとその得点を示す。日本語のレベルは N2 合格者が 3 名と、それ以外はすべて N1 合格者である。

表 34　調査参加者の属性

参加者	所　　属	JLPT
P1	国際文化学研究科	N１(134)
P2	経済学研究科	N１(143)
P3	経済学研究科	N１(111)
P4	人間発達環境学研究科	N１(139)
P5	経済学研究科	N１(119)
P6	経済学研究科	N１(114)
P7	経済学研究科	N１(135)
P8	国際文化学研究科	N１(120)
P9	国際文化学研究科	N１(115)
P10	経済学研究科	N１(124)
P11	国際文化学研究科	N１(158)
P12	国際文化学研究科	N2(126)
P13	国際文化学研究科	N１(110)
P14	理学研究科	N2(98)
P15	システム情報学研究科	N2(94)

６．１．２　調査の実施方法

前述のように、本調査では提出したエントリーシートのどのような側面が選考で問題になっているかを明らかにすることを目的としている。留学生が提出したエントリーシートで通過できたものと通過できなかったものとの間にどのような差があるかについて、実例調査を実施する。具体的な手順は以下の通りである。

①データ収集の趣旨と、研究目的のためエントリーシートの内容を公開する可能性があることについての説明を行い、承諾を得た[53]。

②前述の研究調査票(資料 6)のファイルを参加者に送信し、参加者の日本語レベルなどを知るために、属性に関する項目を記入したうえで、企業に提出して通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの内容をそのままファイルに写して、送信するように依頼した。

③参加者に送ってもらった内容に記入漏れがないかを確認し、その後調査協力への謝礼を渡すか送金し、調査を終了した。

６．２　分析方法

この節では、まず分析の観点を定めるのに関わる先行研究の記述を確認する。そして、収集したエントリーシートの具体的な項目を確認してから、本研究で用いる評価の基準を説明し、この評価基準のもとでどのように評価するかについて述べる。

６．２．１　分析の観点

小宮山(2016)によると、選考に通過しやすい志望動機のポイントは①自分の取り組む仕事で、志望企業に貢献したいことを説明できており、②なぜ、志望企業でなければならないのかを明確に示せていることであるという。

後藤(2017)でも、志望意欲の本気度・熱意を相手に伝えるには、一つには自分のやりたいことが本当だと実証できるような「エピソード」が書けている必要があり、また志望企業のことを十分理解していることを伝えるための「企業理解」アピールができていることが必要とされているという。同書では企業の「エントリーシート」のチェックポイント(標準例)として以下の 8 項目を紹介している。

[53] エントリーシートの内容をメールで送信してもらったため、調査参加者と対面しておらず、説明を行った文章と承諾を得た内容についてのメールや WeChat のチャット履歴を、記録のため保存している。

1. 学歴は一定レベル以上か？
2. 一定レベル以上の成功体験・逆境を乗り越えた体験はあるか？
3. 一定レベル以上のビジネス能力を感じさせるか？
4. 文字・日本語は適切か？
5. 一定レベル以上の資格・専門知識・専門スキルがあるか？
6. 志望動機では、企業・業界分析・仕事の理解をしているか？
7. 志望動機から、やりたいことの本気度が伝わるか？
8. 会って詳しく話を聞いてみたいと思わせる何かがあるのか？

評価は◎、〇及び×の三段階評価で行われ、〇が 3～4 個以上で書類選考を通過とするという。本研究では、より関わりがあると考えられる 6 と 7 以外に 4 の「文字・日本語は適切か」も参考にする。

エントリーシートでは自分のやりたいことや志望企業を理解しているかどうかを論理的に説明しなければならない。太田他(2018)では「論理的な文章」にとっての代表的な 14 要素を以下のようにまとめている(原文のまま)。

1. 因果関係が明確
2. 根拠が妥当
3. 皆が納得する
4. 反論できない
5. 皆同じ解釈する
6. 理解しやすい
7. 真偽判定が明確
8. 文法的に正しい
9. 矛盾がない
10. 主張が明確
11. 理論がはっきり
12. 理由が明確
13. 皆が同意する
14. 前提と結論が一致

上記の 14 の項目のうち「文法的に正しい」は言語面の項目であり、これ以外の項目はすべて論理的な文章の内容に関する項目であると言える。

宇佐美(2014)で、留学生の書いた謝罪文[54]を 8 名の日本語母語話者[55]に評価してもらい、謝罪文を読む際の評価観点を 22 項目にリストアップしている。本研究ではそれらを言語、内容、構成及び対人的な配慮の 4 つの項目に分類する。具体的には以下の通りである。

・言語

[54] 以下のような課題設定のもとに書かれている。「あなたのポストに隣人からのメモが入っていた。そのメモに、〇〇さん、あなたはいつも夜にゴミを出し、そのゴミが犬やカラスに荒らされ、ゴミ置き場が汚くなって大変迷惑です。決まりを守り、ゴミは朝出すようにしてください」と書いてあり、隣人に対して謝罪文を書くという。

[55] 8 名とも日本語教育経験を持たない母語話者で、年齢層は 10 代から 40 代にわたっており、学生、主婦及び会社員などの多様な属性を持っている。

1.ことばの選び方・使い方がおかしい。2.文法的な間違いがある。3.文字の書き間違いがある。4.意味は分かるが、日本語としては不自然なところがある。5.書きことばの中に話しことばが混ざっている。6.「です/ます」形と「だ/である」形が統一されていない。7.使われていることばが豊かである(表現力がある)。8.適度な量の漢字が使われている。9.一つひとつの文の意味が分かる。10.単純な構造の文だけではなく、複雑な文も書けている。11.すらすら読める。12.敬語や丁寧な表現が使えている。13.文章全体としていいたいことがわかる。

・内容

14.これからは朝にゴミを出すと書かれている。15.自分の名前を名乗っている。16.相手の宛名がきちんと書かれている。

・構成

17.文と文のつながりがしっかりしている。 8.文章全体の量が適切である。19.話にまとまりがない。20.文章の締めくくりがうまく書けている。

・対人的な配慮

21.読む人を配慮している。22.文章を書いた人が謙虚な態度をとっていることが文章から読み取れる。

このように、留学生の書いた謝罪文についての評価を「言語」、「内容、「構成」及び「対人的な配慮」の側面に分類できる。エントリーシートは謝罪文と性質は異なるものの、留学生の書いた文章に対する評価という観点で共通するものもあるため、言語面に対する評価について参考にしたい。

「マイナビ2020就活NG集」では採用担当にエントリーシートの「NG」を質問しており、評価されない志望動機の内容を以下のようにまとめている。

1.具体性が欠けるもの

2.会社案内をそのまま引き写した内容

3.いろいろな応募企業に対し、使い回しているのが一目瞭然の志望動機

4.マニュアル通りの模範解答的な志望動機

5.平板な表現に終始しているエントリーシート

6.自分自身がその会社で何をやりたいかが見えてこない志望動機

7.志望動機をあれもこれもと、欲張った内容。

8.的外れな動機を延々と述べているエントリーシート

ここでも、エントリーシートの評価を内容面と言語面から行っており、内容面に関してより具体的になっている。

石橋(2002)は、留学生の書いた作文について調査を行っており、その作文の評価について、「内容」、「構成」及び「言語形式」の 3 つの側面からの評価基準を設定した。そして、内容のカテゴリーを更に「具体的記述」、「アイディアの発展」、「全体的明確さ」、「興味」と「主題」の 5 つの下位項目、構成のカテゴリーを「書き出し」、「論理的つながり」、「結論」と「まとまり」の 4 つの下位項目に、言語形式については、「語彙」と「言語形式の多様性」の 2 つの下位項目に分けている。また、これらの計 11 の下位項目についてさらに基準を詳しく説明している。例えば「内容」のカテゴリーの下位項目に関しては、「生き生きとした例や考えをサポートする表現がある」と説明している。

このように、小宮山(2016)・後藤(2017)・「マイナビ 2020 就活 NG 集」のように具体的なエントリーシートの対策方法に関するものもあれば、太田他(2018)のように文法のみならず、論理的な構成に関するものもある。さらに、宇佐美(2014)と石橋(2002)のように留学生の書いた作文を内容、構成及び言語形式の 3 つの側面から評価したものもある。これらを参考に本研究では「内容」、「構成」、「言語」の 3 つの側面から分析を行う。なお、3 つの側面の下位項目及び基準については、次節でエントリーシートの全体の内容を確認してから、評価するのにより妥当だと思われる下位分類を設定する。

６．２．２　エントリーシートの具体的な質問例

6.1 節で述べたように、参加者に、企業に提出したエントリーシートの内容をワードファイルで作成した研究調査表のファイルで提出してもらった。企業が設定した質問には先行研究で述べられている「自己 PR」、「志望動機」と「学生生活(今までの経験や学生時代に力を入れたこと)」の 3 つ以外にも様々な質問があった。それらは「志望企業でやりたいこと」、「これまでの経験」、「考え方や価値観」、「ゼミ・研究の内容」、「アルバイト経験・インターンシップ」及び「その他」の 6 つに分類することができた。以下これらを合わせた 9 つの質問タイプについて、1 例ずつ代表的な設問例を挙げる。

①自己 PR

自己 PR（何かご自身でやり遂げた経験等）を具体的にご記入ください。

②志望動機

当社へのエントリー動機を書いて下さい。その際、当社のどのような点（製品、仕事内

容、社風など）に最も興味をもっているのか具体的に書いて下さい。

③学生時代に力を入れたこと

学生時代に最も情熱を注いで取り組んだ内容について入力してください。

④志望企業でやりたいこと

今後、社会人としてどんなことに挑戦したいですか。また、どのような事を成し遂げたいのか、簡潔に教えてください。

⑤これまでの経験

弊社は「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」という企業文化を大切にしています。あなたがこれまでの人生の中で、‘他人とちがう価値’を発揮したり、大切にした経験を自由に書いてください。

⑥考え方や価値観

あなたがいつも大切にしている『モットー』を教えて下さい。またそれはどの様な経験から培われたものか教えて下さい。

⑦ゼミ・研究内容

所属研究室・ゼミ名をご記入ください。ゼミの内容をご記入ください。卒業論文のテーマをご記入ください。

⑧アルバイト経験・インターンシップ

アルバイトをされていた方は、その業種と就業期間をご記入ください。その中で一番の困難と、それをどのように乗り越えたのかをご記入ください。

⑨その他

あなたが今までプレイしたゲームの中でNo.1を教えて下さい。また、その理由も教えて下さい。

６．２．３　評価基準及び分析方法

(1) 評価基準

6.2.2 で挙げたように、15 名の参加者のエントリーシートの具体的な質問を 9 タイプに整理した。これらを評価するために、「内容」、「構成」及び「言語」の 3 つの側面に下位項目を設ける。「内容」を「根拠が妥当」と「具体性がある」の 2 つに、「構成」を「前提と結論の一致」と「一貫性がある」の 2 つに、「言語」を「文法」、「誤字脱字」、「文体」、「語彙」の 4 つに分ける。この 8 つの下位項目の評価観点及びそれぞれの評価基準を表 35 に示す。

表 35　　エントリーシート評価の側面及びその下位項目と評価基準

側面	下位項目	評価基準
内　容 Content	1.根拠が妥当	希望する会社で自分のやりたいことの根拠を説明できている。
	2.具体性がある	学生時代に力入れたことや、自己 PR の部分で具体的なエピソードを用いて説明できている。
構　成 Organization	1.前提と結論が一致	志望動機の部分では、企業・業界分析・仕事を理解できた前提で書いており、結論としている動機と一致している。
	2.一貫性がある	段落ごとが首尾一貫しており、全体のまとまりがある。
言　語 Language	1.文法が正しい	文法的な間違いがない。
	2.表記が正しい	全体的に誤字脱字がない。
	3.文体が一致	書きことばと話しことばの混同がなく、普通体と丁寧体が混ざっていない。
	4.語彙が妥当	語彙の間違いがない。

15 名分の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートを、表 35 に示している 8 つの下位項目を分析の観点とし、4 段階で評価を行う。具体的に、「a:そう思わない」、「b:あまりそう思わない」、「c:どちらかといえばそう思う」、「d:そう思う」の 4 段階で評価した。エントリーシートの評価シートを資料 7 に示す。4 段階評価を採用したのは、「どちらでもない」のような中間的な選択を防ぐためであり、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの特徴をより明確にするためでもある。なお、言語面の項目の評価に関しては、収集したエントリーシートの誤りを確認した。全体的に誤字脱字が少なく、文体も一致していたため、具体的な誤用の数を算出し、書いた内容の長さに関係なく、誤用がなかった場合は「そう思う」を、2 つ以下の場合は「どちらかといえばそう思う」を、3〜4 つの場合は「あまりそう思わない」を、5 つ以上の誤用があった場合は「そう思わない」を選ぶよう 4 段階評価を行った。文法と語彙の誤用に関しては誤用の数を算出し、エントリーシート全体の文字数と比較した。その結果、エントリーシートの質問に対する記述の長さはそれぞれだが、全体の文字数と比例させた場合、全員 2%未満であった。そのため、誤用の数が 0.50%未満の場合は「そう思う」を選び、0.51%〜1.00%の場合は「どちらかといえばそう思う」と選び、1.01%〜1.50%の場合は「あまりそう思わない」を選び、1.50%以上の場合は「そう思わない」を選ぶようにした。

エントリーシートの評価には主観が伴うと思われる。そこで、エントリーシートの評価の

信憑性をより高めるために本研究では筆者のみならず、日本語母語話者の評価者2名[56]にも評価してもらった。評価は2段階に分けて行った。第1段階では、筆者と日本語母語話者1名とで評価を行った。まず、参加者1名のデータを用いて、別々に評価を行い、2名の評価者からの評価結果を比較し、どの程度一致しているかを計測した。その結果、両者の評価一致度は62.5%であった。「内容」面の評価の一致率が高く、「構成」と「言語」面の評価の一致率が若干低かった。特に「構成」面の評価に関して、「前提と結論が一致している」という項目では、片方が「どちらかといえばそう思う」他方が「そう思う」を選び、差異が見られた。一致していない項目について話し合い、再度評価を行ったが大きく改善されなかったため、もう1名の評価者にも評価してもらうこととした。これは第2段階の評価である。第1段階では、収集したエントリーシートについて、通過できたものと通過できなかったものを示した状態で評価を行ったが、明記したこと自体が評価に影響を与える可能性があるため、第2段階では、3人目の評価者に評価してもらう際に、エントリーシートが通過したかどうかを明記しなかった。第1段階と同じく、参加者1名の例を用いて、評価してもらった。

このように、3名の評価者によって評価を行ったが、評価する際、採用担当の目線で評価するよう指示したものの、実際の企業側の評価結果と大きく異なる可能性は否めない。15名の参加者の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートについての評価を内容面、構成面及び言語面の項目ごとに示し、全体的にどのような差があるかを示す。また、参加者ごとの通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートを比較しどのような差があり、どのような違いがあるかを明示する。

(2)分析方法

前述のように、この調査では、筆者のみならず、2名の日本語ネイティブ教師の協力を得て、各項目について4段階で評価を行った。通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートを8つの下位項目から、3名が評価した点数の平均を素点とし、統計的な分析を行った。調査では、1名の参加者に通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの両方を提出してもらい、この2つの間にどのような差があるかを明らかにすることを目的としている。そのため、ノンパラメトリック検定のウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。参加者15名分の通過できたエントリーシートの評価と通過で

[56] 2名とも現役日本語教師であり、そのうちの1名はビジネス日本語科目を教えており、かつ就職セミナー講師の経験も持っている。もう1名はビジネス日本語やBJT対策の授業を担当した経験があり、勤め先の大学では留学生の就職相談にのり、留学生の作文の授業も担当している。

きなかったエントリーシートの評価を比較し、この 2 つがそれぞれ内容面、構成面及び言語面で有意な差があるかどうかを検定した。そのうえで、有意な差がある項目について、具体的にどのような差があるかを検討した。

６．３　調査結果

６．３．１　評価結果

6.2.3 で述べたように、評価は 4 段階評価を用いた。分析を行う際、評価シートの a～d の項目を１～4 までの点数に変換したため、素点の満点は 4 である。以下では項別に結果を示す。

まず、表 36 と表 37 に 15 名の参加者の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの内容(Content)についての結果を示す。P は通過できたこと(Passed)を意味し、NP は通過できなかったこと(Not Passed)を意味して、C は内容(Content)を意味する。そのため、PC1 は通過できたエントリーシートの項目 1 を示し、NPC１は通過できなかったエントリーシートのそれを示す。以下の表内も同様である。表 36 では内容面の対応サンプルの記述統計を示している。平均値をみると、内容に関する項目 1 の「根拠が妥当(希望した会社で自分のやりたいことの根拠を説明できている)」について、PC は 3.1787 で、NPC は 2.7347 である。また、項目 2 の「具体性がある(学生時代に力を入れたことや自己 PR では具体的なエピソードを用いて説明している)」については、PC は 3.3560 で、NPC は 2.9553 である。どちらも通過できたエントリーシートの評価がより高い。したがって、通過できたエントリーシートのほうが内容面でより優れているといえる。

表 36　「内容面」記述統計

		N	*M*	*SD*	*Min.*	*Max.*
項目 1	PC1	15	3.1787	.65412	2.00	4.00
	NPC1	15	2.7347	.50785	1.67	3.67
項目 2	PC2	15	3.3560	.42828	2.33	4.00
	NPC2	15	2.9553	.54824	2.33	4.00

次頁の表37に示している「内容」の2項目に関して、通過できたエントリーシートより通過できなかったエントリーシートの評価が高い場合は「正の順位」が、小さい場合は「負の順位」が与えられる。評価が同じである場合は「同順位」となる。項目1と項目2両方とも通過できたエントリーシートの評価が高い参加者は15名中10名いる。

表 37　「内容面」の順位

		N	平均ランク	順位和
NPC1 - PC1	負の順位	10[a]	7.80	78.00
	正の順位	3[b]	4.33	13.00
	同順位	2[c]		
	合計	15		
NPC2 - PC2	負の順位	10[d]	7.80	78.00
	正の順位	3[e]	4.33	13.00
	同順位	2[f]		
	合計	15		

a.NPC1<PC1　b.NPC1> PC1　c.NPC1=PC1　d.NPC2<PC2　e.NPC2>PC2　f.NPC2=PC2

表 38 では内容面の対応サンプルの検定統計量を示している。内容に関する項目 1 と項目 2 の有意確率が両方とも .022 であり、2 つの項目の平均の有意確率が 5%未満である。そのため、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートには内容面で有意な差があることが確認された。

表 38　「内容面」の検定統計量

	NPC1 - PC1	NPC2 - PC2
Z	-2.295[b]	-2.284[b]
漸近有意確率（両側）	.022	.022

b. 正の順位に基づく

次は、構成(Organization)についての結果を示す。表内の略号は表 36 と 37 と同様である。PO1 は通過できたエントリーシートの構成の項目 1 を示し、NPO１は通過できなかったエントリーシートのそれを示す。次頁の表 39 では構成面の対応サンプルの記述統計を示している。平均値をみると、構成に関する項目 1 の「前提と結論の一致(志望動機の部分では企業・業界分析・仕事を理解できた前提で書いており、結論としている動機と一致している)」について、PO は 3.3107 で、NPO は 2.8667 である。また、項目 2 の「一貫性がある(各段落の内容は首尾一貫している)」については、PO は 3.1340 で、NPO は 2.7100 である。どちらも通過できたエントリーシートの評価がより高い。したがって、通過できたエントリーシートのほうが構成面でもより優れていると言える。

表 39　「構成面」の記述統計

		N	*M*	*SD*	*Min.*	*Max.*
項目 1	P01	15	3.3107	.34448	2.67	4.00
	NP01	15	2.8667	.48437	2.00	4.00
項目 2	P02	15	3.1340	.57499	2.00	4.00
	NP02	15	2.7100	.57547	2.00	3.67

表 40　「構成面」の順位

		N	平均ランク	順位和
NP01- P01	負の順位	10[a]	5.50	55.00
	正の順位	0[b]	.00	.00
	同順位	5[c]		
	合計	15		
NP02- P02	負の順位	10[d]	6.45	64.50
	正の順位	2[e]	6.75	13.50
	同順位	3[f]		
	合計	15		

a. NP01<P01　b. NP01>P01　c. NP01=P01　d. NP02<P02　e. NP02>P02　f. NP02=P02

表37と同様に、「構成」の2項目に関して、通過できたエントリーシートより通過できなかったエントリーシートの評価が高い場合は「正の順位」が、小さい場合は「負の順位」が与えられる。評価が同じである場合は「同順位」となる。表40に示しているように、項目1と項目2両方とも通過できたエントリーシートの評価が高い参加者は15名中10名いる。

表41　「構成面」の検定統計量

	NP01 - P01	NP02 - P02
Z	-2.820 [b]	-2.006 [b]
漸近有意確率（両側）	.005	.045

b. 正の順位に基づく

表 41 では構成面の検定の結果を示している。構成に関する項目 1 の有意確率が .005 である。そして、項目 2 の有意確率は .045 である。2 つの項目の平均の有意確率が 5%未満である。そのため、構成面での通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの平均値には有意な差があるとみなせる。

最後に、言語(Language)についての結果を示す。表内の略号は表 36 と表 37 と同様である。PL1 は通過できたエントリーシートの言語の項目 1 を示し、NPL1 は通過できなかった

エントリーシートのそれを示す。言語に関する項目は 4 つある。表 42 では言語面の記述統計を示している。平均値をみると、言語に関する項目 1「文法(文法的な間違いの有無)」について、PL は 2.8440、NPL は 2.8433 と、差はわずか 0.0007 のみである。また、項目 2 の「誤字脱字(全体的な誤字脱字の有無)」ついては、PL は 3.4460、NPL は 3.4233 と、差は 0.0227 である。この 2 項目に関しては、通過できたエントリーシートの評価がより高い。一方、残り 2 項目における平均値は、必ずしもそうではなかった。項目 3 の「文体(書きことばと話しことばの混同の有無)」について、PL は 3.5347、NPL は 3.5567 と、通過できなかったエントリーシートの評価が通過できたエントリーシートより 0.0220 大きい。項目 4 の「語彙(語彙の間違いの有無)」の項目においては、PL は 3.0220、NPL は 3.1100 と、こちらも通過できなかったエントリーシートの評価が通過できたエントリーシートより 0.0880 大きいという結果となった。

表 42　「言語面」の記述統計

		N	*M*	*SD*	*Min.*	*Max.*
項目 1	PL1	15	2.8440	.56086	2.00	3.67
	NPL1	15	2.8433	.48491	1.67	3.33
項目 2	PL2	15	3.4460	.49943	2.33	4.00
	NPL2	15	3.4233	.42676	2.67	4.00
項目 3	PL3	15	3.5347	.37447	3.00	4.00
	NPL3	15	3.5567	.44834	2.67	4.00
項目 4	PL4	15	3.0220	.62384	2.00	4.00
	NPL4	15	3.1100	.57410	2.33	4.00

このように、言語的な評価に関しては通過できたエントリーシートのほうの評価が高かった項目もあれば、逆に通過できなかったエントリーシートのほうの評価が高い項目もあった。平均値の差はわずかだったが、この差が有意なのだろうか。先に次頁の表43で言語面の順位を示す。「内容」と「構成」の評価と同様に、通過できたエントリーシートより通過できなかったエントリーシートの評価が高い場合は「正の順位」が、小さい場合は「負の順位」が与えられる。評価が同じである場合は「同順位」となる。言語面の4項目について、項目1を除けば、残りはすべて「同順位」の人数のほうが多い。

表 43「言語面」の順位

		度数	平均ランク	順位和
NPL1 - PL1	負の順位	6[a]	5.75	34.50
	正の順位	5[b]	6.30	31.50
	同順位	4[c]		
	合計	15		
NPL2 - PL2	負の順位	2[d]	1.75	3.50
	正の順位	1[e]	2.50	2.50
	同順位	12[f]		
	合計	15		
NPL3 - PL3	負の順位	3[g]	4.17	12.50
	正の順位	4[h]	3.88	15.50
	同順位	8[i]		
	合計	15		
NPL4 - PL4	負の順位	4[j]	3.25	13.00
	正の順位	3[k]	5.00	15.00
	同順位	8[l]		
	合計	15		

a. NPL1<PL1　b. NPL1>PL1　c. NPL1=PL1　d. NPL2<PL2　e. NPL2>PL2　f. NPL2=PL2

g. NPL3<PL3　h. NPL3>PL3　i. NPL3=PL3　j. NPL4<PL4　k. NPL4>PL4　l. NPL4=PL4

次は表 44 に「言語面」の検定統計量を示す。言語に関する 4 つの項目の有意確率を見ると、1 つ目から 4 つ目までそれぞれ .891、.785、.792、.865 である。有意確率がすべて .05 より大きく、5%水準で有意ではない。したがって、言語面では通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの平均値には有意な差が認められず、両者には言語面で大きな差がないと言える。

表 44　「言語面」の検定統計量

	NPL1 - PL1	NPL2 - PL2	NPL3 - PL3	NPL4 - PL4
Z	-.137[b]	-.272[b]	-.264[c]	-.171[c]
漸近有意確率（両側）	.891	.785	.792	.865

b. 正の順位に基づく　c. 負の順位に基づく

６．３．２　エントリーシートの特徴

6.3.1 では通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの間にどのような差があるかについて分析した結果、両者は言語面では有意な差はないが、内容及び構成面では有意な差があり、通過できたエントリーシートのほうがこの 2 つの側面でより評価が高い傾向にあることが分かった。本節では、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートがそれぞれ内容面と構成面でどのような特徴があるかについて

述べる。

(1) 内容面の特徴

内容面を評価する際に、「根拠が妥当」と「具体性がある」という 2 つの項目に注目した。分析の際、具体例を一つ挙げて説明し、その用例を提出した参加者番号を()内に明記、そしてその例に対する問題文及び提出先の企業の業界も併せて「」内に示す。なお、企業名及び企業名を特定できる商品名の部分を○○で示す。枠内の内容は原文のままであり、下線は筆者によるものである。

まず、「根拠が妥当(希望する会社で自分のやりたいことの根拠を説明できている)」という項目について通過できたエントリーシートの例 1 を用いて説明する。

例 1　(P3)「問題文：志望企業でやりたいこと」、「提出先：総合電子工学メーカー」

私が御社で挑戦したいことは食・農業ソリューションを通し「新たな農業ビジネスモデルを構築」に携わることです。私の実家は農村であり、自国では両親と一緒に農業に従事してきました。その辛さと苦労を、身をもって体験してきました。優れた農業技術の革新により、いかに農作業が楽になるか心から理解しています。現在、農業が抱える問題は①人口増加と担い手不足による「食糧不足」、②自然災害の頻発と土壌汚染という「安全問題」やさらには③「高い流通費用問題」などです。私は貴社が開発された食・農クラウ「○○」、農業生産管理システム「○○」を一人でも多くのお客様へお伝えし導入する仕事に従事したいです。生産・作業・収穫・出荷の計画と実績を集計・分析し、農業の経営・生産・品質の「○○」と「○○」こそ、未来の農業を革新すると信じています。生産から経営・販売まで企業的農業経営の実現に貢献したいです。私は貴社への入社が叶うならば、世界中の農家ごとに異なる様々なニーズに合わせて「○○」のような農業向けのソリューションを伝え広めることで豊かな食の未来作りに貢献したいです。

この例では、自分のやりたいこと(二重線部)を提示し、そしてその根拠となるエピソード(点線部)を書いている。さらに、志望企業の事業内容についての考え(波線部)を明示し、自分のやりたいことと志望企業の事業内容を合致するように(二点鎖線部)で書いている。

一方、通過できなかったエントリーシートはこのような内容を十分に書いておらず、主に a. 志望会社の特徴を書いていない、b. 自分のやりたいことだけを述べている、c. エピソード選びが間違っているという 3 つの特徴がある。上記と同様に具体例を用いて説明する。

a. 志望会社の特徴を書いていない

例 2　(P3)「○○でチャレンジしたい仕事や実現したい夢についてご記入ください。」
「提出先：電機メーカー」

家電や住宅製品の事業に携わり、途上国の人々の生活向上に寄与することが私の夢です。私は子供時代に停電や1か月の断水を体験し、電力と水不足による生活の困難さを実感しました。こうした水・電力に困った幼い頃の記憶から、多くの人々の「より豊かな暮らしの実現」に貢献できればと願っています。私は営業職として、製品知識を学び、アルバイトで様々な年齢層の顧客に柔軟に対応し培った「コミュニケーション能力」とサークルで学んだ「課題解決に向けた行動力」を発揮し、顧客の真のニーズに寄り添ってより豊か生活の実現に貢献したいです。

この例では、例1と同様に自分のやりたいこと(二重線部)を述べており、その思いの根拠となった具体的なエピソード(点線部)を説明し、最後に自分のやりたいことと持っている能力(一重線)を述べているが、志望する会社の特徴や事業内容について述べていない。さらに、自分のやりたいことと志望企業との接点も書いておらず、この内容のままでは、提出先の会社に就職する必然性が伝わらず、評価が低くなりかねない。

b. 自分のやりたいことだけを述べている

例3 (P4) 「今後、社会人としてどんなことに挑戦したいですか。また、どのような事を成し遂げたいのか、簡潔に教えてください。」

「提出先：電機メーカー」

まず、社会人としての土台を作るのに、目標を設定し、最短の時間で日本国内で優秀なスキルと専門知識をしっかり身に付ける。そして、それまで身に付けた知識やスキルを生かし、グローバルで活躍し、製品・サービスを提供することで全社会、全世界へ貴社の社会インフラ事業を広げていきたいと思っている。

枠内の部分はP4の書いた内容のすべてである。この例では、具体的なエピソードがないうえに、自分と志望企業の接点も書いていない。どのようなことをやりたいのかも抽象的で、ただ単に自分が勉強したいことのみを述べている。

c. 文化的な違いを配慮していないエピソードを用いている

例4 (P6) 「コース選択を踏まえ、あなたが○○で実現したいことを教えてください。(これまでの経験やそれを通じ培った強みなどを含め、具体的に記入してください)」

「提出先：自動車部品メーカー」

将来には○○で調達として活躍したいです。○○はグローバルで事業を展開し、次世代に良い製品、また地球に優しい製品を世の中の人々に提供することを目指しております。その中、私は調達による各グループ会社と社内の各部門の連携の絆を深く、安定なパートナーシップを構築しながら、「良いものを安くする」目標を達成したいです。私の強みは「粘り強さ」と「柔軟性」だと考えています、大学時代に皆で抱え込んで「忘年会」を取り組んでいたように、調達に携わる働く同士たち、及び社内各部門、各仕入先の間のかけ橋として、また生産基盤として、自分自身の滲み出る人間力とあらゆる困難を乗り越える根性をもって、会社と共に成長していきたいです。

この例でも自分のやりたいこと(二重線部)、その思いの根拠となるエピソード(点線部)

と志望企業の事業内容(波線部)を書いている。しかし、選んだエピソードは文化的な背景がない日本人には理解しにくい内容である。この例での「忘年会」[57]は年越しパーティーに近いものであり、歌を歌ったり、ダンスをしたり、自分の特技を披露し、大勢で楽しむ催しである。そのため、リハーサルに時間をかけることもありうる。これは日本で一般に行われる「忘年会」とは異なると思われる。このような文化的な背景を理解していれば、参加者がクラス全体の協力を得て、「忘年会」を開催するための努力をしたことが感じられ、その苦労や大変さも伝わってくると推察されるが、採用担当が必ずしも異国の文化的背景を正しく理解するとは限らない。誤解を生んでしまえば、評価にも影響しかねない。それゆえに、エピソードの選び方が重要なのである。

次に、「具体性がある(学生時代に力を入れたことや、自己 PR で具体的なエピソードを用いて説明できている)」という項目について述べる。例 5 は通過できたエントリーシートの内容で、例 6 は通過できなかったエントリーシートの内容である。どちらも学生時代に力を入れたことについて具体的なエピソードを用いて説明できているが、内容の分かりやすさで差異が見られた。

例 5　(P5)　「学生時代に力を入れたこと」

「提出先：通信企業」

大学時代にはクラス長を二年間やって、学部表彰には優勝クラスという賞を頂きました。一年生の時に、クラスメートは授以外の学校講座に参加するモチベーションが低かったです。もし一定の出席率が足りないと、クラス評価の上で大きなマイナスになれます。このような状況を改善するために、クラスミーティングを開け、お互いの考え方を交流して一緒に解決策を見つけるにします。その結果、みんなさんは学籍番号の順番で出席するという方法を決定します。この経験から、チームの中で素直に話し合うことが重要だと感じました。リーダーとしてはメンバー全員の意見を聞き、なぜそのような意見を持っているのか、相手の立場を深く理解することも必要です。単純に「これをやろう」と決めてしまうと、必ず一部のメンバーの反発を買ってしまうと考えているからです。メンバーの意見を調整する経験を重ねてきましたので、se として働く時にも同様に取り組めるものと考えます。

この例では、具体的なエピソードを用いて説明しており、どのような困難(二重線部)にあい、それをどのように克服(点線部)し、その結果どうなったか(波線部)を書いている。最後には、そこから得た教訓(二点鎖線部)を述べており、一貫した内容となっている。

[57] P6「学生時代に力を入れ取り組んだこと」の部分では自分が主役として「忘年会」を開催したことを取り上げており、それは中国での大学時代のできごとであるという。「忘年会」のため、ランチタイムを削り、勉強時間外にリハーサルをし、周りの人に協力してもらうよう努力したと書いている。

例 6 （P9） 「学生時代に力を入れたこと」

「提出先：大手総合電子工学メーカー」

学部の頃、塾紹介の営業訪問をした経験があります。私の趣味は、旅行です。これはガイドブックに紹介された場所や、大勢の人が何度も見聞した有名なところを訪ねるのではなく、未知の場所に踏み入れることです。つまり、肉的、または空間的な意味合いだけではなく、精神的な部分も含まれています。私の大学は実家から離れている都市ですので、自分の稼いだお金で、いろいろ見知らぬ土地に行ってみたいです。このように、塾紹介の短期バイトを見つけました。給料は個人の業績と関わるため、一生懸命頑張っていました。何十棟の学生寮に一つ一つ入り込んで販売を行っていました。最初は、怒られて追い出されたこともあります。泣いて諦めようとしたが、目標を達成する意欲が強くて、涙を拭いて笑顔で次の寝室に入ってしまいました。追い出された経験があるので、今度は相手側が警戒心を解くために、まずは雑談したりことを通じて信頼関係を築き、雰囲気を柔らかくしました。このようにして、目標の 30 人を超えて 43 人に契約していただくことができました。この経験を通じて、問題に直面したときに、諦めず解決案を検討する大切さを学びました。

この例では、まず自分の経験(二重線部)を言い、次に自分の趣味(点線部)を説明しはじめ、そしてその趣味のために、アルバイトをしたこと(波線部)を述べ、最後にアルバイトから学んだこと(二点鎖線部)を述べている。上の例と同様に具体的なエピソードを用いて説明しているが、内容がまとまっておらず、焦点が定まっていない印象を受けるのではないだろうか。

(2) 構成面の特徴

構成面の評価をする際には、「前提と結論が一致」と「一貫性がある」という 2 つの項目に注目した。

「前提と結論が一致」という点では志望動機の部分で企業・業界分析仕事を理解できた内容を前提に書いており、結論としている動機と一致しているかどうかを判断した。例 7 と例 8 を用いて通過できたエントリーシートの構成の特徴を説明する。

例 7 （P1） 「志望動機」

「提出先：教育研修企業」

私は貴社を志望した理由は教育における ICT 活用の可能性を広げる仕事をしたいからです。私は以前、中国の過疎地の高校は、都市部高校の授業をリアルタイムで配信し、質疑応答等の双方向のやりとりを行うことによって、教育の格差を縮めるという記事を読んだことで、初めて教育における ICT 活用の可能性を感じました。そして、地域の日本人住民と外国人移住者の交流会（子育てワークショップ）の手伝いをした時、交流会の報告で、日本に出稼ぎに来た外国人が連れてきた子どもの中に、「学校へ行くためのお金がないから」、「日本語がわからないから」、「どうせ母国に帰るから」などの理由で、学校に行っていない子どももいるという話を聞き、印象が深かったです。その時、「もし、どこでも授業を受けられる遠隔授業などがあったら、このような課題が解決できるかも！」という考えが頭に浮

かんで、さらに、教育における ICT 活用の必要性を感じました。私は大学院で日本語教師養成のサブコースを履修しており、日本語に限らず教育に関する知識を学んでいます。貴社で、大学院で勉強した教育に関する知識を活かしながら、ICT 技術で現在残されている教育の課題を解決していきたいです。

この例では、まず結論となる Point(二重線部)を述べている。その次に結論の理由と理由を裏付ける具体的なエピソード(点線部)を述べている。最後に、結論を再度(波線部)述べている。このように、通過できたエントリーシートの構成の部分は PREP 法[58]で書かれていると考えられる。

例 8 (P11) 「○○商事を志望する理由をご記入ください。」

「提出先：鉄鋼・化学品商社」

私は将来世界の舞台で活躍できるグローバル人材になりたいです。そのため、グローバル事業を展開し、海外に挑戦できる商社業界に興味を持ちました。また、「鉄鋼」は産業の基盤で、経済の発展において不可欠な商材のため発展途上国を中心に今後も成長し続け、大きな将来性を持っているため鉄鋼商社を志望しました。その中で貴社の「鉄に関する幅広い事業展開」、「グローバル人材の育成力」という点に強く惹かれました。留学生活で培ったグローバルな視野を活かして、自分の成長を貴社の成長及び社会貢献へと繋げたいと考え、貴社を志望しました。

この例では、まず自分がどのような人材になりたいかという主張(二重線部)を述べている。その次に、その理由(点線部)を述べており、志望企業なりの特徴も述べている。最後に、その企業に志望したいという理由をまとめており(波線部)、「主張」→「解説」→「結論」の構成になっている。

一方、通過できなかったエントリーシートの構成は必ずしもそうではない。以下の例を見てみよう。

例 9 (P7) 「志望動機を教えてください。」

「提出先：関西の地方銀行」

数ある地方銀行の中、「○○」の存在とアジア地域の事業展開のところに貴行の魅力を感じています。留学生としては、グローバル化の進展とともに貴行の「○○」の強みを発揮し、地元企業の海外ビジネスに対して地方銀行ならではのサポートを生かし、関西経済の活性化を目指して地元企業とともに成長していきたいと思います。そして中国だけではなく、韓国、アセアン諸国、インドなど、アジア圏にいるお客様でも「○○銀行のお客様で良かった」と笑顔がもらえるように銀行員として働きたいと思います。

この例でも冒頭では Point(二重線部)を述べているが、後述の部分(点線部)は Point の理

[58] PREP 法は「Point」「Reason」「Example」「Point」の４つに分類した文章構成になっているのが特徴であり、具体的には以下の通りである。「Point」：まずは結論を述べる。「Reason」：「Point」で述べた結論の理由を説明する。「Example」：「Reason」で述べた理由を裏付ける、具体的な例を説明する。「Point」：文章のまとめ部分で、最後にもう一度結論を述べる。

由になっておらず、さらに、最後にもう一度結論をまとめるということもしていない。

次は、「一貫性がある」という項目についも差異が見られた。この項目ではエントリーシート全体の内容の一貫性を評価しているため、すべての内容を明記したほうがわかりやすいが、文字数が多いため、評価に影響を与えないと判断した部分を省略し、枠内では抜粋した内容を示している。通過できたエントリーシート例 10 と通過できなかったエントリーシート例 11 を挙げて説明する。

通過できたエントリーシートは段落ごとに内容が首尾一貫しており、全体的に内容がまとまっている。

例 10 （P6） 問題文を枠内に一重線で示す。

「提出先：通信企業」

1. 学生時代に頑張ったこと
大学院では、研究者として計量的な分析力が必要となりました。データ分析の経験が皆無だった私には厳しいものでした。(中略)「高齢化」をテーマとしての研究は、完成に向け着実に進んでおりま。壁にぶつかっても自分自身で全力で創意工夫することで「道が開ける」ことを身をもって知ることが出来ました。
2. 5 年後社会の在り方、その理由
5 年後には、今より健康で長く生きる人生に迎えられる社会だと想像しております、その「超高齢化社会」での「人手不足問題」や介護問題に向けて、私は「 いにすれば高齢社会に新しいサービス提供できるか？」を今後のテーマとして挑戦していきたいと考えています。(後略)
3. ＩＴであなたが変えたい世界とその理由
私は、IT 力で個々人が活躍する公平な社会に変えたい所存です。その理由は、これから日本はさらに「超高齢化社会」に入り、「医師人手不足問題」深刻になり続きます。それと共に、年齢が上がほど介護費用も医療費も増加します、もし将来に IT 力による、遠隔受診、24 時間無障がい介護などが実現できれば、患者に経済面での負担をかなり抑えて、また、「人手不足問題」も解決できると見通し、かなりの社会的なやりがいがあると考えております。(後略)

この例では、「研究」を学生時代に頑張ったこととして取り上げ、研究テーマが「高齢化」であることを述べている。そして、「5 年後社会の在り方、その理由」という質問に対し、研究テーマである「高齢化」と関連付け、「超高齢化社会」で起こりうる問題点を提示している。そして、「ＩＴであなたが変えたい世界とその理由」という項目に対しても、上記の「超高齢化社会」の問題点を IT で解決するための解決案を具体的に示している。

一方、通過できなかったエントリーシートの内容は首尾一貫しておらず、全体の内容が散漫になっている。下記の例で説明する。

例 11 （P5） 問題文を枠内に一重線で示す。

「提出先：ソフトウエア IT 企業」

1. 志望動機：
普段の生活の中で IT 技術は現在必要不可欠な社会インフラであることを実感しており、IT で便利な世の中を作り

上げたいと強く思うようになりました。(中略) 貴社は IT に関して幅広い事業領域と、それをカバーする技術力を有しており、 そのような環境であれば SE として自身の成長に繋がると考え、志望しました。

2. 自己 PR：

(略)その時は学内の中国語授業のチューターを二年間やりました。(中略)また、授業以外にも学生と話したり遊んだりなど、積極的にコミュニケーションをとるようにしましたこの経験を活かして、今後も広い視野を持って相手の立場を考えながら、何事も積極的に行動していきたいと思っています。

・強み：私の強みは努力家であるという点です。(略)

・弱み：緊張しがちだと思います。(略)

・趣味：趣味はヨガでおります。(略)

この例では、「志望動機」において自分の成長をより視しているように書いている。また、「自己 PR」の積的に行動するという長所が、「志望動機」補えるような内容になっておらず、一貫性が見られない。さらに、「強み」では自己 PR の部分で関連のない努力家であることを主張している。最後に、「弱み」と「趣味」の内容も全体との関係性が低いと考えられる。そのため、全体の内容をみると、まとまっておらず、主旨がつかみにくいという印象を与えてしまうと思われる。

６．４　本章のまとめ

本章では、留学生が就職活動の段階で困難を感じているエントリーシートに焦点を当てて、企業の審査に通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートにはどのような差があり、それぞれどのような特徴があるかを明らかにすることを目的として調査を行い、その結果を述べた。具体的には、中国人留学生を対象に、エントリーシートの実例調査として、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシート 15 名分を分析の資料とし、内容面、構成面及び言語面の 3 つの側面から評価を行った。以下ではその結果について考察を行い、まとめと今後の課題を述べたい。

６．４．１　本章の結果

6.3 で述べたように、3 名の評価者の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートに対する評価について、ノンパラメトリック検定を行った。その結果、内容及び構成の側面では有意な差があり、言語の側面では有意な差が見られなかった。以下ではそれぞれ結果を示したうえで、内容及び構成面での通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの特徴を述べる。最後に、言語面の調査結果を示す。

(1) 内容面

内容に関する 2 つの項目についてどちらも、通過できたエントリーシートの評価がより高い。内容に関する項目 1 と項目 2 の有意確率が両方 .022 であり、2 つの項目の平均有意確率が 5%未満である。そのため、内容面の通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの平均値には有意な差があるとみなせる。

通過できたエントリーシートは、自分のやりたいことを先に書き、そしてその思いを実証できる具体的なエピソードを提示し、さらに志望する会社ならではの特徴・事業内容を自分なりに分析した考えを書き、最後にこの 2 つを合致させるように書いている。一方、通過できなかったエントリーシートはこのような内容を十分に書いておらず、a.志望会社の特徴を書いていない、b.自分のやりたいことだけを述べており、志望企業との接点を書いていない、c.文化的な違いを配慮していないエピソードを用いているなどの特徴があった。

(2) 構成面

構成に関する 2 つの項目についても、どちらも通過できたエントリーシートの評価がより高い。構成に関する項目 1 の有意確率が .005 である。そして、項目 2 の有意確率が .045 である。いずれも有意確率が 5%未満である。そのため、構成面での通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの平均値には有意な差があるとみなせる。

通過できたエントリーシートは、一つ一つの段落を PREP 法、或いは「主張」→「解説」→「結論」の構成で書いており、志望動機の部分で企業・業界分析・仕事を理解できた前提で書いており、結論としている動機と一致している。そして、エントリーシート全体で一つのストーリーになっており、全体的に一貫性がある。一方、通過できなかったエントリーシートでは先に Point を述べているものの、後述の部分は Point の理由になっておらず、最後にもう一度結論をまとめていないという特徴があった。さらに、全体の内容は首尾一貫しておらず、まとまりのない文章となっている。

(3) 言語面

言語に関する 4 つの項目について、項目 1 と項目 2 では通過できたエントリーシートの評価がより高かったが、項目 3 と項目 4 の平均値は必ずしもそうではなかった。通過できなったエントリーシートの評価が通過できたエントリーシートより高かった。このように、言語的な評価に関しては通過できたエントリーシートのほうの評価が高かった質問もあれば、逆に通過できなかったエントリーシートのほうの評価が高い項目もあった。対応サンプルの検定の結果から言語に関する 4 つの項目の有意確率を見るとすべて.05 より大きく、

5%水準で有意ではない。したがって、言語面では有意な差が認められず、両者には言語面で大きな差がないと言える。

６．４．２　考察

前述のように、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートでは、内容及び構成の側面では有意な差があり、言語面ではそれがなかった。それは今回の参加者の日本語能力が、N2 の 3 名を除けば、すべて N1 だったためではないだろうか。日本語のレベルが同じ程度である場合は、より志望会社の特徴や事業内容を表現できているほうが通過できていると言える。「学生時代に力を入れたこと」や「自己 PR」の質問で同じエピソードを書いたものを複数の会社に提出している場合、より構成が整っているほうが通過できていると言える。エントリーシートはかなり特殊な文章ではあるが、留学生が書いたものとして考えた際に、通常のアカデミックライティングと共通する内容もあると考えられる。例えば、文章を PREP 法、或いは「主張」→「解説」→「結論」の構成で書くことは一般的な日本語の文章でも必要とされている。しかし、アカデミックライティングではすべてを網羅できないと思われる。例えば、志望動機ではどのような内容を書くのか、そして採用側に好まれるエピソードはどのような内容であるかはアカデミックライティングでは触れられていないと言える。そのため、エントリーシートに書く内容を含めた書き方の指導はビジネス日本語教育で教えるべきだと考えられる。6.3.2 で挙げた「忘年会」の例のように、文化的な背景を持っていない人に対しては、それに取り組む際の大変さが伝わらず、評価を左右することもありうるため、このようなエピソード選びといった内容に関する指導も必要ではないだろうか。

この調査では、通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートの差を探り、それぞれどのような特徴があるかを明らかにすることができたものの、いくつかの課題が残った。

(1)調査参加者が企業に提出したエントリーシートの中に審査に通過できなかったものもあれば、通過できたものもあり、1 つの用例でその参加者が書いたエントリーシートのすべての問題点を表すのが難しい。そのため、書類審査に一切通過できていないエントリーシートは一体どのような点が問題になっているかを明らかにすることができなかった。

(2)調査参加者に N2 合格者もいたとはいえ、ある程度の日本語能力を持っていると考えられる。そのため、数は少ないものの、N2 合格者であれば、エントリーシートの言語面で

のハードルをクリアできると考えられる。しかし、言語的な原因で落とされるエントリーシートの日本語レベルの境目はどこにあるか未だ不明である。

(3)言語面の分析に関して、誤用の数とエントリーシート全体の文字数を比例させ、評価をするといった単純な評価を行った。しかし、単文や複文では質が異なると考えられる。そのため、今後の分析ではこのような観点を取り入れたい。

(4)今回は 3 名の評価者により、会社の採用側になったつもりで評価を行った。しかし、このような評価が本当に採用側の目線と完全に一致しているとは言いにくい。そのため、今後は採用側の意見も参考にし、評価に協力してもらいたい。

(5)提出先の企業の業界が多岐に渡り、企業の規模も異なるため、評価の基準も一定していないと考えられる。しかし、本研究では評価を行う際に、企業の規模を配慮しなかった。そのため、内容、構成及び言語の 3 つの分析の観点のみで評価するのは足りないと考えられる。そこで、今後は企業の規模や応募人数などの要因も考慮に入れて、評価を行いたい。

７　おわりに

本章では、本研究で行った 3 つの調査の結論をまとめる。そのうえで、研究における問題点と今後の課題について述べる。

７．１　まとめ

従来のビジネス日本語教育では就職後の内容を中心に扱っており、就職前の内容を教えているところはまだ少ないと言える。しかし、数々の選考研究で指摘しているように、就職後に活用できるビジネス日本語と同時に就職活動に必要な日本語も必要である。そのため、本研究では就職活動の段階から実際に仕事をする段階までの段階に焦点を当てて、就職活動に必要な日本語とは何かを明らかにすることを目的とした。まず、ビジネス日本語の教育内容の現状を把握するために、ビジネス日本語教科書を対象に教科書分析を行った。そのうえで、就職活動の筆記試験段階で経験する SPI の非言語能力検査とエントリーシートに注目し、中国人留学生を対象に調査を行った。以下では、それぞれの調査の結論について述べる。

７．１．１　ビジネス日本語の教科書分析

今回の分析対象となった 11 冊のビジネス日本語教科書は初級終了後の中級学習者を対象としており、上級学習者を対象としている教材はまだ少ないと言える。11 冊の教科書で共通する内容を 27 のカテゴリーで分類したが、「就職前」の内容を扱っているのは 2 つのカテゴリーのみであり、「面接」と「企業が求める人材を知る」に関する内容に限られている。また、教科書の中で扱っている内容については、就職前の内容を扱っている教科書は 2 冊のみで、非常に少ないと言っても過言ではない。そして、その 2 冊の教科書も、主に面接での受け答えとエントリーシートとは何かについての内容となっている。さらに、就職後の場面を想定したものにも就職前に活用できる内容はあったものの、それも OB・OG 訪問と面接の段階での活用にとどまり、これらは就職活動・就職前の内容を十分に扱っているとはいえない。以上を踏まえて、ビジネス日本語教育の内容には就職後の内容のみならず、留学生の就職支援を考え、就職をかなえたいというニーズに合った内容を取り入れていくべきではないか。具体的には、就職の各段階に合わせた日本語の指導が必要だと考えられる。エントリーシートを書く能力の養成及び書き方の指導、筆記試験段階での読解や語彙の指導が必要であり、市販の日本人学生向けの対策書のみに頼るのではなく、留学生の特徴にあった指導

内容をもっとビジネス日本語教科書の中に取り入れるべきである。

７．１．２　非言語能力検査に関する調査

就職筆記試験 SPI の非言語能力検査に焦点を当てて、言語的な要素が関わっているかどうかを明らかにするために、調査では20名の中国人留学生を対象に中国語と日本語版のSPI非言語能力検査模擬試験調査を行った。その結果、日本語版問題でより時間をかけているが正答の平均値は中国語版問題の平均値より低いことが分かった。そして、t検定を行った結果、中国語版問題と日本語版問題の解答時間の有意確率が .000 であり、1%水準で有意な差があることが分かった。両言語版の問題に対する正答数の有意確率が .645 であり、有意な差を示さなかった。中国語で SPI の問題に解答するのと日本語で SPI の問題に解答するのと大きいな差がないことがうかがえる。5.3 で検証できたように問題の難易度は同じである。しかし、日本語版問題で中国語版問題より約平均 11 分も多くかけていたにも関わらず、正答数に大きいな違いが見られなかった。有意差もなかったものの、正答数の平均値のみで考えると、解答平均時間が少なかった中国語版問題の平均値が 0.2 のみ高かった。そのため、有意差がないからとはいえ、言語は影響していないと断言できないと考えられる。制限時間を設けて同じ時間で解答してもらう際、必ずしも同じ結果が出るとは限らないと思われる。

７．１．３　エントリーシートの実例調査

この調査では、就職活動を行った経験がある 15 名中国人留学生を対象に、エントリーシートの実例調査を行った。通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートに対し、内容面、構成面及び言語面の 3 つの側面で評価を行い、評価の結果をもとに、ノンパラメトリック検定を行った。その結果、内容及び構成の側面で両者は有意な差があり、言語の側面では有意な差が見られなかった。内容面に関して、通過できたエントリーシートは、自分のやりたいことと志望する会社特徴・事業内容を合致させるように書いており、自分のやりたいことを実証できる具体的なエピソードを提示しているという特徴があった。一方、通過できなかったエントリーシートはこのような内容を十分に書いておらず、志望会社の特徴と自分のやりたいことの接点を書いていないという特徴があった。構成面に関して、通過できたエントリーシートは PREP 法、或いは「主張」→「解説」→「結論」の構成になっており、全体的に論理的で一貫性があるという特徴があった。これに対し、通過でき

なかったエントリーシートは全体の内容は首尾一貫しておらず、主旨がつかみにくいという特徴があった。

このような文章の書き方は通常のアカデミックライティングと共通する内容があるものの、アカデミックライティングではすべてを網羅できないと思われる。例えば、志望動機ではどのような内容を書く、そして採用側に好まれるエピソードはどのような内容であるかはアカデミックライティングで触れられていないと言える。そのため、エントリーシートで書く内容を含めた書き方やエピソード選び方などの指導はビジネス日本語教育で取り入れるべきだと考えられる。

７．２　今後の課題

本研究では 7.1 でまとめたように、第 4 章から第 6 章にかけて、ビジネス日本語の「就職前」の段階について調査を行い、「就職前」の日本語能力について検討した。ビジネス日本語の教育内容の現状を明らかにし、就職筆記試験 SPI の非言語能力検査の部分に関わっている要素を検証でき、通過できたエントリーシートとできなかったエントリーシートの特徴を解明することができたものの、限界と改善の余地がある。

まず、ビジネス日本語の教科書の分析について、ビジネス日本語コンシェルジュも参考にし、教科書を選んだが、それは限られた団体が選んだものであり、偏っている可能性があることを否めない。今後は対象を広げその中からビジネス日本語の教科書を選び、調査を行いたい。

そして、就職筆記試験について、今回解答制限時間を設けずに解答してもらったため、日本語版問題と中国語版問題で正答数に大きな違いが見られなかったという結果になった可能性がある。そのため、今後は対等な時間内で解答してもらい、どのような違いが生じるかを検証する。SPI 模擬試験本調査の参加者に大学生と大学院生が混ざっていた。しかし、日本国内に就職した留学生は大学院生より大学学部生のほうが多い。そのため、今後は学部生のみを対象に調査を行ってみたい。今回の調査参加者はすべて N1 合格者だったため、言語の部分で大きな支障がなかったと思われる。今後は日本語能力が関わっているかどうかを明らかにするために、日本語能力の差が大きい 2 つのグループを対象に調査を行いたい。

また、エントリーシートの調査では、書類審査に一切通過できていないエントリーシートの不足点を何か、言語的な原因で落とされるエントリーシートの日本語レベルの境目はどこにあるかを明らかにすることができなかった。今後は書類審査に通過できていない人を

対象に調査を行ってみる。その際、筆者や日本語教師のみならず、採用側にも協力してもらいたい、その意見を参考し、より実際のエントリーシートの評価に近づける。さらに、企業に提出しているエントリーシートへの評価は相対評価であり、本研究で分析の観点として「内容」、「構成」及び「言語」以外の要素も評価に関わっている可能性がある。そのため、今後は分析の観点をより充実させていきたい。

さらに、本研究で注目している就職前の筆記試験段階とエントリーシートの提出段階以外、留学生は日本での就職活動でどのような問題点を抱えているかを調査し、彼らの日本での就職を支援できるよう、今後も研究を続けていきたい。

参考文献及びウェブサイト

参考文献

粟飯原志信(2015)「再考：ビジネス日本語の定義と領域―ビジネス日本語担当者の不安と疑問の解決を求めて」、『ビジネス日本語教育の展開と課題』、pp105-123

浅原正幸(2019)「日本語の読み時間と節境界情報―主辞後置言語における wrap-up effect の検証―」、『自然言語処理』26 巻 2 号、pp301-327

李在鎬 2011「大規模テストの読解問題作成過程へのコーパス使用の可能性」『日本語教育』、148 号、pp84-98

池田伸子(2001)『ビジネス日本語教育の研究』、東京堂出版

橋玲子(2002)『第 2 言語習得における第 1 言語の関与－日本語学習者の作文産出から－』、風間書房、pp45-67

宇佐美洋(2014)『「非母語話者の日本語」はどのように評価されているか』ココ出版、pp 95-128

大嶋友秀(2006)『PREP 法で簡単に身につく論理的に「話す」技術』株式会社本実業出版社、pp10-30

太田亨・安龍朱・村岡貴子(2018)「韓国人理工系学部入学前予備教性の「論理的文章」に関する意識について」、『第 20 回専門日本語教育学会研究討論会誌』、pp28-29

門倉正美(2006)『アカデミックジャパニーズの挑戦』、ひつじ書房

神谷順子(2010)「日本における外国人留学生の就業に関する研究―大学・企業・行政との連携による就職支援の結果」、『北海学園大学学園論集』143 号、pp67－91

金晶晶(2017)「日本企業への就職を目指す留学生に求められる日本語能力―SPI 模擬試験結果から」修士論文　未公刊

仇文俊 (2016)「中国におけるビジネス日本語教育の体系化に関する一提案･―先行 研究概観に基づいて―」、『地球社会統合科学研究』4、pp51-66

久保田学(2018)『留学生のめの就職内定ワークブック』、日本能率協会マネジメントセンター、pp1-164

経済産業省産業人材参事官室 (2007)「外国人留学生向けの研修のあり方ついて」

神戸大学留学生センター・国際交流課(2016)『STUDY IN KOBE　2016』

後藤淳一(2017)『合格実例集＆セオリー2019　エントリーシート編』、PHP 研究所、pp42-98

小宮山直子・小宮山巧(2016)『魅せる！エントリーシート・履歴書』、一ツ橋書店

近藤彩(2007)『日本人と外国人のビジネス・コミュニケーションに関する実証研究』、ひつじ書房
SPI ノートの会・津田秀樹(2018)『これが本当の SPI3 テストセンターだ！』、株式会社洋泉社
重田美咲・中原郷子(2017)「中国人学部留学生の SPI の解答の傾向」『専門日本語教育研究』19 号、pp63-68
高見澤孟(1994)『ビジネス日本語の教え方』、アルク
滝内ろ子(2017)「大学における「ビジネス日本語」教育」、『神戸医療福祉大学紀要』Vol. 18(1)、pp19-29
中敦子(2009)「就職準備のためのビジネス日本語クスにおけるピア・ラーニングの可能性」、『日本語教育方法研究会会誌』16 巻、pp30-31
中本進一(2010)「教育の一環としの留学生就職支援に関する一考察 ―コンテキスト重視への転換―」、『国際交流センター紀要』4、pp1-20
日本語教材リスト編集委員会(2018)『日本語教材リスト No.47』、凡人社、pp26-36
野元千寿子 (2004)「実戦報告 国際学生に対する『ビジネス日本語教育』の課題」、立命館アジア太平洋大学言語教育センター、『ポリグロシア』 9 、pp155-168
袴田麻里(2009)「静岡県における留学生の就職意識と企業(製造業)の留学生採用意識」、『静岡大学国際交流センター紀要』3 号、pp79－93
橋本智(2011)「ビジネス日本語とアカミックジャパニーズの連続性について－大学におけるビジネス日本語教育の一考察－」、『徳島大学国際センター紀要』、pp1-7
福沢恵子(2010)『アピールポイントが見つかる！エントリーシート対策』、日経就職ナビ編集部、pp37-67
古本裕子(2010)「日本企業への就職を目指す留学生の直面する問題について一模擬試問題から推測する筆記試験 SPI の難しさー」、『名古屋学院大学論集』第 22 巻 1 号、pp83-96
堀井恵子(2013)「留学生の就職とビジネス日本語教育の現状と課題」、ウェブマガジン『留学交流』2013 年 10 月号 VOL.31
堀尾佳以(2015)「外国人留学生の就職支援に関す事例紹介－活動の流れに沿った支援と指導実戦」、ウェブマガジン『留学交流』2015 年３月号、pp48－59
元吉昭一(2004)『就職大全　企業アクセス編』、早稲田教育出版
守屋貴史(2009)『外国人留学生の就職支援と採用・雇用管理』、『立命館経営学』第 47 巻

第 5 号、pp297-316
柳本新二(2016)『最新！SPI3 完全版』、高橋書店
山本いずみ白井聡子(2011)『ビジネスへの日本語－これから社会へ飛びたつ君たちへ』、朝倉書店
ユーキャン就職試験研究会(2015)『ユーキャンの SPI3 問題集』、ユーキャン自国民社
渡邉亮彦・村上聡一郎・宮澤彬・五島圭一・柳瀬利彦・高村大也・宮尾祐介(2017)「TRF テキストの読みやすさ解析ツール」、『言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集』、pp477-480

参考ウェブサイト

海外技術者研修協会日本語教育センター
「教育機関のための外国人留学生ビジネス日本語教育ガイド」(2011)
https://issn.or.jp/pdf/supportguide.pdf
株式会社ディスコホームページ
「海外留学生のキャリア意識と就職活動状況」(2013)
http://www.disc.co.jp/uploads/2013/04/14_ryugakusei.pdf
「外国人留学生の就職活動状況」
https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2017/08/fs201708.pdf
「外国人留学生のビジネス日本語教育に関する調査」(2011)
http://www.disc.co.jp/research_archive/index.htm?cate=gakusei-report&year=2011
「外国人留学生/高度外国人材の採用に関する企業調査」(2017)
https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2017/12/2017kigyou-gaikoku-report.pdf
「平成 7 年における留学生の日本企業等への就職状況について」
http://www.moj.go.jp/content/001207275.pdf
経済産業省委託調査
「平成 24 年度日本企業における高度外国人採用・活用に関する調査」(2012)
http://www.meti.go.jp/policy/asia_jinzai_shikin/surveydata_2012.pdf
「外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査」(2015)

https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/global/pdf/H26_ryugakusei_report.pdf

公益財団法人漢字能力検定協会

「外国人学生の就職と日本語能力に関する調査」レポート (2012)

https://www.kanken.or.jp/bjt/survey_reports/data/survey_reports_report04.pdf

厚生労働省ホームページ

「企業における高度外国人人材活用促進事業報告書」(2010)

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000006fdv.html

「日本再興戦略改訂(2016)」

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf

日本漢字能力検定協会

「大学におけるビジネス日本語教育の実施状況に関する調査」(2013)

https://www.kanken.or.jp/bjt/survey_reports/data/survey_reports_report03.pdf

日本学生支援機構

「平成 27 年度私費外国人留学生生活実態調査」(2016)

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/__icsFiles/afieldfile/2016/12/02/ryujchosa27p00.pdf

「平成 27 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(2016)

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2015/__icsFiles/afieldfile/2016/03/14/data15.pdf

「平成 28 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(2017)

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/__icsFiles/afieldfile/2017/03/30/data16.pdf

「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(2019)

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/__icsFiles/afieldfile/2019/01/16/datah30z1.pdf

日本貿易振興機構

「2017 年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査(JETRO 海外ビジネス調査)(2018)

https://www.jetro.go.jp/ext_images/_News/releases/2018/5f964b3f8b81717b/1.pdf

ビジネス日本語コンシェルジュ

http://j-os.com/japanesematerial/business.html

法務省入国管理局

「平成 29 年における留学生の日本企業への就職状況について」

http://www.moj.go.jp/content/001271107.pdf

マイナビホームページ

「就活 NG 集・エントリーシートの NG」

https://job.mynavi.jp/cnts/2020/pdf/ng/vol01.pdf

留学生就職支援ネットワークホームページ

https://ajinzai-sc.jp/u_situation_issue.html

留学生のための就職活動ハンドブック」（2009）

https://issn.or.jp/pdf/shushokushien.pdf

（2019 年 12 月 26 日最終閲覧）

添付資料

資料１　教科書の分類

内容及び冊数	書　名	冊数
ビジネス場面全般を扱っている教科書	新・にほんご敬語トレーニング、にほんごで働く！ビジネス日本語30時間、ビジネス日本語Drills、新装版ビジネスのための日本語、新装版実用ビジネス日本語、日本語でビジネス会話中級編、日本企業への就職ビジネス会話トレーニング、人を動かす！実戦ビジネス日本語会話、人を動かす！実戦ビジネス日本語会話　中級1、人を動かす！実戦ビジネス日本語会話　中級2、ロールプレイで学ぶビジネス日本語、中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語就活から入社まで、Japanese for Professionals、ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集、すぐに話せる日本語－日本人を知る、すぐに話せる日本語－日本人と働く、Japanese Key Expreeions for Business、NIHONGO EXPRESSⅠ、NIHONGO EXPRESSⅡ、初級から始めようにほんご会話トレーニング、マンガで体験！にっぽんのカイシャ、ビジネスマンのための実践日本語、課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション、ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集、実践で使えるビジネス日本語、オフィスで使うビジネス日本語2300、中上級　日本語ティベート教材－ビジネスを中心にー、ビジネス日本語マスターテキスト	27
看護・介護の仕事をする外国人・技術研修生向けの教科書	介護スタッフのための声掛け表現集、始めよう！外国人のための介護福祉国家試験対策、外国人のための介護福祉士国家試験対策新カリキュラムⅠ「人間と社会」、外国人のための介護福祉士国家試験対策新カリキュラムⅡ「介護」、外国人のための介護福祉士国家試験対策新カリキュラムⅢ「こころとからだのしくみ」、介護の言葉と漢字介護福祉士国家試験対策ウォーミングアップ、介護の言葉と漢字介護福祉士国家試験対策段階別事例問題読解、介護の言葉と漢字ハンドブック、看護・介護の言葉と漢字ワークブック、介護の言葉と漢字ワークブック、介護・看護の漢字ことばN3レベル編、介護・看護の漢字ことばN4レベル編、外国人のための会話で学ぼう！介護の日本語、外国人のための　やさしく学べる介護のことば、外国人のためのやさしく学べる介護の知識・技術、外国人のための看護・介護用語集日本語でケアナビ英語版、介護の日本語場面別声掛け表現集、場面から学ぶ介護の日本語【本冊】、場面から学ぶ看護の日本語【本冊】、あたらしいじっせんにほんご技能実習編	20
特定のビジネススキルを扱っている教科書	しごとの日本語　IT 業務編、しごとの日本語　ビジネスマナー編、しごとの日本語　電話応対基礎編、しごとの日本語　メールの書き方編、しごとの日本語FOR　BEGINNERS会話編、新装版 商談のための日本語、ビジネスケースで学ぶ日本語、日本語ビジネス文書マニュアル、ビジネスコミュニケーションのためのケース学習職場のダイバーシティで学びあう【教材編】、タスクで学ぶ日本語ビジネスメール・ビジネス文書、ビジネス日本語テクスト①内定者編、ビジネス日本語テクスト②新入社員編	12
ビジネスパーソン向けのサバイバル日本語教科書	NIHONGO Breakthrough From survival to communication in Japanese、Basic Japanese for Expats[Book1]、Basic Japanese for Expats[Book2]、Basic Japanese for Expats[Book3]、Let’s Work It Out! Office Japanese For Beginnersビジネスパーソンの初級日常会話、CRASH COURSE JAPANESE FOR BUSINESSビジネス日本語速修コース、日本語でビジネス会話初級編：生活とビジネス、Living in Japan、Japanese Culture、すぐに話せる日本語－日本で暮らす	10
語彙の習得を中心とした教材	ビジネス日本語用例辞典、CATCHY JAPANESE PHRASES、ビジネス情報の見方・読み方、ビジネス情報の見方・読み方　基礎編、ビジネス情報の見方・読み方　応用編、ビジネス用語集	6
BJTビジス日本語能力テスト対策書	わかるビジネス日本語BJTビジネス日本語能力テスト入門、BJT模試と対策、BJTビジネス日本語能力テスト公式模擬テスト＆ガイド、BJT ビジネス日本語能力テスト読解実力養成問題集、BJT ビジネス日本語能力テスト聴解・聴読解実力養成問題集	5
日本の文化やマナーを記述的に紹介する本	Working in Japan、Getting Along with the Japanese、改訂版 日本企業への就職ビジネスマナーと基本のことば、Japanese Industry、	4
本冊の解説書	場面から学ぶ介護の日本語【教師用手引き】、場面から学ぶ看護の日本語【教師用手引き】、ビジネスコミュニケーションのためのケース学習職場のダイバーシティで学びあう【解説編】、じっせん日本語－技術研修編－指導員用参考書	4
その他	サービス日本語－ホテルスタッフ編－	1

資料 2　　非言語能力検査模擬試験調査

中国語版

1.年齢算

某人出生于 20 世纪 70 年代，某年他发现从当年起连续 10 年自己的年龄与当年年份数字之和相等（出生当年算 0 岁）。问他在以下哪一年时，年龄为 9 的整数倍（ ）

A．2006 年　B．2007 年　C．2008 年　D．2009 年　E．以上均不是

2.仕事算

某商铺甲、乙两组员工利用包装礼品的边角料制作一批花朵装饰门店。甲组单独制作需要 10 小时，乙组单独制作需要 15 小时，现两组一起做，期间乙组休息了 1 小时 40 分，完成时甲组比乙组多做 300 朵。问这批花有多少朵（ ）

A．600　B．900　C．1350　D．1500　E．以上均不是

3.速さ・時間・距離

某次军事演习中，一架无人机停在空中对三个地面目标点进行侦察。已知三个目标点在地面上的连线构成直角三角形，两个点之间的最远距离为 600 米。问无人机与三个点同时保持 500 米距离时，其飞行高度为多少米（ ）

A．500　B．600　C．300　D．400　E．以上均不是

4.濃度算

面包房购买一包售价为 15 元/千克的白糖, 取其中的一部分加水溶解形成浓度为 20%的糖水 12 千克, 然后将剩余的白糖全部加入后溶解, 糖水浓度变为 25%, 问购买白糖花了多少钱（ ）

A．45　B．48　C．36　D．42　E．以上均不是

5.鶴亀算

某超市购入每瓶 200 毫升和 500 毫升两种规格的沐浴露各若干箱，200 毫升沐浴露每箱 20 瓶，500 毫升沐浴露每箱 12 瓶，定价分别为 14 元/瓶和 25 元/瓶。货物卖完后，发现两种规格沐浴露销售收入相同，那么这批沐浴露中，200 毫升的最少有几箱（ ）

A．3　B．8　C．10　D．15　E．以上均不是

6.確率

某集团企业 5 个分公司分别派出 1 人去集团总部参加培训，培训后再将 5 人随机分配到这 5 个分公司，每个分公司只分配 1 人。问 5 个参加培训的人中，有且仅有 1 人在培训后返回原分公司的概率为（ ）

A．低于 20%　B．在 20%~30%之间　C．在 30%~35%之间

D．大于 35%　　E．以上均不是

7.損益算

某人租下一店面准备卖服装，房租每月 1 万元，重新装修花费 10 万元。从租下店面到开始营业花费 3 个月时间。开始营业后第一个月，扣除所有费用后的纯利润为 3 万元。如每月纯利润比上月增加 2000 元而成本不变，问该店在租下店面后第几个月收回投资（ ）

A．7　　B．8　　C．9　　D．10　　E．以上均不是

8. 集合

小张需要在 5 个长度分别为 15 秒、53 秒、22 秒、47 秒、23 秒的视频片段中选取若干个，合成为一个长度在 80~90 秒之间的宣传视频。如果每个片段均需完整使用且最多使用一次，并且片段间没有空闲时段，问他按照要求可能做出多少个不同的视频（ ）

A．12　　B．6　　C．24　　D．18　　E．以上均不是

日本語版

1. 年齢算

現在、祖父と孫の年齢の和は 69 歳である。3 年前、祖父の年齢は孫の年齢の６倍だった。祖父の年齢が孫の年齢の 4 倍になるとき、孫は何歳になるか。

Ａ 9 歳　　Ｂ 12 歳　　Ｃ 15 歳　　Ｄ 16 歳　　Ｅ ＡからＤいずれでもない

2. 仕事算

Ｍだけですると８時間かかる仕事がある。この仕事をＭとＮの２人ですることになり、最初にＭだけが３時間したあと、残りをＭとＮの２人ですると合計で６時間かかった。この仕事を最初から最後までＮだけですると何時間かかるか。

Ａ 10 時間　　Ｂ 11 時間　　Ｃ 12 時間　　Ｄ 13 時間　　Ｅ ＡからＤいずれでもない

3. 速さ・時間・距離

ＰとＱは別々の車に乗り、Ｓ駅からＴホテルに行くことになった。ＱはＰが出発してから８分後にＳ駅を出発したところ、Ｐと同時にＴホテルに到着した。２人が乗った車はそれぞれ一定の速さで走り、Ｐの車は時速 45km、Ｑの車は時速 55Km であるとき、Ｓ駅からＴホテルまでの距離は何 km か。

Ａ 33Km　　Ｂ 30Km　　Ｃ 36km　　Ｄ 27Km　　Ｅ ＡからＤいずれでもない

4. 濃度算

12％の食塩水 300ｇに水と食塩を加えて 8％の食塩水 500ｇを作りたい。水を何ｇ加えれば

よいか。

A 190ｇ　　B 192ｇ　　C 194ｇ　　D 196ｇ　　E AからDいずれでもない

5. 鶴亀算

100 円硬貨と 500 円硬貨が合わせて 22 枚あり、合計金額は 7400 円だった。100 硬貨は何枚あるか。

A ８枚　　B ９枚　　C 10 枚　　D 11 枚　　E AからDいずれでもない

6. 確率

袋の中に赤玉３個、白玉４個、青玉４個が入っている。この袋の中から３個の玉を同時に取り出すとき、３個とも違う色が出てくる確率はいくらか。

A $\frac{7}{16}$　　B $\frac{16}{55}$　　C $\frac{7}{55}$　　D $\frac{7}{12}$　　E AからDいずれでもない

7. 損益算

ある品物を 500 個仕入れ、４割の利益を見込んで定価をつけて売ったところ、100 個が売り残った。売り残った商品を３割引の 2940 円で売ったところ、すべて売り切った。利益の総額はいくらか。

A 474000 円　　B 512000 円　　C 426000 円

D 368000 円　　E AからDいずれでもない

8. 集合

旅行好きの 300 人を対象にアンケート調査をしたところ，北海道に行ったことがある人が 178 人、沖縄に行ったことがある人が 135 人いた。また、どちらにも行ったことがない人は 54 人だった。どちらか一方にだけ行ったことがある人は何人か。

A 155 人　　B 164 人　　C 179 人　　D 187 人　　E AからDいずれでもない

資料 3　　日本語原文　中国語への翻訳　日本語への逆翻訳

日本語版原文

1. ある商店では、商品 P を 40 個仕入れした。そして、仕入れ値に 40%の利益をのせて定価を設定した。この商店で、商品 P を定価で 28 個売った後、残りを定価の 10%引きにしたところ、すべて売り切れて 8952 円の利益が得られた。商品 P の仕入れ値はいくらか。

2. 就職活動用として新しいスーツとシャツなどを購入した。その際、購入時に総額の 1 割を支払い、残りを全 10 回の均等払いにした。7 回目を支払い終わった後、残りを一括で支払う。残りの支払額は支払総額のどれだけに相当するか。ただし、利子はかからないものとする。

3. 香川君、本田君、岡崎君の 3 人が、川島君に内定祝いのプレゼントをした。香川君は 30000 円のかばんを買い、本田君は 16000 円のネクタイを買った。岡崎君は 8000 円のシャツを買った。3 人で同額ずつ負担する場合、岡崎君は香川君にいくら支払えばよいか。

4. X 組の生徒と Y 組の生徒が 5 人ずつ、合わせて 10 人いる。この中から掃除当番を 4 人選びたい。X 組の生徒が 3 人、Y 組の生徒が 1 人になるように選びとすると、掃除当番の選び方は何通りあるか。

5. P、Q を含む 5 人が買い物に出かける。自転車が２台あるので、自転車に乗る２人をくじで決めることにした。くじが５本あり、一度引いたくじはもとに戻さないものとする。くじは１番目に P、２番目に Q が引くことにした。P、Q がともに自転車に乗れる確率はどれだけか。

6. 弟は 9 時に家を出て、分速 80m の速さで駅に向かって歩いている。兄は 9 時 30 分に家を出て、自転車に乗り、分速 240m の速さで弟を追いかけた。兄が弟に追いつくのは家から何km の地点か。

7. 次の表はあるクラスで行った 50 点満点の理科のテストの成績と人数を表したものである。21 点以上の生徒の平均点としてあり得るのはどの組合せか。必要なときは、最後に小

数第 2 位を四捨五入すること。

得点	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50
人数	4	6	12	8	5

ア　25.6 点　　イ　29.8 点　　ウ　34.5 点　　エ　38.2 点

8. ある動物園の入園料は 1 人 1500 円である。この動物園では 26 人以上の団体に対し、25 人を超えた分について入園料 2 割引にする団体割引を行っている。60 人が 30 人ずつ 2 回に分かれて入園する場合と、60 人で一度入園する場合とでは、入園料の総額はいくら異なるか。

9. 500 人を対象に車に関するアンケート調査を行った。「車を選ぶ際にもっとも重視するポイントは何ですか(複数回答可)」という質問に対し、デザインを答えた人が 192 人、価格と答えた人が 158 人いた。デザインも価格も重視する人が 87 人いたとき、デザインと価格、どちらも重視しない人は何人いるか。

10. ある床面 1 ㎡を塗るのに必要なペンキの量は 350ml である。8 ㎡の床面をピンクに塗りたい。赤のペンキに、その量の 25%にあたる量の白のペンキを混ぜて塗るとすると、白のペンキは何 ml 必要か(必要なときは、最後に小数点以下第 1 位を四捨五入すること)。

中国語翻訳版

1. 某商店采购了 40 个 P 商品，在进价基础上加上 40%的利润作为出售价。这家商店在将 P 商品卖出 28 个后，将剩余的便宜 10%出售，全部售完获得了共 8592 日元的利润。问 P 商品的进价为多少？

2. 某某为了找工作买了新的西装与衬衫，付款时在购买时只付了 10%，之后均匀 10 次分期付款.在付完第 7 次之后，将剩下的金额一次付清。问剩下的金额是总金额的多少？注意利息不计。

3. 香川，本田与冈崎三人为了给川岛庆祝找到工作，给他买了礼物。香川买了 30000 日元的包，本田买了 16000 日元的领带，冈崎买了 8000 日元的衬衫。如果 3 人将总额平摊的话，冈

崎该给香川多少钱？

4．X 组和 Y 组每组各有 5 名学生，一共 10 人，想从中选出 4 人作为卫生值日生。如果从 X 组的学生里选 3 人，Y 组的学生里选 1 人，卫生值日生的选择方案有多少种？

5．P，Q 等 5 个人要一起出去买东西，但只有 2 辆自行车，现用抽签的方式决定谁来骑自行车，签共有 5 只，签抽过之后不会再被放回。第一个抽签的是 P，第二个抽签的是 Q。问 P 和 Q 两人都能骑上自行车的概率为多少？

6．弟弟 9 点钟从家出发，以每分钟 80m 的速度走向车站。哥哥 9 点 30 分从家出发，骑着自行车以每分钟 240m 的速度去追弟弟。问在离家多少千米处哥哥能追上弟弟？

7．以下表格反应的是某班满分为 50 分的理科考试的成绩与相应的人数，21 分以上的学生的平均分可能的是下面哪个选项。如果需要，可以四舍五入第 2 个小数点。

得点	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50
人数	4	6	12	8	5

ア　25.6 点　　イ　29.8 点　　ウ　34.5 点　　エ　38.2 点

8．某动物园的门票为每人 1500 日元。但这家动物园对 26 人以上的团体实施团体优惠，超过 25 人的部分便宜 20%。问 60 人分成两组每组各 30 人分别入园和 60 人一起入园的门票总额差距为多少？

9．现有一项针对 500 人做的有关购车的问卷调查。对于【购车时最重视哪一点？（可多选）】的问题， 192 人选了车的设计， 158 人选了车的价格。如果选了既重视设计又重视价格的人有 87 人，那么既不重视设计又不重视价格的人有多少？

10. 涂刷 1 ㎡某地板所需的需用 350ml 涂料，现在想将 8 ㎡的地板涂成粉色。如果将红色油漆混合红色油漆量 25%的白色油漆成粉色，需要白色油漆多少毫升？（如需要，最后四舍五入不保留小数点）

日本語逆翻訳版

1. ある商店は、商品 P を 40 個仕入れました。仕入れ値に 40%の利益を加え、売価として販売しています。その売価で 20 個を売り出した後、残った分は 10%安くして販売することにし、売り切れたら 8925 円の利益を得ました。商品 P の仕入れ値はいくらですか。

2. ○○さんは就活のため、新しいシャツとスーツを買いました。購入時は定価の 10%だけを払い、あとは 10 回に均等に分割払いにしました。もし 7 回目払った後、残った分を一括で全部払うとしたら、その「残った分」は定価の何%ですか（利子は計算しない）。

3. 香川さん、本田さんと岡崎さんは、川島さんの内定祝いのため、それぞれプレゼントを買いました。香川さんは 30,000 円のバッグを買い、本田さんは 16,000 円のネクタイ、そして岡崎さんは 8,000 円のシャツを買いました。すべてのプレゼントの総額を 3 人で割り勘をするとき、岡崎さんは香川さんに何円を渡さなければならないですか。

４．X 組と Y 組それぞれ学生 5 名がいて、全部で 10 人です。その中から 4 人を選んで日直にします。もし X 組から 3 人を選び、そして Y 組から 1 人を選ぶなら、選び方は全部で何通りがありますか。

５．P、Q たちは 5 人で買い物に出かけようとしています。自転車は 2 台しかないので、くじ引きで誰が乗るかを決めることになりました。くじは 5 本あり、引いたくじはもとに戻さないとき、もし一番目が P、二番目が Q だったら、P と Q 二人とも自転車に乗ることになる確率はどれくらいですか。

6. 弟は 9 時に家から出発し、1 分あたり 80 メートルのスピードで駅に向かうとします。兄は 9 時 30 分に出発し、自転車で 1 分あたり 240 メートルのスピードで弟を追いかけるとしたら、追いついたところは家から何 km ありますか。

７．以下の表にはあるクラスの理科試験（50 点満点）の得点状況を反映しています。21 点以上の学生の平均点として可能なのは、以下のどちらですか（必要であれば小数点 1 桁まで四捨五入する）。

８．ある動物園の入場料は 1,500 円/人です。26 人以上のグループはグループ割引があり、25 人分を超える分は 20%安くすることができます。60 人のグループがあるとしたら、30 人 1 組で 2 組に分けて入場する場合と 60 人で一緒に入場する場合と比べて、入場料の総額の差はいくらですか。

９．車の購入について、500 人にアンケート調査を行いました。「車を購入するとき、何を一番重要だと思いますか。(複数選択可)」という質問に対して、192 人が車のデザインを選び、158 人が値段を選びました。87 人がデザインと値段両方とも選んだとしたら、デザインも値段も選ばなかった人は何人いますか。

10．あるフローリングの塗装作業をするとき、1 ㎡には 350ml の塗料が必要になります。8 ㎡のフローリングをピンク色に塗装する場合、もし赤い塗料に、赤い塗料の 25%の白い塗料を加えてピンク色にしたら、必要となる白い塗料のボリュームは何 ml ですか（必要であれば四捨五入して整数にする)。

資料 4　　非言語能力検査の問題(中国語版)

1. 某商店采购了 40 个 P 商品，在进价基础上加上 40%的利润作为出售价。这家商店在将 P 商品卖出 28 个后，将剩余的便宜 10%出售，全部售完获得了共 8592 日元的利润。问 P 商品的进价为多少？

A　322 日元　　B　369 日元　　C　400 日元　　D　456 日元　　E　524 日元

F　600 日元　　G　640 日元　　H 698 日元　　I　725 日元　　J A～I 均不符合

2. 某某为了找工作买了新的西装与衬衫，付款时在购买时只付了 10%，之后均匀 10 次分期付款.在付完第 7 次之后，将剩下的金额一次付清。问剩下的金额是总金额的多少？注意利息不计。

A $\frac{3}{10}$　　B $\frac{1}{30}$　　C $\frac{7}{10}$　　D $\frac{3}{100}$　　E $\frac{27}{100}$

F $\frac{31}{100}$　　G $\frac{17}{100}$　　H $\frac{19}{100}$　　I $\frac{21}{100}$　　J A～I 均不符合

3. 香川，本田与冈崎三人为了给川岛庆祝找到工作，给他买了礼物。香川买了 30000 日元的包，本田买了 16000 日元的领带，冈崎买了 8000 日元的衬衫。如果 3 人将总额平摊的话，冈崎该给香川多少钱？

A　10000 日元　　B　12000 日元　　C　14000 日元　　D　15000 日元

E　16000 日元　　F　17000 日元　　G　18000 日元　　H　19000 日元

I　20000 日元　　J　A～I 均不符合

4. X 组和 Y 组每组各有 5 名学生，一共 10 人，想从中选出 4 人作为卫生值日生。如果从 X 组的学生里选 3 人，Y 组的学生里选 1 人，卫生值日生的选择方案有多少种？

A　15 种　　B　30 种　　C　40 种　　D　45 种　　E　50 种

F　60 种　　G　75 种　　H　80 种　　I　90 种　　J A～I 均不符合

5. P, Q 等 5 个人要一起出去买东西，但只有 2 辆自行车，现用抽签的方式决定谁来骑自行车，签共有 5 支，签抽过之后不会再被放回。第一个抽签的是 P，第二个抽签的是 Q。问 P 和 Q 两人都能骑上自行车的概率为多少？

A $\frac{2}{25}$　　B $\frac{1}{10}$　　C $\frac{3}{25}$　　D $\frac{3}{20}$　　E $\frac{1}{5}$

F $\frac{6}{25}$　　G $\frac{9}{25}$　　H $\frac{2}{5}$　　I $\frac{3}{5}$　　J A～I 均不符合

6. 弟弟 9 点钟从家出发，以每分钟 80m 的速度走向车站。哥哥 9 点 30 分从家出发，骑着自行车以每分钟 240m 的速度去追弟弟。问在离家多少千米处哥哥能追上弟弟？

A　2.8km　　B　3.0km　　C　3.2km　　D　3.4km　　E　3.6km

F　3.8km　　G　4.0km　　H　4.2km　　I　4.4km　　J A～I 均不符合

7. 以下表格反映的是某班满分为 50 分的理科考试的成绩与相应的人数，21 分以上的学生的平均分可能的是下面哪个选项。必要时可以四舍五入第 2 个小数点。

得点	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50
人数	4	6	12	8	5

a　25.6 点　　b　29.8 点　　c　34.5 点　　d　38.2 点

A　只有 a　　B　只有 b　　C　只有 c　　D　只有 d　　E　a 和 b

F　b 和 c　　G　c 和 d　　H　a 和 b 和 c　　I　b 和 c 和 d

J　a 和 b 和 c 和 d 全部

8. 某动物园的门票为每人 1500 日元。但这家动物园对 26 人以上的团体实施团体优惠，超过 25 人的部分便宜 20%。问 60 人分成两组每组各 30 人分别入园和 60 人一起入园的门票总额差距为多少？

A　1500 日元　　B　3000 日元　　C　4500 日元　　D　5000 日元

E　6000 日元　　F　7500 日元　　G　9000 日元　　H　10500 日元

I　12000 日元　　J　A～I 均不符合

9. 现有一项针对 500 人做的有关购车的问卷调查。对于【购车时最重视哪一点？（可多选）】的问题，192 人选了车的设计，158 人选了车的价格。如果选了既重视设计又重视价格的人有 87 人，那么既不重视设计又不重视价格的人有多少？

A　34 人　　B　63 人　　C　71 人　　D　223 人　　E 237 人　　F　308 人

G 342 人　　H　413 人　　I　437 人　　J　A～I 均不符合

10. 涂刷 1 ㎡某地板所需的需用 350ml 涂料，现在想将 8 ㎡的地板涂成粉色。如果将红色油漆混合红色油漆量 25%的白色油漆成粉色，需要白色油漆多少毫升？（如需要，最后四舍五入不保留小数点）

A　88ml　　B　263ml　　C　280ml　　D　300ml　　E 350ml　　F　560ml

G 620ml　　H　700ml　　I　732ml　　J　A～I 均不符合

11. 某商店采购了 200 个成本价为 300 日元的商品，在成本价上增加了 4 成的利润出售之后，剩了 60 个没卖出去。之后，把剩下的以便宜 2 成的价格卖出，结果全部卖完。问利润的总额是多少？

A　17960 日元　　B　18460 日元　　C　18960 日元　　D　19460 日元

E　19960 日元　F　20460 日元　　G 20960 日元　　H　21460 日元

I　21960 日元　J　　A～I 均不符合

12. 某人在购买电视时决定分 6 次付款。第一次付了总额的$\frac{1}{4}$，第二次之后均匀付款。付完第 4 次之后，未付的金额是总额的多少？

A $\frac{3}{20}$　　B $\frac{1}{4}$　　C $\frac{3}{10}$　　D $\frac{2}{5}$　　E $\frac{9}{20}$

F $\frac{1}{2}$　　G $\frac{3}{5}$　　H $\frac{3}{4}$　　I $\frac{4}{5}$　　J　A～I 均不符合

13. 冈村，中岛和大岛给矢田庆祝结婚。冈村买了 38000 日元的手表。中岛买了 25000 日元的立伞架。在清算之前 3 人就去了矢田家。当时，大岛提前支付了出租车费。在清算的时候大岛给了冈村 16000 日元。问大岛给中岛多少才算公平？

A　1000 日元　　B 2000 日元　　C 3000 日元　　D 5000 日元

E　6000 日元　　F　7000 日元　　G 8000 日元　　H　9000 日元

I　10000 日元　　J　　A～I 均不符合

14. 用 1，2，4，7 这 4 个数字来组成 3 位数。同样的数字可以反复使用。问可以组成多少个 440 以上的数字？

A　2 个　　B 8 个　　C 12 个　　D 16 个　　E 24 个

F　32 个　　G 36 个　　H　48 个　　I　64 个　　J　A～I 均不符合

15. P，Q 等 5 个人要一起出去买东西。但只有 2 辆自行车，现用抽签的方式决定谁来骑自行车。签共有 5 支，签抽过之后不会再被放回。第一个抽签的是 P，第二个抽签的是 Q。P 和 Q 其中有一个人可以骑车的概率是多少？

A $\frac{2}{25}$　　B $\frac{1}{10}$　　C $\frac{3}{25}$　　D $\frac{3}{20}$　　E $\frac{1}{5}$

F $\frac{6}{25}$　　G $\frac{9}{25}$　　H $\frac{2}{5}$　　I $\frac{3}{5}$　　J　A～I 均不符合

16. 敦子早上 7 点 40 分从家出发，以每分 50m 的速度走向车站，8 分钟后发现她忘了东西的姐姐优子骑着自行车以每分钟 150m 的速度追她。问什么时候优子能追上敦子？

A　7 点 44 分　　B 7 点 52 分　　C 7 点 54 分　　D 7 点 56 分　　E 7 点 58 分

F　8 点　　G 8 点 2 分　　H 8 点 4 分　　I 8 点 6 分　　J　A～I 均不符合

17. 以下是某个书店总结的销售额，如果杂志的销售额占总销售额的 40%的话，杂志的销售额是多少？

杂志	连载漫画	实用书	文艺书	总计
	155 万	90 万	85 万	

A 200 万日元　　B 204 万日元　　C 208 万日元　　D 212 万日元

E 216 万日元　　F 220 万日元　　G 224 万日元　　H 228 万日元

I 232 万日元　　J A～I 均不符合

18. 春假的时候去了电影馆。这个期间当中，小孩子的费用是大人的半价。而且，大人和小孩子加起来去 30 个人的话，会有团体折扣，大人费用便宜 10%，小孩费用便宜 20%。假设大人费用是 2000 日元，那么 20 个大人，15 个小孩子一起入馆的总费用是多少？

A 46000 日元　　B 48000 日元　　C 50000 日元　　D 51000 日元

E 53000 日元　　F 55000 日元　　G 57000 日元　　H 59000 日元

I 61000 日元　　J A～I 均不符合

19. 以 300 个喜欢旅行的人为对象做了问卷调查。去过北海道的人有 178 人，去过冲绳的有 135 人。还有，两个都没去过的人有 54 人。问去过其中一个的人有多少？

A 67 人　　B 92 人　　C 115 人　　D 134 人　　E 155 人　　F 179 人

G 196 人　　H 227 人　　I 246 人　　J A～I 均不符合

20. 在某中学，全体学生的 84%有参加社团活动。在有参加社团活动的学生当中 75%属于运动部，在那当中有 30%属于足球部。问属于足球部的学生占全体学生的多少%？

A 9%　　B 11%　　C 13%　　D 16%　　E 19%　　F 21%

G 23%　　H 30%　　I 32%　　J A～I 均不符合

資料5　フェースシート

フェースシート

１.お名前：

２.現在の大学・学部・学年：

３.日本語能力(例：日本語能力試験Ｎ２、110 点)：

４.来日年数：

５.直近の GPA：

６.メールアドレス：

資料 6　エントリーシートの調査票

研究調査票

本調査で頂いた全てのデータを研究以外の目的で利用することはなく、責任を持って守秘することを約束します。また、個人情報を保護するため、研究論文中は名前を符号に置き換えます。必要な項目に記入したうえ、書類審査に通過できたエントリーシートと通過できなかったエントリーシートをそれぞれ一つ添付してください。

１．お名前：

２．現在の大学・学部(研究科)・学年：

３．日本語能力試験の受験の有無：

A. ある(受験年数＿＿＿＿　レベル＿＿＿＿　点数＿＿＿＿)

B. ない(EJU 日本語科目の受験年数＿＿＿＿　レベル＿＿＿＿　点数＿＿＿＿)

４．来日年数：

５. 直近の GPA：

６．書類審査に**通過した**エントリーシート(書類審査と筆記試験が**個別**審査されたものに限る)

- 提出した会社：

- 提出した内容(志望動機、学生時代に力入れたこと、希望職種・分野、希望会社でやりたいことなどの作文した内容すべてを添付してください。)：

７．書類審査に通過できなかったエントリーシート（書類審査と筆記試験が個別審査されたものに限る）：

- 提出した会社：

- 提出した内容（志望動機、学生時代に力入れたこと、希望職種・分野、希望会社でやりたいことなどの作文した内容すべてを添付してください。）：

資料７　エントリーシートの評価シート

エントリーシート番号：

ES①

１．希望した会社で自分のやりたいことの根拠を説明できている。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

２．学生時代に力入れたことや、自己 PR で具体的なエピソードを用いて説明できている。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

３．志望動機の部分では、企業・業界分析・仕事を理解できた前提で書いており、結論としている動機と一致している。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

４．段落ごとが首尾一貫しており、全体のまとまりがある。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

５．文法的な間違いがない。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

６．誤字脱字の有無。(変換ミスなどを含む)。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

７．書きことばと話しことばの混同がなく、普通体と丁寧体が混ざっていない。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

８．語彙の間違いがない。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

ES②

１．希望する会社で自分のやりたいことの根拠を説明できている。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

２．学生時代に力入れたことや、自己 PR で具体的なエピソードを用いて説明できている。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

３．志望動機の部分では、企業・業界分析・仕事を理解できた前提で書いており、結論としている動機と一致している。

a.そう思わない　b.あまりそう思わない　c.どちらかいえばそう思う　d.そう思う

４．段落ごとが首尾一貫しており、全体のまとまりがある。

a. そう思わない　　b. あまりそう思わない　　c. どちらかいえばそう思う　　d. そう思う

５．文法的な間違いがない。

a. そう思わない　　b. あまりそう思わない　　c. どちらかいえばそう思う　　d. そう思う

６．全体的に誤字脱字がない。

a. そう思わない　　b. あまりそう思わない　　c. どちらかいえばそう思う　　d. そう思う

７．書きことばと話しことばの混同がなく、普通体と丁寧体が混ざっていない。

a. そう思わない　　b. あまりそう思わない　　c. どちらかいえばそう思う　　d. そう思う

８．語彙の間違いがない。

a. そう思わない　　b. あまりそう思わない　　c. どちらかいえばそう思う　　d. そう思う

評価者：

謝　辞

本論文の作成にあたり、たくさんの方々のご指導・ご協力を頂きました。ここではまず、博士課程前期課程及び後期課程の指導教員である齊藤美穂准教授に深く拝謝いたします。齊藤先生は常に熱心に指導してくださり、先生からは知識のみならず、研究者として、教育者としてあるべき姿勢も学びました。先生のご指導なくしては、3 年間で博士論文をまとめることはできませんでした。本当にありがとうございました。また、集団指導で様々な観点から研究に取り組むようコメントをくださった言語コミュニケーションコースの先生方、特に論文のデータの処理において、統計学の手法について貴重なご意見をくださった田中順子教授に深く感謝致します。ご多忙の中、お時間を割いていただき、ありがとうございました。

本論文を完成させるにあたり、100 人近くの方々に協力していただき、調査に参加していただきました。この場を借りて、その方々にも心よりお礼を申し上げます。さらに、SPI の対策書に掲載されている問題の使用を許可してくださった株式会社ユーキャン学び出版、株式会社洋泉社及び高橋書店、調査の段階でエントリーシートの評価に協力してくださった内田さつきさん、三井絢子さん、論文の日本語のチェックをしてくださった藤田航輝さん、井手美希さんに感謝の意を示します。

最後になりましたが、留学生活と学業に支障が出ないよう支援し、見守り続けてくれた両親、そして気持ちが沈んだ時に精神的に支え続けてくれた麗峰さんに感謝します。

令和 2 年 1 月